

【思想文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
5131001	哲学	特殊講義	2	前期	集中	榊原 哲也		思想文化学系1
5131002	哲学	特殊講義	2	前期	集中	山田 圭一		思想文化学系2
5131003	哲学	特殊講義	2	後期	火3	佐金 武		思想文化学系3
5131004	哲学	特殊講義	2	前期	月2	大塚 淳		思想文化学系4
5131005	哲学	特殊講義	2	後期	月2	大塚 淳		思想文化学系5
5131006	哲学	特殊講義	2	前期	集中	田中 泉吏		思想文化学系6
5141001	哲学	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介		思想文化学系7
5141002	哲学	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介		思想文化学系8
5141003	哲学	演習	2	前期	木2	安部 浩		思想文化学系9
5141004	哲学	演習	2	後期	木2	安部 浩		思想文化学系10
5141005	哲学	演習	2	前期	火4	戸田 剛文		思想文化学系11
5143001	哲学	演習I	2	前期	月4	出口 康夫		思想文化学系12
5143002	哲学	演習I	2	後期	水3	出口 康夫		思想文化学系13
5143003	哲学	演習I	2	前期	火2	八木沢 敬		思想文化学系14
5143004	哲学	演習I	2	前期	火4	大塚 淳	大学院横断教育科目	思想文化学系15
5143005	哲学	演習I	2	後期	火4	大塚 淳		思想文化学系16
5143006	哲学	演習I	2	後期	火2	八木沢 敬		思想文化学系17
5143007	哲学	演習I	2	前期	月5	大西 琢朗		思想文化学系18
5143008	哲学	演習I	2	後期	月5	大西 琢朗		思想文化学系19
5143009	哲学	演習I	2	前期	月3	犬飼 由美子		思想文化学系20
M228001	哲学	演習I	2	前期	金4,金5	出口 康夫,大塚 淳		思想文化学系21
M228002	哲学	演習I	2	後期	金4,金5	出口 康夫,大塚 淳		思想文化学系22
M450001	哲学	語学	2	前期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	思想文化学系23
M451001	哲学	語学	2	後期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	思想文化学系24
M452001	哲学	語学	2	前期	水1	勝又 泰洋	大学院共通科目	思想文化学系25
M453001	哲学	語学	2	後期	水1	勝又 泰洋	大学院共通科目	思想文化学系26
5231001	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	金4	西村 洋平	古代	思想文化学系27
5231002	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	岩田 直也	古代	思想文化学系28
5231003	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	金4	西村 洋平	古代	思想文化学系29
5231004	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	月5	中畑 正志	古代	思想文化学系30
5231005	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	月5	早瀬 篤	古代	思想文化学系31
5234001	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	永嶋 哲也	中世	思想文化学系32
5234002	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	木2	周藤 多紀	中世	思想文化学系33
5236001	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	木2	大河内 泰樹	近世	思想文化学系34
5236002	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	木2	大河内 泰樹	近世	思想文化学系35
5236004	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	池田真治	近世	思想文化学系36
5240001	西洋哲学史	演習	4	通年	金2	中畑 正志	古代	思想文化学系37
5240002	西洋哲学史	演習	4	通年	木4,木5	中畑 正志,早瀬 篤	古代	思想文化学系38
5241001	西洋哲学史	演習	2	前期	火3	早瀬 篤	古代	思想文化学系39
5241002	西洋哲学史	演習	2	後期	火3	早瀬 篤	古代	思想文化学系40
5242001	西洋哲学史	演習	4	通年	木4,木5	周藤 多紀	中世	思想文化学系41
5243001	西洋哲学史	演習	2	前期	金4	井澤 清	中世	思想文化学系42
5243002	西洋哲学史	演習	2	後期	金4	井澤 清	中世	思想文化学系43
5243003	西洋哲学史	演習	2	前期	月4	周藤 多紀	中世	思想文化学系44
5243004	西洋哲学史	演習	2	後期	月4	周藤 多紀	中世	思想文化学系45
5244001	西洋哲学史	演習	4	通年	金4,金5	大河内 泰樹	近世	思想文化学系46
5245001	西洋哲学史	演習	2	後期	水5	大河内 泰樹	近世	思想文化学系47
5245003	西洋哲学史	演習	2	前期	水5	大河内 泰樹	近世	思想文化学系48
5245004	西洋哲学史	演習	2	後期	木5	中川 明才	近世	思想文化学系49
5245005	西洋哲学史	演習	2	前期	木5	中川 明才	近世	思想文化学系50
5331001	日本哲学史	特殊講義	2	前期	水5	上原 麻有子		思想文化学系51
5331002	日本哲学史	特殊講義	2	後期	水5	上原 麻有子		思想文化学系52
5331003	日本哲学史	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系53
5331004	日本哲学史	特殊講義	2	後期	火3,火4	James W. Heisig	隔週開講	思想文化学系54
5331005	日本哲学史	特殊講義	2	前期	集中	竹花 洋佑		思想文化学系55
5331006	日本哲学史	特殊講義	2	後期	木3	廖钦彬		思想文化学系56
5331007	日本哲学史	特殊講義	2	前期	木2	大河内泰樹		思想文化学系57
M241001	日本哲学史	特殊講義	2	後期	金3	安部 浩	(自己存在論1)	思想文化学系58

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M244001	日本哲学史	演習II	4	通年	不定	上原 麻有子	金(前期)3-4, 金(後期)4-5	思想文化学系59
5430001	倫理学	特殊講義	4	通年	火3	水谷 雅彦		思想文化学系60
5431001	倫理学	特殊講義	2	前期	集中	神崎 宣次		思想文化学系61
5431002	倫理学	特殊講義	2	前期	金2	児玉 聡		思想文化学系62
5431003	倫理学	特殊講義	2	後期	金2	児玉 聡		思想文化学系63
5431004	倫理学	特殊講義	2	前期	月2	児玉 聡		思想文化学系64
5440001	倫理学	演習	4	通年	火4	水谷 雅彦		思想文化学系65
5440002	倫理学	演習	4	通年	金4	水谷 雅彦		思想文化学系66
5443003	倫理学	演習	2	前期	金5	永守 伸年		思想文化学系67
5443004	倫理学	演習	2	後期	金5	永守 伸年		思想文化学系68
5443005	倫理学	演習	2	前期	水4	佐藤 義之		思想文化学系69
5443006	倫理学	演習	2	後期	水4	佐藤 義之		思想文化学系70
5531001	宗教学	特殊講義	2	後期	火3,火4	James W. Heisig	隔週開講	思想文化学系71
5531002	宗教学	特殊講義	2	後期	月5	鬼頭 葉子		思想文化学系72
5531003	宗教学	特殊講義	2	前期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系73
5531004	宗教学	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系74
5531005	宗教学	特殊講義	2	前期	火4	伊原木 大祐		思想文化学系75
5531006	宗教学	特殊講義	2	後期	火5	伊原木 大祐		思想文化学系76
5541001	宗教学	演習	2	前期	水5	杉村 靖彦		思想文化学系77
5541002	宗教学	演習	2	後期	水5	杉村 靖彦		思想文化学系78
5541003	宗教学	演習	2	後期	木2	安部 浩		思想文化学系79
5541004	宗教学	演習	2	前期	火3	伊原木 大祐		思想文化学系80
5541005	宗教学	演習	2	後期	火4	伊原木 大祐		思想文化学系81
5541006	宗教学	演習	2	前期	火2	竹内 綱史		思想文化学系82
5541007	宗教学	演習	2	前期	月4	津田 謙治		思想文化学系83
5541008	宗教学	演習	2	後期	月4	津田 謙治		思想文化学系84
5541009	宗教学	演習	2	前期	木2	安部 浩		思想文化学系85
M264001	宗教学	演習II	4	通年	金4,金5	杉村 靖彦,伊原木 大祐		思想文化学系86
5551001	宗教学	講読	2	前期	月3	根無 一行		思想文化学系87
5551002	宗教学	講読	2	後期	月3	根無 一行		思想文化学系88
5631001	キリスト教学	特殊講義	2	前期	水3	津田 謙治		思想文化学系89
5631002	キリスト教学	特殊講義	2	後期	水3	津田 謙治		思想文化学系90
5631003	キリスト教学	特殊講義	2	前期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系91
5631004	キリスト教学	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系92
5631005	キリスト教学	特殊講義	2	後期	月2	鬼頭 葉子		思想文化学系93
5631006	キリスト教学	特殊講義	2	前期	集中	洪 伊杓		思想文化学系94
5641004	キリスト教学	演習	2	前期	木2	平出 貴大,渡邊 蘭子		思想文化学系95
5641005	キリスト教学	演習	2	後期	金4	河崎 靖		思想文化学系96
5641006	キリスト教学	演習	2	前期	月4	津田 謙治		思想文化学系97
5641007	キリスト教学	演習	2	後期	月4	津田 謙治		思想文化学系98
M272001	キリスト教学	演習	4	通年	火4	津田 謙治		思想文化学系99
9639001	キリスト教学	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	思想文化学系100
9640001	キリスト教学	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	思想文化学系101
5731003	美学美術史学	特殊講義	2	前期	水3	根立 研介		思想文化学系102
5731004	美学美術史学	特殊講義	2	後期	水3	根立 研介		思想文化学系103
5731005	美学美術史学	特殊講義	2	前期	金3	平川 佳世		思想文化学系104
5731006	美学美術史学	特殊講義	2	後期	金3	平川 佳世		思想文化学系105
5731007	美学美術史学	特殊講義	2	前期	水2	杉山 卓史		思想文化学系106
5731008	美学美術史学	特殊講義	2	後期	水2	杉山 卓史		思想文化学系107
5731009	美学美術史学	特殊講義	2	前期	金2	稲本 泰生		思想文化学系108
5731010	美学美術史学	特殊講義	2	後期	金2	稲本 泰生		思想文化学系109
5731011	美学美術史学	特殊講義	2	前期	火3	岡田 暁生		思想文化学系110
5731012	美学美術史学	特殊講義	2	後期	火3	岡田 暁生		思想文化学系111
5731013	美学美術史学	特殊講義	2	後期	火2	加須屋 明子		思想文化学系112
5731014	美学美術史学	特殊講義	2	前期	集中	樋口 一貴		思想文化学系113
5731015	美学美術史学	特殊講義	2	前期	月3	武田 宙也		思想文化学系114
5731016	美学美術史学	特殊講義	2	後期	月3	武田 宙也		思想文化学系115
5731017	美学美術史学	特殊講義	2	後期	木2	永井 隆則		思想文化学系116
5731018	美学美術史学	特殊講義	2	前期	水5	筒井 忠仁		思想文化学系117

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
5731019	美学美術史学	特殊講義	2	後期	水5	筒井 忠仁		思想文化学系118
5731020	美学美術史学	特殊講義	2	後期	月4	松永 伸司		思想文化学系119
5741001	美学美術史学	演習I	2	前期	火3	根立 研介,平川 佳世,筒井 忠仁		思想文化学系120
5741002	美学美術史学	演習I	2	後期	火3	根立 研介,平川 佳世,筒井 忠仁		思想文化学系121
5745003	美学美術史学	演習II	2	後期	木1	平川 佳世		思想文化学系122
5745004	美学美術史学	演習II	2	前期	木2	杉山 卓史		思想文化学系123
5745005	美学美術史学	演習II	2	前期	月2	永井 隆則		思想文化学系124
5745006	美学美術史学	演習II	2	後期	木3	倉持 充希		思想文化学系125
5745007	美学美術史学	演習II	2	前期	木4	江尻 育世		思想文化学系126
M286001	美学美術史学	演習III	2	前期	金5	根立,平川,杉山,筒井		思想文化学系127
M286002	美学美術史学	演習III	2	後期	金5	根立,平川,杉山,筒井		思想文化学系128

思想文化学系1

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 榊原 哲也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現象学の根本問題									
【授業の概要・目的】											
<p>現象学は20世紀初頭にエドムント・フッサールによって創始された哲学だが、その後、ハイデガーやメルロ＝ポンティなどによって批判的に継承され、「現象学運動」と呼ばれる一大思想運動となっており、現代哲学のみならず、社会学や宗教学、教育学、法学、さらには看護学等、多方面に大きな影響を及ぼした。</p> <p>本講義ではその原点に立ち返り、まずフッサールにおける「現象学」という哲学の成り立ちとその概要について講義した後、現象学における根本問題の一つとして、他者経験の問題を取り上げる。この問題に関するフッサールの基本的テキストの一つである『デカルト的省察』第5省察のドイツ語での原著講読も授業に取り入れ、他者経験の現象学の深さと広がりについて考察する。</p> <p>また時間に余裕があれば、本講義のテーマに関わる現象学の現代的展開の一つである「ケアの現象学」についても概説を行いたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現象学という哲学の基本的特徴とその歴史的成り立ちを理解するとともに、他者理解をめぐる現象学においてどのような考察がなされてきたのかを理解する。</li> <li>・他者経験に関する現象学の基本文献をドイツ語原著で講読することにより、テキスト読解能力を高めるとともに、他者理解をめぐる哲学的問題について自ら考察できるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現象学への道</li> <li>2. 「現象学」の誕生 『論理学研究』</li> <li>3. 方法の生成</li> <li>4. 超越論的現象学の成立 『イデーI』(1)</li> <li>5. 超越論的現象学の成立 『イデーI』(2)</li> <li>6. 発生的現象学への展開 『イデーII』の問題圏</li> <li>7. 他者経験という問題 共同精神と「他我」問題</li> <li>8. 『デカルト的考察』第5省察の講読(第42～43節)</li> <li>9. 『デカルト的考察』第5省察の講読(第44節)(1)</li> <li>10. 『デカルト的考察』第5省察の講読(第44節)(2)</li> <li>11. 『デカルト的考察』第5省察の講読(第49～50節)</li> <li>12. 『デカルト的考察』第5省察の講読(第51～52節)</li> <li>13. 『デカルト的考察』第5省察の講読(第53～54節)</li> <li>14. 他者経験の現象学の展開(シェラー、ハイデガー、メルロ＝ポンティ)</li> <li>15. 他者理解と自己理解/「ケアの現象学」について (受講者の関心、理解度等に応じて、内容、進度に変更を加えることがある。)</li> </ol>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 哲学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

授業の後半でドイツ語原著テキストの講読を行うので、ドイツ語を履修しておくことが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業での発言、講読への取り組み等）（50％）とレポート（50％）

### 【教科書】

講義で使用する資料は授業中に配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

榊原哲也『フッサール現象学の生成 方法の成立と展開』（東京大学出版会、2009年）ISBN:978-4-13-016029-2

フッサール『デカルト的省察』（岩波文庫、2001年）ISBN:4-00-336433-3

野家啓一（責任編集）『哲学の歴史第10巻 危機の時代の哲学』（中央公論新社、2008年）ISBN:978-4-12-403527-8（とくに第 章「フッサール」）

榊原哲也『医療ケアを問いなおす 患者をトータルにみることの現象学』（ちくま新書、2018年）ISBN:978-4-480-07158-3（とくに第二章「現象学」とはどのような哲学か）

その他の参考文献については授業中に紹介する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

前半の講義については、とくに事前の準備は必要ありません。講義後に内容をよく復習してください。

後半のドイツ語原著テキストの講読については、初日の授業で配布されるテキストを十分に予習をして臨んでください。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系2

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山田 圭一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ウィトゲンシュタインの「心の哲学」									
【授業の概要・目的】											
<p>ウィトゲンシュタインは言語と論理の哲学者として有名であるが、彼は晩年に 心 についてのさまざまな考察を行っていた。その代表的なテキストが、後期ウィトゲンシュタインの主著『哲学探究』のあとに書かれた「心理学の哲学 断片」(かつて『哲学探究 第二部』と呼ばれたテキスト)である。そこでは、願望、意図、信念、感情、感覚、意味、記憶、知覚、知識、等々さまざまな心的な概念についての哲学的な問いが提示されている。</p> <p>本授業ではこれらの問いについてどのように答えるのか、そしてウィトゲンシュタイン自身はどのように答えているのか(いないのか)をみなさんと一緒に考えてみたい。彼の問いは当時の心理学とも、現代のいわゆる「心の哲学(Philosophy of mind)」とも異なる地点から発せられていると思われるが、それらとの対比なども踏まえながら彼が 心 について問おうとしていた根本的な問いが何であったのかを考えてみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>ウィトゲンシュタイン哲学における問いと考察の方法を理解する 心を巡る哲学的な問いについての自分なりの考察ができるようになる</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は基本的に講義形式で行う予定だが、適宜該当のテキストを参照しながらその解釈を検討していくので、その点では演習や講読の要素を含むものになる。 考察の順番としては「心理学の哲学 断片」の記述に沿って、概ね以下のような流れで考えていきたい。</p>											
<p>第一回 イン트로ダクション：後期ウィトゲンシュタインの哲学          第二回 犬は何かを「望む」ことができるのか          第三回 一瞬間「悲しむ」ことはできるのか          第四回 「想像」の内容は何か決めるのか          第五回 私は他人がロボットでないと「信じている」のか          第六回 他人の心は「観察」可能か          第七回 「夢」の語りは間違いうるか          第八回 「運動感覚」は語りうるのか          第九回 「私は怖い」は心の記述なのか          第十回 語の「意味」は体験できるのか          第十一回 「アスペクト」の変化は何の変化なのか          第十二回 概念の習得は「知覚」対象を変化させるのか          第十三回 「水曜日は太っている」はナンセンスか          第十四回 他人の心は「隠されている」のか          第十五回 全体まとめ</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 哲学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業内に何度か課す小課題（30点）+ 学期末レポート（70点）を合わせて評価

### 【教科書】

使用しない

教科書はとくに使用せず、適宜資料をこちらから配布する。

自分で関連箇所を読みたい場合、原文のテキストとしては以下の第四版を用いる。

Wittgenstein, L. (2009), *Philosophical Investigations, Philosophy of Psychology #8212 A Fragment [previously known as ‘ Part II ’ ]*, revised 4th ed., P. M. S. Hacker & J. Schulte (eds.), Wiley-Blackwell.  
以下の第二版でも可だが、節番号が振っていないので対照させるのがやや不便かも。

Wittgenstein, L. (1958), *Philosophical Investigations, Part ,2nd Edition*, Blackwell.

邦訳はいくつかある。

ルートウィッヒ・ウィトゲンシュタイン (著)、『哲学探究』 鬼界彰夫 (翻訳)、講談社、2020年。

『哲学探究』 [ 第2部 ] 丘沢静也(訳), 岩波書店, 2013年。

ウィトゲンシュタイン全集八巻『哲学探究』藤本隆志訳、大修館書店、一九七六年。（但し、この翻訳は第二版の翻訳なので節番号が振られていない）

### 【参考書等】

（参考書）

古田徹也 『はじめてのウィトゲンシュタイン』（2020）ISBN:978-4-14-091266-9

山田圭一 『ウィトゲンシュタイン最後の思考 – 確実性と偶然性の邂逅 』（2009）ISBN:978-4326101917

### 【授業外学修（予習・復習）等】

配布する資料を読んで自分なりに考えてみること

### （その他（オフィスアワー等））

本授業は同時双方向型のオンライン授業で行う予定です。

実施方法や開港時期については決まり次第お伝えします。

その他、授業についての質問等についてはkyamada@chiba-u.jpにご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系3

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐金 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代時間論入門: 現在主義の哲学を軸として									
【授業の概要・目的】											
<p>時間とはなんだろう。過去や未来は存在するのか。時間は本当に流れるのか---。素朴すぎて一見不可解に思えるこれらの問いを、現代形而上学の見地から徹底的に検討する。すべては現在にあると主張する「現在主義」に対する肯定と否定を通じて、哲学的時間論の最前線へ誘う。ただし、特定の見解へ収斂することよりも、できる限り多様な視座から問題を吟味する、開かれた知性と対話の方法を修得することを本講義の目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>現代時間論の諸問題を理解し、それらに取り組むために必要とされる次のような総合力の涵養を目指す。</p> <p>(1)論理的思考力:論理の展開を明らかにしながら、問題を理解し対話することができる。</p> <p>(2)発想力:問題を多面的に検討することにより、新たな問いや考えに気づくことができる。</p> <p>(3)論証力:一定の探究課題のもと、自分の主張を明確にし、しっかりとした根拠にもとづいて論述することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 マクタガートのパラドクスと現代の哲学的時間論</p> <p>第3回 真理の基礎づけの問題(1):過去の真理は何に基礎づけられるのか</p> <p>第4回 真理の基礎づけの問題(2):問題の検討とディスカッション</p> <p>第5回 相対性理論と絶対的同時性(1):同時性は相対的か</p> <p>第6回 相対性理論と絶対的同時性(2):問題の検討とディスカッション</p> <p>第7回 時間の経過(1):ときが流れるとはどういうことか</p> <p>第8回 時間の経過(2):問題の検討とディスカッション</p> <p>第9回 時間の非対称性(1):過去と未来はどのように異なるのか</p> <p>第10回 時間の非対称性(2):問題の検討とディスカッション</p> <p>第11回 トリビアリティ反論(1):現在主義の主張はトリビアるか</p> <p>第12回 トリビアリティ反論(2):問題の検討とディスカッション</p> <p>第13回 経過の速さに関する反論(1):時間はどのくらいのはやさですぎるのか</p> <p>第14回 経過の速さに関する反論(2):問題の検討とディスカッション</p> <p>第15回 研究発表</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 哲学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業毎の課題(60%)とパフォーマンス(10%)、研究発表(30%)

### [教科書]

佐金 武 『時間にとって十全なこの世界』(勁草書房、2015年) ISBN:978-4326102426

授業内容は上記テキストにもとづく。可能なかぎり事前に入手すること。やむをえぬ理由により入  
手できない場合は、学術論文等の代替文献により対応する。

その他の文献については、授業において適宜指示する。

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

本科目はいわゆる「反転授業」を基本デザインとする。授業に向けて十分な準備を行うこと。(予  
習には毎回、少なくとも数時間を要する。)

1. 事前にテキストを読む。
2. あらかじめ提示された課題をこなす。
3. それをもとに授業で理解を深め、議論等を行う。

### (その他(オフィスアワー等))

シラバスは変更することがある。

大学院生にはより積極的で専門的な観点からのコミットを期待したい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系4

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced Reading in Formal Philosophy									
【授業の概要・目的】											
<p>The nature of scientific theory has been the central issue in philosophy of science. In his recent book, <i>The Logic in Philosophy of Science</i>, Hans Halvorson applies category theory to elucidates some of the key concepts and questions like theoretical equivalence, (anti)realism, theoretical reduction, supervenience, etc. This semester we resume reading from chapter 4. Those who did not take this class in the previous semester are encouraged to contact the instructor beforehand.</p>											
【到達目標】											
<p>At the end of this course, students should have</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* The ability to read formal texts in philosophy.</li> <li>* The understanding of philosophical issues on the nature of scientific theories.</li> <li>* A working understanding of formal theories (logic, category theory etc.) and their implications to philosophical problems.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Each week we will read 10 to 20 pages of the textbook. Every student must read the text, note down comments and questions, and prepare for discussion. We assign one student for each week who is responsible for giving a summary of the text and leading discussion. Depending on the size of the class, students may need to make more than one presentations.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction [1 week]</li> <li>2. Reading and discussion [13 weeks] <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Syntactic Metalogic</li> <li>2. Syntactic Metalogic Redux</li> <li>3. Semantic Metalogic</li> <li>4. Semantic Metalogic Redux</li> <li>5. From Metatheory to Philosophy</li> </ol> </li> <li>3. Wrap-up [1 week]</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>Basic knowledge of predicate logic, set theory, and category. For those who wish to take the course from this semester, video lectures on chapters 1-3 are available upon request.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Presentation, participation to in-class discussion, and a short term paper.</p>											
----- 哲学(特殊講義) (2)へ続く -----											

哲学(特殊講義) (2)

[教科書]

Hans Halvorson 『The logic in philosophy of science』 ( Cambridge UP )

[参考書等]

( 参考書 )

西郷甲矢人・能美十三 『圏論の道案内』 ( 技術評論社 )

( 関連URL )

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Students must read the textbook carefully and try to prove theorems and to solve exercises by themselves.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系5

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		The Philosophy of Machine Learning									
【授業の概要・目的】											
Statistical machine learning has made rapid progress in the past decade and revolutionized our society. It also has rich philosophical implications, in particular with respect to the problem(s) of induction, epistemological justification, causality, explanation and understanding, possible worlds, and natural kinds, to name a few. In this lecture we focus on two major developments in the recent machine learning literature, deep learning and causal modeling, and explore their philosophical (to be distinguished from ethical) issues and implications.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- To acquire a working knowledge of machine learning methods (deep learning and causal modeling)</li> <li>- To understand philosophical issues in and around machine learning</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. What is machine learning?</li> <li>3. Introduction to deep learning</li> <li>4. Epistemological issues of deep learning</li> <li>5. Ontological issues of deep learning</li> <li>6. Machine learning and the problem of induction</li> <li>7. Opening the black box (explainable AI)</li> <li>8. Deep learning wrap up</li> <li>9. Introduction to causal modeling</li> <li>10. From probability to causality</li> <li>11. Counterfactuals and causality</li> <li>12. Ontological issues of causal modeling</li> <li>13. Causality and natural kinds</li> <li>14. Causal modeling wrap up</li> <li>15. Feedback</li> </ol>											
【履修要件】											
- 確率・統計に関する基本的知識（前期「統計学の哲学」の履修ないしそのテキスト『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）の内容程度）											
【成績評価の方法・観点】											
Class presentation (30%) and the final exam (70%)											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[教科書]

大塚淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）

[参考書等]

（参考書）

（関連URL）

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to read assigned texts each week.

（その他（オフィスアワー等））

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系6

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		慶應義塾大学文学部 准教授 田中 泉吏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史的かつ社会的な産物としての心									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの心は（広い意味で）歴史的かつ社会的な産物である。歴史的な産物であるということに加えて、文化的な進化過程、そして（独特な）発達過程の結果であるという意味である。さらに、これらの過程のいずれにおいても、すぐれて社会的な動物である人類においては、個体間の社会的相互作用が重大な要因としてかかわっている。この授業ではこうした観点から、縦系としての歴史と横系としての社会がどのように絡み合っているのかを、関連する科学分野の知見を参照しながら、丁寧に解きほぐしていく予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 関連する科学分野の知見を批判的に検討する。                  2) 関連する科学分野の知見を総合して、人間の心を包括的に理解する。                  3) 歴史的・社会的な視点が哲学においてどのような重要性をもつのかについて確認する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1.イントロダクション                  2.生物学・心理学の哲学概説                  3.社会的な知性とモジュール的な心                  4.協力的採食と社会的学習                  5.第1回フィードバック                  6.社会的学習とその進化                  7.現代人的行動の謎とネアンデルタール人絶滅の謎                  8.繁殖協力とおばあちゃん仮説                  9.狩猟と協力複合体                  10.第2回フィードバック                  11.コミットメント                  12.感情                  13.情報共有とコミュニケーション                  14.道徳的な心                  15.第3回フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業内の課題（全3回）によって評価します。

**[教科書]**

使用しない  
スライド資料を配布します。

**[参考書等]**

（参考書）  
キム・ステレルニー 『進化の弟子』（勁草書房,2013年）ISBN:978-4-326-19964-8  
その他、授業中にも適宜紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

必要に応じて授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オンデマンド（資料配布・課題提示型）授業です。課題の締め切りおよびフィードバックのタイミングについては適宜お知らせします。フィードバックは、いくつかの解答例を匿名で紹介し、コメントをつけるという形で行う予定です。連絡方法については授業開始時にお知らせします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系7

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。</p> <p>このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。</p> <p>また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理学とは何をする学問か</li> <li>形式言語</li> <li>最小命題論理の -導入規則および除去規則</li> <li>最小命題論理の <math>\wedge</math>、<math>\vee</math> -導入規則および除去規則</li> <li>最小命題論理の問題演習</li> <li>遠回りのない証明</li> <li>量子子と最小述語論理</li> <li>最小述語論理の -導入規則及び除去規則</li> <li>最小述語論理の <math>\forall</math>、<math>\exists</math> -導入規則及び除去規則</li> <li>最小述語論理の問題演習</li> <li>形式的な自然数論</li> <li>原始再帰的関数と"<math>2+2=4</math>"の証明</li> <li>再帰関数の数値的表現可能性</li> <li>総合演習</li> <li>形式的な論理学と言語の哲学</li> </ul>											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											



## 哲学(演習)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

### [教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』 (東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』 (Dover)

(関連URL)

[http://d.hatena.ne.jp/kyoto\\_logic/](http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/) (授業 Blog)

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1#123162日前)にwebsite(下記の授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系8

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
【授業の概要・目的】											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
【到達目標】											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2</li> <li>意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性</li> <li>プラヴィッツの「反転原理」</li> <li>ダメットと証明の正規化可能性</li> <li>「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理</li> <li>直観主義論理の問題演習</li> <li>排中律と古典論理</li> <li>古典論理における証明・問題演習</li> <li>古典論理と真理表</li> <li>古典論理と完全性定理</li> </ul>											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

## 哲学(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理の証明

(エクストラ課題)不完全性定理の意義

### [履修要件]

前期の演習「論理学1」を履修すること

### [成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

### [教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

戸次大介『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』(Dover)

(関連URL)

[http://d.hatena.ne.jp/kyoto\\_logic/](http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/)(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系9

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと講読文献の説明</li> <li>2. 「前書」と題目(3-7)</li> <li>3. 「感じ取られる自由の確実性と自由の体系的概念の問題」及び「汎神論概念の諸解釈・その1」(9-12/35)</li> <li>4. 「汎神論概念の諸解釈・その2」(12/36-16/18)</li> <li>5. 「汎神論概念の諸解釈・その3」(16/18-21/20)</li> <li>6. 「汎神論概念の諸解釈・その4」及び「&lt;観念論的・普遍的自由概念&gt;対&lt;人間の生ける自由概念&gt;」(21/21-25/14)</li> <li>7. 「悪への能力としての人間の自由の問題系(現実性の神的起源に鑑みつつ)」(25/15-29/19)</li> <li>8. 「自然哲学的演繹(啓示の原理の内的二重性)」(29/20-34/27)</li> <li>9. 「悪の可能性の演繹・その1」(34/28-39/3)</li> <li>10. 「悪の可能性の演繹・その2」(39/4-42/16)</li> <li>11. 「悪の可能性の演繹・その3」(42/17-45/7)</li> <li>12. 「悪の現実性の演繹・その1」(45/8-48/3)</li> <li>13. 「悪の現実性の演繹・その2」(48/4-52/29)</li> </ol>											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

## 哲学(演習)(2)

14. 西谷啓治「悪の問題」  
15. フィードバック

### [履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

### [成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

### [教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)  
西谷啓治 『西谷啓治著作集第6巻・宗教哲学』 (創文社)

### [参考書等]

(参考書)  
シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)  
F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

### [授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系10

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと前期の復習</li> <li>2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22)</li> <li>3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59)</li> <li>4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18)</li> <li>5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4)</li> <li>6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29)</li> <li>7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10)</li> <li>8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17)</li> <li>9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8)</li> <li>10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31)</li> <li>11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87)</li> <li>12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」</li> <li>13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ペーメの意志-形而上学について」</li> <li>14. 総括と総合討論</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

## 哲学(演習) (2)

### [履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

### [成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

### [教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

園田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

### [参考書等]

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

### [授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系11

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 戸田 剛文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・リードの『人間の知的能力論』の読解									
【授業の概要・目的】											
スコットランド常識学派の代表者といわれるトマス・リードの『人間の知的能力論』を原典で読む。  リードは、近代イギリス経験論の影響をうけつつ、ロックからヒュームにいたる哲学者を批判した哲学者であり、その評価は近年ますます高まっている。知識とはどのようなものかを考える上でも、彼の議論は興味深い手掛かりをわれわれに与えてくれる。											
【到達目標】											
身近なテーマを用いることにより、普段、当然のように考えている概念がいかなるものであるのかを考察することで、常に深く考える思考力を身につける。											
【授業計画と内容】											
とくに担当者を決めず、数行ずつ訳してもらいながら進めていく。  途中で重要な人物や理論などについて、調べてもらって解説してもらう。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
訳、質問、議論などの平常点で判断する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業のテーマに関連することをさらに調べて自分なりの考えを発展させてください。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



思想文化学系12

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Self Ia									
【授業の概要・目的】											
<p>What is self? How is self experienced? What should self be? Those questions are among the most important ones for the Western and Eastern philosophies for millennia. They have been also much discussed in such fields as psychology, cognitive science, psychiatry and sociology. This seminar will explore those questions from the perspectives of contemporary philosophy and Eastern philosophical traditions, focusing on the novel idea of self proposed by the lecturer, Self-as-We. This seminar is coupled with Prof. Inukai's seminar; philosophy of self 1b. So students are encouraged to take the both seminars.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can obtain up-to-date knowledge of philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology, and analytic Asian philosophy, and also acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to philosophy of self: Self as a philosophical question (I)                  2 Introduction to philosophy of self: Self as a philosophical question (II)                  3 From East Asian True Self to Self-as-We                  4 Self-as-We (I): Somatic Agent, Entrustment and Distribution of Agency, Self as Multi-agent System                  5 Self-as-We (II): Self as Humanosphere, Self-as-We vs. Self-as-I, Autoheteronomy, un-self-containedness of Agency and We-modes                  7 Ethic of Self-as-We (I): Open Self vs. Closed Self                  8 Ethics of Self-as-We (II): Fellowship                  9 Self-as-We and Dialogical Life                  10 Logic of Self-as-We                  11 Self-as-We and Incapabilities of Humans                  12 Self-as-We and Freedom from Rule                  13 Summary</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Report 50% and Performances in classes 50%											
【教科書】											
使用しない											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to attend each session after having read all materials for discussions. Graduates students are also expected to lead discussions in the seminar.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系13

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Self II									
【授業の概要・目的】											
<p>What is self? How is self experienced? What should self be? Those questions are among the most important ones for the Western and Eastern philosophies for millennia. They have been also much discussed in such fields as psychology, cognitive science, psychiatry and sociology. This seminar will explore those questions from the perspectives of contemporary philosophy and Eastern philosophical traditions, focusing on the teacher's own idea of self: Self-as-We, and exploring its applications to numerous topics.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can obtain up-to-date knowledge of philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology, and analytic Asian philosophy, and also acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to Philosophy of Self                  2 A Brief Summary of Self-as-We (I)                  3 A Brief Summary of Self-as-We (II)                  4 Self-as-We and Other Theories on Self (I): Classical Alternatives                  6 Self-as-We and Other Theories on Self (II): Contemporary Alternatives                  7 Self-as-We and Other Theories on ' We ' (I): Classical Alternatives                  7 Self-as-We and Other Theories on ' We ' (II): Contemporary Alternatives                  8 On Criticisms against Self-as-We (I)                  9 On Criticisms against Self-as-We (II)                  10 Applications of Self-as-We (I): Self-as-We Measure                  11 Applications of Self-as-We (II): Digital Twin                  12 Applications of Self-as-We (III): Business Ethics                  13 Summary</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Report 50% and Performances in classes 50%											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to attend each class after having read all the materials for discussions. Graduate students are also expected to lead discussions in the seminar.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系14

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習Ⅰ) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		カリフォルニア州立大学 八木沢 敬 ノースリッジ校 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Abstract Objects and Natural Language									
【授業の概要・目的】											
Semantics of natural language appears to commit us to the postulation of abstract objects, like numbers and propositions. Friederike Moltmann argues that the correct understanding of natural language allows us to dispense with such a commitment. She uses two key notions, trope and plural reference, to make her case. We will study her arguments carefully and learn how to approach semantics philosophically productively. Along the way, we will have opportunities to examine the metaphysics of tropes and the logic of plural reference, among other things. Our overarching aim in this course is to acquire solid background in the fundamentals of analytic philosophy to maximize the quality of our own research in all areas of philosophy.											
【到達目標】											
We aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying various connected topics in semantics of natural language. We strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
We read the following book and examine the arguments found in it: Moltmann, Friederike, Abstract Objects and the Semantics of Natural Language (Oxford University Press, 2013)											
We will meet on Zoom during the second period (10:30-12:00) on Tuesdays. To register, please see 「その他 ( オフィス・アワー等 ) 」 .											
Below is a provisional course schedule, subject to change at any time:											
04/13 Chapter 1											
04/20 Chapter 1											
04/27 Chapter 1											
05/04 Chapter 1											
05/11 Chapter 2											
05/18 Chapter 2											
05/25 Chapter 2											
06/01 Chapter 2											
06/08 Chapter 2											
06/15 Chapter 2											
06/22 Chapter 3											
06/29 Chapter 3											
07/06 Chapter 3											
07/13 Chapter 3, Writing Assignment Announced											
----- 哲学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 哲学(演習 I)(2)

---

07/20 Chapter 3

08/16 Not a Class Day, Writing Assignment due

### **[履修要件]**

Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.

### **[成績評価の方法・観点]**

Participation in class discussion, and a writing assignment (term paper).

### **[教科書]**

Moltmann, Friederike, *Abstract Objects and the Semantics of Natural Language* (Oxford University Press, 2013)

An electronic version of the text will be made available to all students enrolled in the class.

### **[参考書等]**

(参考書)

The following entries in Stanford Encyclopedia of Philosophy (online)

<https://plato.stanford.edu/> :

(1) Theories of Meaning (Jeff Speaks)

<https://plato.stanford.edu/entries/meaning/>

(2) Tropes (Anna-Sofia Maurin)

<https://plato.stanford.edu/entries/tropes/>

### **[授業外学修(予習・復習)等]**

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor 's Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici 's Sample Philosophy Paper:

[https://prezi.com/z4h1\\_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/](https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/)

(その他(オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email (takashi).

---

哲学(演習 I)(3)へ続く

## 哲学(演習Ⅰ)(3)

yagisawa@csun.edu). Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

\*\*\*\*\*

Hi there,

You are invited to a Zoom meeting.

When: Apr 12, 2021 06:30 PM Pacific Time (US and Canada) [Please note the time difference between Kyoto, where you are, and Los Angeles, where I am.]

Register in advance for this meeting:

<https://csun.zoom.us/join/9125877320>

After registering, you will receive a confirmation email containing information about joining the meeting.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系15

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Social Epistemology									
【授業の概要・目的】											
<p>「データを証拠に変える装置」としての統計学は、今日の科学において特権的な役割を担っている。しかしそれだけでなく、帰納推論への形式的アプローチとして見た場合、統計学はヒューム以来の哲学的問題に対する様々な示唆を含んでいる。本授業では、現代統計学を支える数理的枠組みを概観した後、ベイズ主義、古典検定理論、機械学習を始めとした種々の統計学的手法と、そのもとにある哲学的思想を明らかにする。とりわけ、それらの統計的手法と、現代認識論における内在主義、信頼性主義、認識論的プラグマティズムとをそれぞれ比較し結びつけることで、統計学と哲学的認識論の間の関係性を探る。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 現代統計学のもとにある哲学的思想や問題を理解する</li> <li>- 哲学的問題に対する現代統計学の含意を理解する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. なぜ哲学 / 統計学は統計学 / 哲学の問題になるのか</li> <li>3. 確率モデルと統計モデル</li> <li>4. 認識論入門</li> <li>5. ベイズ統計</li> <li>6. ベイズ統計の哲学とその認識論的問題</li> <li>7. 古典統計</li> <li>8. 古典統計の哲学ととその認識論的問題</li> <li>9. 予測と回帰</li> <li>10. AICと認識論的プラグマティズム</li> <li>11. 機械学習：ディープラーニングの原理</li> <li>12. 機械学習の哲学</li> <li>13. 予備日 / 発展的話題</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業ごとのコメントシートと期末レポートで評価する											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											



哲学(演習Ⅰ)(2)

**[教科書]**

大塚淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）ISBN:4815810036

**[参考書等]**

（参考書）

（関連URL）

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回、指定された教科書の範囲を予習してから授業に望むこと

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系16

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Logical Positivism									
【授業の概要・目的】											
<p>Logical positivism was a highly influential philosophical movement in the early 20th century that came to define major philosophical focuses and problematics of the contemporary analytic philosophy, including logic, language, empiricism, analytic/synthetic distinction, the problems of justification and induction, and so on. Although the common lore speaks of its "demise" after Quine's seminal criticism in his "Two dogmas of empiricism" (1951) and Kuhn's The structure of scientific revolutions (1962), detailed historical studies after '80s (most notably by Friedman and Coffa) and recent developments in formal philosophy (e.g. Halvorson, Awodey) have generated a renewed attention to the logical positivism. In this seminar, we read classical works of positivists to identify their ideas and implications to today's philosophical questions.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- To learn the main ideas of logical positivists</li> <li>- To learn the historical roots of today's philosophical problems</li> <li>- To be able to read classical philosophical texts in English</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Reading materials are selected from writings of major positivists, including but not limited to Moritz Schlick, Rudolf Carnap, Otto Neurath, Hans Reichenbach, and Carl Hempel, as well as secondary literatures.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Background of the logical positivism (1): Frege, Russel Wittgenstein</li> <li>3. Background of the logical positivism (2): Wittgenstein's Tractatus</li> <li>4. Overview of the logical positivism</li> <li>5. Reading 1</li> <li>6. Reading 2</li> <li>7. Reading 3</li> <li>8. Reading 4</li> <li>9. Reading 5</li> <li>10. Reading 6</li> <li>11. Criticism (Quine, Kuhn)</li> <li>12. Reading of Quine, Kuhn</li> <li>13. Positivism today</li> <li>14. Wrap up</li> <li>15. Feedback</li> </ol>											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Presentation 20%  
Short essays 30%  
Final paper 50%

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)

Coffa, Alberto 『The semantic tradition from Kant to Carnap』 (Cambridge)  
Friedman, Michael 『Reconsidering logical positivism』 (Cambridge)

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

**【授業外学修(予習・復習)等】**

Students are required to read assigned texts closely before class and prepare comments and/or questions.

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系17

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		カルフォルニア州立大学 八木沢 敬 ノースリッジ校 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Abstract Objects and Natural Language									
【授業の概要・目的】											
<p>We will continue our study of Friederike Moltmann ' s Abstract Objects and the Semantics of Natural Language from the First Term. Semantics of natural language appears to commit us to the postulation of abstract objects, like numbers and propositions. Moltmann argues that the correct understanding of natural language allows us to dispense with such a commitment. She uses two key notions, trope and plural reference, to make her case. We will study her arguments carefully and learn how to approach semantics philosophically productively. Along the way, we will have opportunities to examine the metaphysics of tropes and the logic of plural reference, among other things. Our overarching aim in this course is to acquire solid background in the fundamentals of analytic philosophy to maximize the quality of our own research in all areas of philosophy.</p>											
【到達目標】											
<p>We aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying various connected topics in semantics of natural language. We strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<p>We read the following book and examine the arguments found in it: Moltmann, Friederike, Abstract Objects and the Semantics of Natural Language (Oxford University Press, 2013)</p> <p>Below is a provisional course schedule, subject to change at any time:</p> <p>10/05 Chapter 4 10/12 Chapter 4 10/19 Chapter 4 10/26 Chapter 4 11/02 Chapter 4 11/09 Chapter 5 11/16 Chapter 5 11/30 Chapter 5 12/07 Chapter 5 12/14 Chapter 5 12/21 Chapter 6 12/28 Chapter 6 01/11 Chapter 6, Writing Assignment Announced 01/18 Chapter 6 01/25 Chapter 6</p>											
----- 哲学(演習 I )(2)へ続く -----											

## 哲学(演習Ⅰ)(2)

02/1 or 22 Not a Class Day, Writing Assignment due

### 【履修要件】

Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.

### 【成績評価の方法・観点】

Term paper and participation in class discussion.

### 【教科書】

Moltmann, Friederike 『Abstract Objects and the Semantics of Natural Language』 (Oxford University Press, 2013)

### 【参考書等】

(参考書)

The following entries in Stanford Encyclopedia of Philosophy (online)

<https://plato.stanford.edu/> :

(1) Theories of Meaning (Jeff Speaks)

<https://plato.stanford.edu/entries/meaning/>

(2) Tropes (Anna-Sofia Maurin)

<https://plato.stanford.edu/entries/tropes/>

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor 's Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici 's Sample Philosophy Paper:

[https://prezi.com/z4h1\\_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/](https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/)

### (その他(オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email. Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系18

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定准教授 大西 琢朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		哲学的論理学初歩									
【授業の概要・目的】											
現代哲学の論文を読み、書くために必要とされる論理学の基礎を習得する。初歩的な集合論、古典命題・述語論理、様相命題・述語論理、および関連する哲学的議論について学ぶ。											
【到達目標】											
哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的なスキルを習得する。多様な論理体系とそれらに 関係する哲学的な問題について、幅広い知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 初歩的な集合論</li> <li>3. 古典命題論理(1) 形式言語を定義する</li> <li>4. 古典命題論理(2) 反例モデルと妥当性</li> <li>5. 古典命題論理(3) 実質含意の諸問題</li> <li>6. 様相命題論理(1) 様相と可能世界</li> <li>7. 様相命題論理(2) 妥当性</li> <li>8. 様相命題論理(3) 対応理論</li> <li>9. 古典述語論理(1) 量化子</li> <li>10. 古典述語論理(2) 多重量化</li> <li>11. 古典述語論理(3) 同一性</li> <li>12. 様相論理と述語論理</li> <li>13. 述語様相論理(1) De reとDe dicto</li> <li>14. 述語様相論理(2) 定領域・可変領域</li> <li>15. 総括：論理学から広がる世界</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
宿題と学期末のレポートにより評価する											
【教科書】											
使用しない。レジユメを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎週、宿題を出題する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系19

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター 特定准教授 大西 琢朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		哲学的論理学：非古典論理									
【授業の概要・目的】											
現代哲学の論文を読み、書くために必要とされる論理学の基礎を習得する。厳密含意の理論、直観主義論理、多値論理、関連性論理、および関連する哲学的議論について学ぶ。											
【到達目標】											
哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的なスキルを習得する。多様な論理体系とそれらに 関係する哲学的な問題について、幅広い知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 厳密含意(1) 実質含意のパラドクス</li> <li>3. 厳密含意(2) 厳密含意のパラドクス</li> <li>4. 直観主義論理(1) BHK解釈と証明論的意味論</li> <li>5. 直観主義論理(2) フレームとモデル</li> <li>6. 直観主義論理(3) 構成性</li> <li>7. 直観主義論理(4) S4への埋め込み</li> <li>8. 多値論理(1) 整合性・完全性</li> <li>9. 多値論理(2) FDE, LP, K3, CL</li> <li>10. 関連性論理(1) 関連性の誤謬</li> <li>11. 関連性論理(2) 不可能世界</li> <li>12. 関連性論理(3) 3項関係意味論</li> <li>13. 関連性論理(4) 構造規則と関連性</li> <li>14. 様相演算子としての否定</li> <li>15. 総括：非古典論理と哲学</li> </ol>											
【履修要件】											
同講師による前期の哲学(演習I)を履修しておくことが望ましい。そうでない場合は、様相論理の可能世界意味論に習熟しているのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
宿題と学期末のレポートにより評価する。											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											



哲学(演習Ⅰ)(2)

**[教科書]**

使用しない。レジユメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎週、宿題を出題する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系20

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 犬飼 由美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of the Self Ib									
【授業の概要・目的】											
<p>We all seem to believe in what we call a “ self ” that undergoes experience. But what is it with which we identify ourselves? Is it a unique and unified “ thing ” that is a subject of experience? Is it a body, a mind or something else? Is this self revealed in experience in any way? What is it to be the same self over time? In this seminar we will examine different accounts of the self that deal with questions about the nature of the self, personal identity, and the phenomenology of the self as an “ I, ” and explore some moral implications of different views of the self. Readings will include works by historical and contemporary authors from Western tradition as well as Asian tradition. This seminar is basically a remote, synchronous course (on Zoom), coupled with Prof. Deguchi ’ s seminar, Philosophy of Self 1a. So, students are encouraged to take both seminars.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will learn different viewpoints taken on the issues of the self and read both classical and contemporary philosophical texts in English. They will acquire analytical and critical skills and abilities to present and communicate their ideas in a clear and organized manner.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: the self as a unique subject, “ I ”</li> <li>2. Substantial self</li> <li>3. Rejection of the substantial self: an empirical self</li> <li>4. The self as a stream of consciousness</li> <li>5. Rejection of the self as a stream of consciousness: a transcendental self</li> <li>6. Rejection of the Self: the self as a mere construct</li> <li>7. Social self</li> <li>8. Phenomenology of the self</li> <li>9. The self as a narrative center</li> <li>10. Personal Identity</li> <li>11. Moral implications of various views of the self as an “ I ” I</li> <li>12. Moral implications of various views of the self as an “ I ” II</li> <li>13. Wrap-up</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

Participation 50%; Final Paper 50%

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

All the assigned readings must be done prior to class.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系21

科目ナンバリング		G-LET01 7M228 SB34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Graduate Students Seminar II									
【授業の概要・目的】											
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a Q & A session among students, then by tutorial comments from their supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of each student with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.											
【到達目標】											
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.											
【授業計画と内容】											
1 Guidance for philosophical presentations and discussions 2 to 13 Presentation by students											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Presentation 70%. Active participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.											
【教科書】											
使用しない											
----- 哲学(演習I) (2)へ続く -----											

## 哲学(演習I) (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar until a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations.

All students are required to prepare power-point materials written in English.

All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系22

科目ナンバリング		G-LET01 7M228 SB34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Graduate Students Seminar II									
【授業の概要・目的】											
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a session of Q & A among students, then by tutorial comments from his/her supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of him/her with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.											
【到達目標】											
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.											
【授業計画と内容】											
1 to 13 Presentation by students											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Presentation 70%. Active Participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.											
【教科書】											
使用しない											
----- 哲学(演習I) (2)へ続く -----											

## 哲学(演習I) (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations. All students are required to prepare power-point materials written in English. All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系23

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



思想文化学系24

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系25

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系26

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系27

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代懐疑主義									
【授業の概要・目的】											
<p>真理の探究には、懐疑がつきものである。何をもってわれわれは知を獲得できたと言えるのか、そもそも知識を得ることは可能なのか。古代ギリシア哲学は、その始まりから懐疑的思考と直面してきた。本講義は、初期ギリシア哲学からヘレニズム期にいたるまでの懐疑主義の展開を考察する。テキストの議論を通して、古代懐疑主義の哲学的な重要性について理解してもらうとともに、中・近世から現代における懐疑的思考とも比較検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代懐疑主義の議論を学び、その哲学史的展開の説明ができるようになる。 関連する哲学・倫理学的問題についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画で講義を進めるが、進み具合に応じて、受講生の理解を得たうえでプランを変更することがある。</p> <p>第1回 イントロダクション：古代懐疑主義とは          第2回 初期ギリシア哲学の懐疑的思考          第3回 ソフィストたち          第4回 プラトンの応答          第5回 アリストテレスの応答          第6回 これまでのまとめ・ディスカッション          第7回 ヘレニズム期の懐疑主義1：アカデメイア派の懐疑          第8回 ヘレニズム期の懐疑主義2：アカデメイア派とストア派との対立          第9回 ヘレニズム期の懐疑主義3：快樂主義と懐疑主義          第10回 ヘレニズム期の懐疑主義4：ピュロンとピュロン主義          第11回 ヘレニズム期の懐疑主義5：セクストス・エンペイリコス          第12回 これまでのまとめ・ディスカッション          第13回 中世の懐疑と古代懐疑主義：アウグスティヌスとガザーリー          第14回 近・現代の懐疑と古代懐疑主義：デカルト、現代認識論          第15回 レポート・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への取り組み（30%）、コメントシート（20%）、レポート（50%）により評価する。          レポートは、古代懐疑主義の議論とその発展、関連する哲学的・倫理学的問題を正しく理解して考察ができているかを評価する。授業で扱った内容を把握したうえで、独自の議論ができているもの</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

については高い点を与える。

**[教科書]**

使用しない  
プリント等を配布する予定です。

**[参考書等]**

(参考書)  
関連するテーマに入る前に、使用するテキストと合わせて紹介する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回指示されたテキストを読んで、与えられる課題について考えてくること。

**(その他(オフィスアワー等))**

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 岩田 直也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代における分析法の起源									
【授業の概要・目的】											
<p>「分析」という手法は、古代から現代に至る西洋哲学の歴史において、哲学の最も重要な方法の一つであり続けてきた。しかしその起源は、古代ギリシア幾何学で用いられた、ある命題の前提を発見しその証明を構築するための方法にまで遡ることができる。そして、プラトンはその幾何学的分析法を自らの哲学探究に受容した最初の哲学者であった。</p> <p>この講義ではまず、現代の分析哲学の興隆以前の古代から近世において、「分析」法がどのように用いられてきたか概括する。そして、そこで特定される二つの主要な分析概念（「逆行的分析」と「分解的分析」）が、ともにプラトンによる幾何学的分析法の受容に由来していることを検討する。それに際し着目する点は、プラトンの中期対話篇の「仮設法」（逆行的）と後期対話篇の「総合と分割法」（分解的）との関係である。ここから、プラトンの上記二つの哲学方法に対する包括的視点と、分析方法ないし分析概念の最初期の哲学的動向について明確な理解を提供することを目的とする。</p> <p>なお、この授業は一次文献（翻訳で構わない）の読解に基づく議論も含むので、受講者の積極的な参加が求められる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋哲学の歴史において、分析法がどのように用いられてきたか理解できる。</li> <li>・プラトンの異なる哲学方法を分析法の観点から包括的に理解できる。</li> <li>・異なる解釈の可能性を、一次文献の読解に基づきながら、批判的に考えることができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>一日目：古代から近世における分析法概括          第一回：講師による解説          第二回：受講者を交えた議論          第三回：議論のまとめ</p> <p>二日目：『メノン』と『パイドン』における仮設法          第四回：講師による解説          第五回：受講者を交えた議論          第六回：議論のまとめ</p> <p>三日目：善の定義探求と『国家』における仮設法          第七回：講師による解説          第八回：受講者を交えた議論          第九回：議論のまとめ</p> <p>四日目：定義探求のパラドクスと想起説</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(特殊講義)(2)

第十回：講師による解説  
第十一回：受講者を交えた議論  
第十二回：議論のまとめ

五日目：総合と分割法  
第十三回：講師による解説  
第十四回：受講者を交えた議論  
第十五回：議論のまとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

トピック毎（一日につきトピック）のリアクション・ペーパー（20%）と授業内の議論の貢献度（20%）、そして最終レポート（60%）の合計により総合的に評価します。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

この講義の全体像を理解するためには、以下の2点が最適です。

Beaney, Michael, "Analysis", The Stanford Encyclopedia of Philosophy (Summer 2018 Edition), Edward N. Zalta (ed.), URL = <<https://plato.stanford.edu/archives/sum2018/entries/analysis/>>.

Benson, H. H., (2015), Clitophon's Challenge: Dialectic in Plato's Meno, Phaedo, and Republic, Oxford University Press, New York.

より詳しい参考文献は、授業の際に配布します。

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前にリアクション・ペーパーの課題とそのための文献表を配布しますので、集中講義が始まる前までに取り組むようにしてください。

また、復習として、当日の解説と議論の内容をまとめ、レポート課題作成に役立ててください。

（その他（オフィスアワー等））

不明な点があれば、いつでもメールで問い合わせて下さい（[n.iwata@fukuoka-u.ac.jp](mailto:n.iwata@fukuoka-u.ac.jp)）。授業前後に質問することもできます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系29

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		精神修養としての古代哲学：ピエール・アドを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学史を捉える視点は、時代順、影響史、学派、哲学テーマなど様々である。そのなかで、西洋古代哲学史を「精神修養」(exercices spirituels)と特徴づけて論じたのが、フランスの古代哲学研究者ピーエール・アド(Pierre Hadot, 1922-2010)である。そうした哲学史観は、フーコーにも影響を与えたことで知られている。本講義では、アドの『古代哲学とは何か』(Qu'est-ce que la philosophie antique?)や『精神修養と古代哲学』(Exercices spirituels et philosophie antique)を手掛かりに、「精神修養」あるいは「生の技法」(ars vivendi)としての古代哲学を検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代哲学史研究の手法を習得する。 アドの「精神修養としての哲学」という考え方を理解する。 生の技法としての古代哲学という視点で哲学史を捉えることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、進み具合や受講生の関心に応じて、許可を得たうえで変更する場合がある。</p> <p>第1回 ピエール・アドの紹介 第2回 様々な哲学史観 第3回 『古代哲学とは何か』第1部の検討1：プラトン以前の「哲学」 第4回 『古代哲学とは何か』第1部の検討2：プラトン以後の「哲学」 第5回 『古代哲学とは何か』第2部の検討1：プラトン・アリストテレスと精神修養 第6回 『古代哲学とは何か』第2部の検討2：ヘレニズム1 第7回 『古代哲学とは何か』第2部の検討3：ヘレニズム2 第8回 『古代哲学とは何か』第2部の検討4：帝政期1 第9回 『古代哲学とは何か』第2部の検討5：帝政期2 第10回 『古代哲学とは何か』第3部の検討：キリスト教中世の哲学と古代哲学の終焉 第11回 これまでのまとめ・ディスカッション 第12回 『精神修養と古代哲学』1：精神修養 第13回 『精神修養と古代哲学』2：フーコーとの対話 第14回 『精神修養と古代哲学』3：自己修練(culture de soi) 第15回 ディスカッション・総括 フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加（20%）、課題（個別報告など）への取り組み（30%）、学期末レポート（50%）を総合的に評価する。  
レポートおよび個別報告については到達目標の達成度に基づき評価する。

### 【教科書】

授業中に指示する

基本的に教員がアドの著作を解説する仕方で授業を進めるが、事前にプリント等を配布して、課題を課すことがある。授業での指示に従うこと。

### 【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

示される課題や、指定されたテキストを読み、理解を深めて授業に出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系30

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		共通の感覚、自己知覚、想像、感情：「中間的」心的概念を再考する									
【授業の概要・目的】											
<p>感覚知覚と知的思考との間に位置するとしばしば考えられてきた共通感覚、自己知覚、想像、そして感情などの諸概念は、プラトンとアリストテレスの考察に起点をもつが、その後の歴史において大きな変容を遂げた。しかし心の哲学だけでなく、倫理学や美学にもかかわる現代的諸問題を考えるとき、あらためてその歴史を遡りその源泉的思考のもつ可能性を見届けることは有意義である。歴史的経緯についてのさまざまな誤解を排しつつ、源泉の思考の可能性を明らかにする。</p>											
【到達目標】											
<p>哲学の基礎概念の原型と歴史、そしてその現在を再検討することを通じて、歴史的視点と理論的視点から、哲学の基本問題を平明に考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進行や聴講者の理解などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 案内          第2回 生きるためのカテゴリーとしての心的諸概念          第3回 共通の感覚(1) 何のための感覚か          第4回 共通の感覚(2) 「共通感覚」への特殊化と濫用          第5回 自己知覚(1) 外的知覚としての自己知覚          第6回 自己知覚(2) 内的知覚への変容          第7回 自己知覚(3) 環境、他者、社会          第8回 想像(1) 「衰弱した感覚」から「諸能力の女王」へ          第9回 想像(2) 像、イメージ、類似性          第10回 想像(3) 真理と虚構          第11回 感情(1) カテゴリー化の背景          第12回 感情(2) 感情論の復権と停滞          第13回 感情(3) 感情、フィクション、合理性          第14回 徳と心理学          第15回 よく生きるためのカテゴリーとしての心的諸概念</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（詳細については授業で説明する）。											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

中畑正志 『魂の変容：心的基礎概念の歴史的構成』(岩波書店)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業内で事前に読むべき資料などを配付するので、予習しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系31

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イデア原因論とは何か									
【授業の概要・目的】											
<p>プラトンの著作『パイドン』100c4-6では「もし美しさそのもの以外の何か他のものが美しいならばそれが美しいのは、あの美しさを分有すること以外のいかなる理由によるのでもない」という仮説が提示されます。簡単に言うと、美しさそのものを除く或る美しいものは、美しさを分有することによって美しい、というものです。一般的には、この仮説は「イデア原因論」(Forms as Causes)と呼ばれ、この仮説を提示する箇所(100b1-102a10)は、プラトンが初期のソクラテス哲学を離れて、「イデア論」という独自思想を提示する重要箇所だと考えられています。しかし、私見では、この仮説は(これまで夥しい議論が存在するにもかかわらず)いまだ十分に理解されておらず、そもそも「イデア原因論」という呼称自体がミスリーディングであると思われる。本講義ではあらためてこの仮説が提示される箇所の諸問題を整理して、この仮説の意味と役割を明確に把握しようと試みます。</p>											
【到達目標】											
西洋哲学史に深刻な影響を与えたプラトンの形而上学説をその基本から考え直すことを通じて、基礎的な形而上学的研究を理解し、自分でも検討できるようになること。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし受講者の理解の程度を考慮して、必要に応じた変更を加えながら話を進めたいと思います。											
<p>第1回 イントロダクション          第2回 問題の所在          第3回 従来解釈の整理(1): 属性解釈          第4回 従来解釈の整理(2): イデア解釈          第5回 『パイドン』最終論証の解説(1): 概説          第6回 『パイドン』最終論証の解説(2): 自然学や常識による原因説明          第7回 『パイドン』最終論証の解説(3): 善による原因説明          第8回 『パイドン』最終論証の解説(4): エイドスによる原因説明          第9回 新しい解釈の説明          第10回 定義探究型対話篇との関係(1)          第11回 定義探究型対話篇との関係(2)          第12回 特性と特徴づけられた状態(1)          第13回 特性と特徴づけられた状態(2)          第14回 西洋哲学史における形相原因説の重要性          第15回 期末レポート・フィードバック</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価します。期末レポートでは、講義に関連するかぎりでの、自分に興味のある問題を取りあげて、5,000字程度で論じてもらいます。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

藤澤令夫 『藤澤令夫著作集2：アイデアと世界』(岩波書店, 2000)

藤澤令夫 『藤澤令夫著作集3：世界観と哲学の基本問題』(岩波書店, 2000)

朴一功(訳) 『饗宴ノパイドン』(京都大学学術出版会, 2007)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で参考書目を指示し、必要な資料を配付しますので、必要に応じて予習をして講義に臨んでください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



思想文化学系32

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 永嶋 哲也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		12世紀の西欧思想 存在、真理、意味について									
【授業の概要・目的】											
<p>【概要】          西欧12世紀に戦わされた普遍論争について、アベラルドゥス（ピエール・アベラール）哲学の紹介を通じて、何を存在すると認め、何を存在するとは認めないと考えていたかが考察される。          まず中世哲学の概説として、西欧中世におけるアリストテレスの重要性についてが講じられる。さらに、アベラールとエロイズによる往復書簡によって12世紀初頭パリの思想状況とアベラルドゥス個人の思想的立場が講じられる。そのうえで中世言語哲学や中世スコラ学の基本的事項についての解説とともに、アベラルドゥスによる『ポルフィリウス「イサゴゲー」註解』において展開されるアベラルドゥス普遍論の検討がなされる。</p>											
<p>【目的】          西欧においてアリストテレスの再受容と大学制度の成立とがはじまる直前である12世紀前半において、その時代のスコラ学が或る意味で特殊なスコラ学とならざるを得なかったところを学ぶことで、中世哲学全体を見通すための有益な視点を得ることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
アベラルドゥスの思索の実像を理解し、いわゆる「教科書的」な哲学史解説との相違について知ることを通じて、11～12世期の西欧思想について考察を深めることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
講義は以下の項目を予定している（各項目は、受講者の関心や要望を踏まえて変更する可能性がある）。また【 】で指示した週数を基本に、受講者の予備知識の多寡、理解の程度を確認しながら調整を行う。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．導入：中世哲学とアリストテリズム【1回】</li> <li>2．旧論理学(Logica vetus)について【2回】</li> <li>3．アベラルドゥスと12世紀西欧【2回】</li> <li>4．中世初期の普遍論争【3回】</li> <li>5．アベラルドゥスの普遍論【3回】</li> <li>6．12世紀恋愛論【3回】</li> <li>7．総括【1回】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
質問、討論、コメントなどによる授業への積極的な参加（20点）、最終レポート（1回、80点）。											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(特殊講義)(2)

- ・最終レポートは必須とする。

### [教科書]

使用しない

講義資料はWEB上に掲載するので、受講者には、各自が所有する情報端末（スマートフォン、タブレット、ノートパソコン等）で資料を読むことが求められる。ただし、情報端末を所持しないなどの理由で、WEB上の資料にアクセスできない受講者には個別に対応する。

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業前には、直前の授業で指示された資料を読んでおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は講義時間前後に受けつける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系33

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの <modus> 研究									
【授業の概要・目的】											
トマス・アクヴィナスが様々な箇所・意味で用いている <modus> の概念を考察することで、トマスの <modus> 概念の哲学・哲学史的重要性を明らかにする。											
【到達目標】											
トマス・アキナスの思想の重要な概念である esse, ratio, modus, forma ( species ) , materia 及び概念どおしの関係について、自分なりの理解と考察ができるようになる。また、トマスの <modus> 概念の歴史的背景についても理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション <modus> が使われているトマスの基本的なテキスト トマスの <modus> に関する問題 文献案内											
第2回 <modus> の歴史的背景の概説 トマス以前のmodus とトマス以後のmodus											
第3-6回 <modus> の存在論的用法 アウグスティヌスにおけるmodus トマスのアウグスティヌスのmodus 解釈											
第7-10回 <modus> の意味論的用法 様態論におけるmodus (modus essendi, modus intelligendi, modus significandi)											
第11-12回 <modus> の修辞学・倫理的用法 キケロにおける modus アルベルトゥス・マグヌスにおける modus											
第13-14回 考察のまとめ トマスの <modus> 概念の歴史的源泉 トマスの体系における <modus> の役割											
第15回 フィードバック：授業内容に対する質問受付											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

レポート

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

参考文献は適宜授業内で紹介する。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

講義で扱う、アウグスティヌス、トマスなどのテキストを事前に読んでおくことが望ましい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系34

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの『精神現象学』における古代社会論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Aである。この箇所では、ソフォクレスの悲劇『アンティゴネ - 』を基本的に参照しながら、古代ギリシアにおける共同体の一体性を人倫的実体として規定しながら、どうじにそこに近代的主体がないままにいかにして対立が生じ、古代社会が崩壊するのかを描いている。さらに、そこでは男性と女性の対立が問題となっており、ジェンダー理論の文脈でも現代において参照されている箇所である。そのテキストの検討を通じて、ヘーゲルの古代社会についての理解とジェンダー理解について検討する。											
【到達目標】											
古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 理性から精神へ、近代から古代へ 第3回 精神と人倫的実体 第4回 威力と個人 第5回 神法と人法 第6回 男と女 第7回 主体性なき行為：人倫的行為 第8回 美学と行為 第9回 行為についての知 第10回 罪と運命 第11回 実体の崩壊 第12回 法状態 第13回 個人主義 第14回 帝国と個人 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。

### [教科書]

授業内で配布する。

### [参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

檜山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に、次回授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系35

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの『精神現象学』における個人と社会									
【授業の概要・目的】											
この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「理性章」BおよびCである。理性章では、自己意識章を通じて獲得された「一切の実在性である」という意識の確信から、意識章からの対象認識と自己意識の実践とがより高次の立場で捉え返されている。B、C節では特に社会共同体への個人の実践的関与のあり方について記述しており、社会哲学的にも、また行為論的にも興味深い議論が展開されている。そのテキストの検討を通じて、個人と社会、および近代社会についてのヘーゲルの見解を検討していく。											
【到達目標】											
古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 B.理性的自己意識の自分自身による実現 第3回 a. 快と必然性 第4回 b. 心の法則と自負の狂気 第5回 c. 徳と世間 第6回 C. 自らにとって即かつ対自的に実在的な個性 第7回 個性 第8回 事そのもの 第9回 欺瞞 第10回 立法する理性 第11回 法を検証する理性 第12回 理性の到達点 第13回 行為論と道徳論 第14回 理性と精神 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。

### [教科書]

授業内で配布する。

### [参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

檜山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に、次回授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 池田 真治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋近世哲学における抽象と概念形成の問題									
【授業の概要・目的】											
<p>17世紀～18世紀前半の西欧近世哲学における、抽象と概念形成の諸理論を解明することを目標とする。17世紀～18世紀前半という初期近代は、数学や諸科学の改革がなされ、機械論哲学など新しい哲学が起こり、学問の方法論が問われ、知識論の大きな変革がなされた時代である。その中でも主要な問題となったのが、それまでの伝統的哲学であるアリストテレス・スコラの哲学において大きな位置づけを占めた「抽象」の理論に対する批判であろう。しかし、抽象の問題は、普遍論争と並び中世哲学から連続する中心的問題でありながら、知識の対象としての「観念」や、認識様式である「直観」に対する議論と比べればそれほど注目されておらず、これまで必ずしも十分に検討されていないように思われる。そこで本講義では、抽象と概念形成という知識を形成するプロセスという視点から、改めて近世という時代の思想を考察してみたい。</p> <p>まず、問題の文脈をつかむため、はじめに古代・中世における抽象の理論の概説を行う。そして、17世紀スコラにおける抽象の概念を、当時の哲学辞典やデカルトらに読まれた哲学書を中心につかむ。</p> <p>次に、デカルトやロック、ライプニッツにおいて抽象の考えがどのように捉えられていたのかを問題にする。最初に、デカルトがどのようにスコラを受容した批判をしたのか、デカルトの抽象と実在的区別の理論について検討する。そして、アルノーとニコルらによる『ポール・ロワイヤルの論理学』など、デカルト派における抽象の理論を検討する。また、ロックにおける抽象一般観念の形成を分析し、その理論がバークリ、ヒュームら経験論の文脈でどのように批判されたのかを検討する。そして、ライプニッツが、それまでのスコラの抽象理論、デカルトやロックらを踏まえて、どのような抽象の理論を考えたのかを検討する。</p> <p>最後に、抽象の哲学的問題とは何か、より現代的な観点からの検討を踏まえることで、近世哲学における抽象と概念形成の問題の意義について考察する。</p>											
【到達目標】											
近世哲学の基本的問題群を学ぶとともに、抽象と概念形成という知識論・学問論を中心とした哲学的主題を、自らの関心にに基づき哲学的・歴史的に考察できるようになることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
基本的には以下の計画に沿って進める。ただし、講義の進み具合などに応じて、扱う項目や順序等は変更する。											
<p>第1回 イントロダクション：問題の設定、授業の進め方、文献の紹介、履修上の注意</p> <p>第2回 古代・中世における抽象の理論の概説</p> <p>第3回 17世紀スコラにおける抽象の概念</p> <p>第4回～第6回 デカルトとデカルト派における抽象の理論</p> <p>第7回～第9回 ロック、バークリ、ヒュームにおける抽象一般観念</p> <p>第10回～第12回 ライプニッツの抽象の理論</p> <p>第13回～第14回 抽象の哲学的問題とは何か</p> <p>第15回 振り返りと総括</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

レポートにより評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。  
また、レポートの諸条件（分量や書式など）については授業中に指示する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

適宜、事前に読むべき資料を授業中に配布する。しっかり予習しておくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系37

科目ナンバリング		G-LET02 75240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		個、個体、普遍									
【授業の概要・目的】											
個と普遍との対比ないし対立はどのような思想的経緯を経て成立し、どのよに展開されたのか。この問題に関連するアリストテレス(『形而上学』)およびそれについての古代註解者たちの見解、ストア派、プロティノスから、聴講者の希望を考慮しつつ取りあげるテキストを指定して精読する。											
【到達目標】											
古代のテキストを読むための語学力、文献学的手続き、注解をはじめとした従来の解釈の整理と分析の能力、そして哲学の問題を平明かつ論理的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 案内 授業の狙いおよび取りあげるテキスト、基本的な校訂や註解などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。 第2回～第10回 アリストテレス『形而上学』の関連するテキスト(とりわけZ巻H巻)の精読 第11回～第14回 上記テキストに関するアリストテレス註解者たちの註解の精読 第15回 中間的まとめと反省 第16回～第20回 初期ストア派断片(SVF)の関連するテキストの精読 第21回～第29回 プロティノス『エンネアデス』およびポルピュリオス『エイヌアゴーゲー』の関連するテキストの精読 第30回 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(報告の担当と議論への参加にもとづいて評価する)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で読む予定の範囲のテキストおよび指定された注解や関連文献を読み、あわせて各回の担当者から事前に配布される訳についても検討しておくこと。  
担当者は報告する週の初めまでに授業参加者に担当箇所の訳文を配布すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系38

科目ナンバリング		G-LET02 75240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志 文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		古代哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討し、理解を深める。											
[到達目標]											
従来 of 解釈を踏まえた上で哲学的に重要な問題を明晰に考察する能力と、明晰に討論する力を養う。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方について説明をおこない、各回の発表者を決定する。 第2回～第29回 西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。話題の選択は自由であるが、発表者には授業参加者が共有できるような明晰な議論が求められる。なお修士論文提出予定者は、この授業で必ず論文の構想を発表すること。 第30回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(発表と議論への積極的な貢献の両方にもとづいて評価する)											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 特になし											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表者は、発表する週の月曜日までに参加者に発表要旨を配布すること。参加者はその発表要旨を事前に読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』を読む(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『クラテュロス』の原典を精読します。しばしば言語学や言語哲学の先駆けと見做されるこの対話篇は「名前の正しさ」を主題とします。登場人物のクラテュロスは、名前の正しさは自然本性的に決まっていると主張するのに対して、ヘルモゲネスは、それは人々の同意や慣習で決まると考えます。二人の調停を依頼されたソクラテスは、この問題を詳しく究明することになるのですが、対話篇の大部分は、神の名前や哲学的に重要な言葉についての語源分析に当てられます。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。</li> <li>・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。</li> <li>・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『クラテュロス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページ程度講読を進めます。各参加者は、指名された箇所（通常15行ほど）をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』 416a7-417b5の講読・検討</p> <p>第3回 『クラテュロス』 417b6-418d3の講読・検討</p> <p>第4回 『クラテュロス』 418d4-419e1の講読・検討</p> <p>第5回 『クラテュロス』 419e1-421b1の講読・検討</p> <p>第6回 『クラテュロス』 421b1-422c6の講読・検討</p> <p>第7回 『クラテュロス』 422c7-423d6の講読・検討</p> <p>第8回 『クラテュロス』 423d7-425a5の講読・検討</p> <p>第9回 『クラテュロス』 425a5-426d3の講読・検討</p> <p>第10回 『クラテュロス』 426d3-428a5の講読・検討</p> <p>第11回 『クラテュロス』 428a6-429c6の講読・検討</p> <p>第12回 『クラテュロス』 429c7-430d7の講読・検討</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(演習)(2)

- 第13回 『クラテュロス』 430d8-432a4の講読・検討  
第14回 『クラテュロス』 432a5-433b11の講読・検討  
第15回 まとめ

### 【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

### 【教科書】

Duke, E. A. et al. 『/Platonis Opera/ Tomus I (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1995.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

### 【参考書等】

(参考書)

Francesco, Ademollo. 『/The Cratylus of Plato/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2011.)

Sedley, David. 『/Plato 's Cratylus/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2003.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系40

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』を読む(4)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『クラテュロス』の原典を精読します。しばしば言語学や言語哲学の先駆けと見做されるこの対話篇は「名前の正しさ」を主題とします。登場人物のクラテュロスは、名前の正しさは自然本性的に決まっていると主張するのに対して、ヘルモゲネスは、それは人々の同意や慣習で決まると考えます。二人の調停を依頼されたソクラテスは、この問題を詳しく究明することになるのですが、対話篇の大部分は、神の名前や哲学的に重要な言葉についての語源分析に当てられます。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。</li> <li>・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。</li> <li>・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『クラテュロス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページ程度講読を進めます。各参加者は、指名された箇所（通常15行ほど）をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。</p> <p>順当に進んだ場合、第7回目の授業で『クラテュロス』を読了するため、残りの授業は5世紀に書かれたプロクロスの『クラテュロス注解』のはじめの部分を読みます。</p> <p>最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』433b12-434d1の講読・検討</p> <p>第3回 『クラテュロス』434d2-435e5の講読・検討</p> <p>第4回 『クラテュロス』435e6-437b2の講読・検討</p> <p>第5回 『クラテュロス』437b2-438b3 (VERSIO B)の講読・検討</p> <p>第6回 『クラテュロス』438b8-439d2の講読・検討</p> <p>第7回 『クラテュロス』439d3-440e7の講読・検討</p> <p>第8回 『クラテュロス』のまとめ</p> <p>第9回 プロクロス『クラテュロス注解』1-2の講読・検討</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											



## 西洋哲学史(演習)(2)

- 第10回 プロクロス 『クラテュロス注解』 3-4の講読・検討  
第11回 プロクロス 『クラテュロス注解』 5-6の講読・検討  
第12回 プロクロス 『クラテュロス注解』 7-8の講読・検討  
第13回 プロクロス 『クラテュロス注解』 9-10の講読・検討  
第14回 プロクロス 『クラテュロス注解』 11-12の講読・検討  
第15回 全体のまとめ

### 【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

### 【教科書】

Duke, E. A. et al. 『/Platonis Opera/ Tomus I (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1995.)

Pasquali, Georgio 『Proclus Diadochus /In Platonis Cratylum Commentaria/』 (Stuttgart and Leipzig: B. G. Teubner, 1994.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

### 【参考書等】

(参考書)

Francesco, Ademollo. 『/The Cratylus of Plato/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2011.)

Sedley, David. 『/Plato 's Cratylus/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2003.)

Duvick, Brian 『/Proclus: On Plato Cratylus/』 (London and New York: Bloomsbury Academic, 2014.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系41

科目ナンバリング		G-LET03 75242 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中世哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行う。発表及び発表内容についての議論を通じて、中世哲学史のさまざまな時代・領域の論点についての知識を深め、哲学・哲学史的分析力を高めることを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋中世哲学の諸問題について広く学び、歴史的連関と哲学的重要性について説明できるようになる。</li> <li>・自身の哲学的関心を原典テキストに基づいて明快に記述することができるようになる。</li> <li>・他者の批判的吟味を理解し、それを自分の議論展開や論文作成に活かすことができるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。											
第1回 打ち合わせ、発表順の決定 第2-14回 各自の発表、質疑応答 第15回 まとめ、質問受付											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。発表の内容、討論への参加などにより評価するが、最低1回の発表を行うことが前提となる。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業の特性上、発表担当者は授業外にその準備をすることが必要である。また、その他の出席者も担当者の予告した発表内容について、あらかじめ予習することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
西洋中世哲学史を専攻している学生は必修とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系42

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アクィナス『対異教徒大全』精読I									
[授業の概要・目的]											
トマス・アクィナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味を理解できるようになる。 トマス・アクィナスの哲学思想を原典にそくして理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
本年度は昨年度に引き続き、第2巻第83章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「人間の魂の存在の始まり」に関する諸問題となる。 (1回) イントロダクション (2~14回) 『対異教徒大全』第2巻83章から85章の精読 (15回) まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系43

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 II									
[授業の概要・目的]											
前期の「トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 I」の続き。トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味を理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典にそくして理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、第2巻第86章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「人間の魂と身体 の存在の開始の様態」に関する諸問題となる。 (1回)イントロダクション (2~14回)『対異教徒大全』第2巻86章から89章の精読 (15回)まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系44

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アウグスティヌスの『八十三問題集』を読む									
【授業の概要・目的】											
アウグスティヌスの De diversis quaestionibus octoginta tribus (『八十三問題集』) の読解を通して、神や聖書解釈についてのアウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。											
【到達目標】											
神や聖書解釈についてのアウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。 ラテン語で書かれたテキストを読むことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
アウグスティヌスの De diversis quaestionibus octoginta tribus (『八十三問題集』) のラテン語テキストを丁寧に読む。アウグスティヌスが、哲学・神学上の基本的な問題について論じたテキストを読むことで、各問題について、アウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。本年は三十三問から五十七問までを読む予定である。											
第1回:イントロダクション:文献案内とテキストのコピー配布 第2-14回:テキストの読解:De diversis quaestionibus octoginta tribus 第15回:フィードバック:まとめ、質問受付											
【履修要件】											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。											
【教科書】											
Augustinus 『De diversis quaestionibus octoginta tribus』 (CCSL44A テキストのコピーを配布する予定。)											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)

Augustine 『Responses to miscellaneous questions』 (New City Press) (英訳)

Augustine 『Eighty-Three Different Questions』 (CUA Press) ISBN:978-0-8132-1323-1

ドイツ語訳やフランス語訳は最初の授業で紹介する。

(関連URL)

<http://www.augustinus.it/>(アウグスティヌスのテキスト、イタリア語訳)

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業で読む箇所の訳読ができるように予習する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系45

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの『真理論』を読む									
[授業の概要・目的]											
トマス・アキナス『真理論』の第一問「真理とはなにか」を読み、トマス・アキナスの真理概念を考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテン語で書かれたスコラ哲学のテキストを読むことができるようになる。</li> <li>・スコラ哲学特有の表現や術語に慣れる。</li> <li>・議論の構造を理解しながら、読むことができるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>トマス・アキナスの『真理論』第一問を丁寧に読む。</p> <p>(第1回)イントロダクション：文献案内、テキストのコピーの配布</p> <p>(第2-14回)テキストの精読</p> <p>(第15回)フィードバック：まとめ、質問受付</p>											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
Thomas Aquinas 『De Veritate』 (Opera Omnia Iussu Leonis) (初回にテキストのコピーを配布する予定。)											
[参考書等]											
(参考書)											
トマス・アキナス『真理論(上)』(平凡社、2018年)(日本語訳)											
St. Thomas Aquinas 『The disputed questions on truth, vol.1.』(Regnery, 1952)(英訳、文学部図書館蔵)											
Thomas von Aquin 『Von der Wahrheit, De Veritate, Quaestio I』(Felix Meiner)(独訳(ラテン語テキスト付))											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で読む箇所について訳読ができるように予習をすること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系46

科目ナンバリング		G-LET04 75244 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世・近代西洋哲学史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
本授業では履修者が研究報告を行い、相互に検討し合う。											
[到達目標]											
論文や研究報告原稿を執筆する能力を身に付ける。 討論や質問の技法やマナーを身に付ける。 議論を通じて主体的に自分の研究を深めることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 ガイダンス 第2回 研究課題の設定 第3回~第14回 研究報告と検討 第15回 総括											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点にて評価を行う。具体的には報告内容、他の報告者の報告の際のコメント内容などに基づいて評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
報告者は事前に原稿を提出することを求められる。 他の報告者はその原稿を事前に精読して臨むこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



思想文化学系47

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの『精神現象学』における古代社会論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』(1807)について講義する。扱うのは「精神章」Aである。この箇所では、ソフォクレスの悲劇『アンティゴネ - 』を基本的に参照しながら、古代ギリシアにおける共同体の一体性を人倫的実体として規定しながら、どうじにそこに近代的主体がないままにいかにして対立が生じ、古代社会が崩壊するのかを描いている。さらに、そこでは男性と女性の対立が問題となっており、ジェンダー理論の文脈でも現代において参照されている箇所である。そのテキストの検討を通じて、ヘーゲルの古代社会についての理解とジェンダー理解について検討する。											
【到達目標】											
古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 理性から精神へ、近代から古代へ 第3回 精神と人倫的実体 第4回 威力と個人 第5回 神法と人法 第6回 男と女 第7回 主体性なき行為：人倫的行為 第8回 美学と行為 第9回 行為についての知 第10回 罪と運命 第11回 実体の崩壊 第12回 法状態 第13回 個人主義 第14回 帝国と個人 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)へ続く -----											

## 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。

### [教科書]

授業内で配布する。

### [参考書等]

（参考書）

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

檜山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に、次回授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系48

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋哲学史古典精読									
[授業の概要・目的]											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> 、精神章B。「疎外された精神」を精読する。この箇所は、ヘーゲルが近代社会を精神の自己疎外として描いた箇所であり、そこではヘーゲルの近代観をうかがうことができる。この章の講読を通じて、ヘーゲルの歴史観を検討する。											
[到達目標]											
哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身に付ける。 ヘーゲルを中心とした哲学史について理解する。 古典的テキストの現代的意義について考察することにより、哲学的思考の訓練を行う。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 『精神現象学』の成立と研究史について担当者より概説する。授業の進め方と準備・発表の方法を確認し、出席者の担当部分を決定する。 第2回~第14回 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> の講読 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> を精読し、内容について討論する。学生の習熟度や毎回の予定を示すことはできないが、おおむね下記のPHB版で1回2頁程度を目処として進行する。 第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。											
[履修要件]											
ドイツ語文法を一通り学習し終えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点にて評価する。											
[教科書]											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> (Felix Meiner) ISBN:978-3-7873-0769-2 Herausgegeben von Heinrich Clairmont und Hans Friedrich Wessels, Philosophische Bibliothek 414. 1987. Neuauflage. Mit einer Einleitung von Wolfgang Bonsiepen											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
講読予定の箇所(2頁程度)について必ず予習してのぞむこと。(授業ではドイツ語の文法上の説明及び内容理解について問うのでそのつもりで準備すること) 関連箇所について既存のコメンタールなどを参照しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系49

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部哲学科 教授 中川 明才			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィヒテ『自然法の基礎』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>ドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深め、ドイツ語で書かれた原典の読解能力を高める目的で、前期に引き続き、ヨハン・ゴットリーブ・フィヒテの『自然法の基礎』（1796/97年）の精読を行なう。『自然法の基礎』はイエーナ大学教授時代（いわゆるイエーナ期）フィヒテの哲学体系のうち、第一哲学を補完する応用哲学の主要部門に該当する書物である。特に、他者（「私以外の他の有限な理性的存在者」）や自然、相互承認に関する議論を展開したものとしては、カントを継承するとともに、シェリングに屹立し、ヘーゲルの先駆をなすものと解される、カント以後のドイツ古典哲学の問題状況を知るための基本文献である。この授業では毎週、輪読形式でその精読を行なう。出席者は必ず予習をして臨み、訳読を行なうとともに、それに加えて、予め担当者を決め、授業冒頭で前回のプロトコルを発表することとする。今学期は、自由な理性的存在者同士の共同性（「法関係」）の存立基盤を論じる「第2部 法概念の適用可能性の演繹」を読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>イエーナ期フィヒテの法哲学をはじめとするドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深める。ドイツ語テキストの読解力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション イエーナ期フィヒテの哲学体系構想および『自然法の基礎』「第1部」の概要を説明する。使用するべきテキスト・辞書および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 『自然法の基礎』「第2部」の精読 「授業の概要・目的」で示した方式によって、『自然法の基礎』「第2部」を精読し、内容について討論する。読解個所の難易度と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね「哲学文庫」版テキスト（PhB 256、ドイツ語）の2ページ程度を読み進めることになる。</p> <p>第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
<p>精読対象のテキストはドイツ語で書かれているため、ドイツ語の基礎文法を修得していることが望ましい。</p>											
----- 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【成績評価の方法・観点】

読解および討論への積極的な参加（50点）、プロトコルの発表（50点）により評価する。

【教科書】

Johann Gottlieb Fichte 『Grundlage des Naturrechts nach den Prinzipien der Wissenschaftslehre. PhB 256』  
（Felix Meiner Verlag,1979）ISBN:9783787304738（使用テキストは授業初回時に配布します。）

【参考書等】

（参考書）

Johann Gottlieb Fichte 『Foundations of Natural Right』（Cambridge University Press, 2000）ISBN:  
0521575915

Jean-Christophe Merle (Hrsg.) 『Johann Gottlieb Fichte, Grundlage des Naturrechts』（Akademie Verlag,  
2001）ISBN:3050030232

Günter Zöller 『Fichte lesen』（frommann holzboog Verlag, 2013）ISBN:9783772822414

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、読解箇所を十分に訳読するための予習、および各自の理解・問題意識の精度を上げるための復習を行なうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系50

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部哲学科 教授 中川 明才			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィヒテ『自然法の基礎』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>ドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深め、ドイツ語で書かれた原典の読解能力を高める目的で、ヨハン・ゴットリーブ・フィヒテの『自然法の基礎』（1796/97年）の精読を行なう。『自然法の基礎』はイエーナ大学教授時代（いわゆるイエーナ期）フィヒテの哲学体系のうち、第一哲学を補完する応用哲学の主要部門に該当する書物である。特に、他者（「私以外の他の有限な理性的存在者」）や自然、相互承認に関する議論を展開したものとしては、カントを継承するとともに、シェリングに屹立し、ヘーゲルの先駆をなすものと解される、カント以後のドイツ古典哲学の問題状況を知るための基本文献である。この授業では毎週、輪読形式でその精読を行なう。出席者は必ず予習をして臨み、訳読を行なうとともに、それに加えて、予め担当者を決め、授業冒頭で前回のプロトコルを発表することとする。今学期は、自由な理性的存在者同士の共同性（「法関係」）の概念の生成を論じる「第1部 法概念の演繹」を読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>イエーナ期フィヒテの法哲学をはじめとするドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深める。ドイツ語テキストの読解力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション イエーナ期フィヒテの哲学体系構想および『自然法の基礎』「第1部」の概要を説明する。使用するべきテキスト・辞書および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 『自然法の基礎』「第1部」の精読 「授業の概要・目的」で示した方式によって、『自然法の基礎』「第1部」を精読し、内容について討論する。読解個所の難易度と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね「哲学文庫」版テキスト（PhB 256、ドイツ語）の2ページ程度を読み進めることになる。</p> <p>第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
<p>精読対象のテキストはドイツ語で書かれているため、ドイツ語の基礎文法を修得していることが望ましい。</p>											
----- 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【成績評価の方法・観点】

読解および討論への積極的な参加（50点）、プロトコルの発表（50点）により評価する。

【教科書】

Johann Gottlieb Fichte 『Grundlage des Naturrechts nach den Prinzipien der Wissenschaftslehre. PhB 256』  
（Felix Meiner Verlag,1979）ISBN:9783787304738（使用テキストは授業初回時に配布します。）

【参考書等】

（参考書）

Johann Gottlieb Fichte 『Foundations of Natural Right』（Cambridge University Press, 2000）ISBN:  
0521575915

Michael Kahlo u.a. (Hrsg.) 『Fichtes Lehre vom Rechtsverhältnis』（Vittorio Klostermann Verlag, 1992）  
ISBN:3465025342

Günter Zöller 『Fichte lesen』（frommann holzboog Verlag, 2013）ISBN:9783772822414

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、読解箇所を十分に訳読するための予習、および各自の理解・問題意識の精度を上げるための復習を行なうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系51

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		田辺元最晩年の哲学 芸術哲学か科学哲学か									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は2020年度・後期の講義の続編である。田辺元が最晩年に初めて研究テーマとした芸術哲学と、初期より深められてきた科学哲学を取り上げ、比較研究を行うことを目指す。科学哲学から出発した田辺の研究には、「感情」について詳細に論じた形跡はない。しかしあえて、近代哲学的な意味での「芸術」という領域に固有な「感情」を、田辺において問うことにする。田辺が重要な課題として芸術と理性の内的葛藤という問題を検討した芸術論において、感情はどのように関連してくるのかという仕方で問いを呈示してみたい。というのも『ヴァレリイの芸術哲学』(1951年)および『マラルメ覚書』(1961年)で論じられた、「象徴」と「言語」、「論理」の連関を検討することにより、「感情」の問題を探ることは可能であると考えられるからである。講義では、主にこの二著を題材とし、田辺の芸術哲学における感情と哲学の問題を探るとともに、この最晩年期の哲学の特徴を明らかにする。</p>											
【到達目標】											
<p>田辺哲学の基本的な特徴と問題を理解する。その上で、なぜ田辺が最晩年期に芸術哲学に関心を向けたのか、彼の哲学構築過程から見る経緯やその他の意義について理解を深める。さらに、芸術哲学の内実に取り、影響を与えたカント、ライプニッツ、ハイデガー等の哲学から田辺がそれをいかに摂取したかについても確認する。そして、芸術と理性の内的葛藤、および感情と哲学という問題を田辺がどのように考えたのか、関わってくる要素を整理し明確にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。各課題に充てる予定の回数を、【 】内に示しておく。</p> <p>ガイダンス 趣旨説明と授業計画。【1回】          数学的問題と「象徴」の連関。【4回】          芸術哲学の発展：『マラルメ覚書』をてがかりとし、田辺のハイデガー哲学との対決について検討する。【3回】          感情と象徴の問題：芸術と宗教の関係から検討する。【1回】          感情と哲学、芸術と理性の内的葛藤、西田の芸術哲学との比較【4回】          フィードバック【1回】</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%と期末のレポート試験50%による。											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											



日本哲学史(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系52

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自覚の哲学 - 西田最晩年の思索を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、西田哲学の一つの根本を支えるものを「自覚」ととらえ、最初期から最晩年までにどのような発展があり、西田の思索全体をいかなる仕方で支えたのかを探ることにある。この概念の創出と成熟の背景にあったのは、カント、フィヒテ、ベルクソン、新カント学派、デカルトなど多くの西洋の哲学者の思想であるが、これらを探りつつ西田の「自覚」の性格を特徴づける。</p>											
【到達目標】											
<p>西田の自覚の重要性と特徴を、この哲学原理の創出と成熟の背景にあった思想と比較したうえで理解することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。各課題に充てる予定の回数を、【 】内に示しておく。</p> <p>ガイダンス 趣旨説明と授業計画。【 1回】          西洋近代の「自覚」概観：【 3回】          西田の「自覚」創出期【 1回】          西田の「自覚」の展開【 4回】          西田の「自覚」の成熟【 4回】          宗教哲学へ【 1回】          フィードバック【 1回】</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。											
【教科書】											
<p>使用しない          毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書)          授業中に紹介する</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究									
[授業の概要・目的]											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けつぐことができるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>なおこの研究は、来年度以降も後期の特殊講義をあて、数年かけて進めていく予定である。今年度は、1940年頃までの初期の諸論考を主に扱うことになる。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</li> <li>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</li> <li>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2,3回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポスト西谷的宗教哲学へ 西谷宗教哲学の受け取り直しのために</li> <li>2. 「空の立場」と「禅の立場」 西谷宗教哲学への俯瞰的導入</li> <li>3. 卒業論文「シェリングの絶対的観念論とベルクソンの純粹持続」 西谷宗教哲学の端緒</li> <li>4. 「悪の問題」への着手 西谷宗教哲学の導きの糸</li> <li>5. 哲学的神秘主義と根源的主体性 前期西谷宗教哲学の二つの焦点</li> </ol> <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 日本哲学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の思索との接点を組織的に探ってほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系54

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 James W. Heisig			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3,4 隔週開講	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Ethics and the Kyoto Philosophical Tradition									
【授業の概要・目的】											
<p>Ethics has to do with the ethical subject, but its subject matter extends beyond the subject to include human society and the natural world. Moreover, although ethics does not stop at reflection on ethics but must open out into ethical action, reflection "--"; whether on the ethical subject or on the needs of the wider world "--"; is also part of ethical action.</p> <p>These questions will be look at critically in the thinking of four thinkers from the same Kyoto philosophical tradition: Nishida Kitaro, Tanabe Hajime, Nishitani Keiji, and Ueda Shizuteru. The aim will be not only to look at the insights and oversights of each of these thinkers with regard to ethics, but also consider how their tradition may be given new life by addressing the questions they left open.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Nishida's view of "self-awareness" as a grounding of the I-Thou relationship and his view of nature.</li> <li>• Tanabe's view of the open and closed society as a basis for his understanding of self-awareness and his logic of the specific.</li> <li>• Nishitani's idea of ethical ideals in relation to his idea of compassionate action in self-joyous samadhi.</li> <li>• Ueda's reading of the "Oxherding Pictures" as a foundation for an ethics of compassionate action.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>The following topics will be taken up in order. The number in brackets refers to the number of lectures devoted to each.</p> <p>Fundamental questions of ethics and ethical theory [1]          Nishida's view of ethics [3]          Tanabe's view of ethics [3]          Nishitani's view of ethics [3]          Ueda's view of ethics [3]          Ethics in the Kyoto philosophical tradition for today [ 2 ]</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Class participation and report 50% each.											
【教科書】											
Readings for each lecture will be made available for download in advance.											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Pursuit of one's own research topic in the light of the lectures and class discussions.

**(その他(オフィスアワー等))**

Classes will be held every other week. The lectures will be held in English and/or Japanese, according to the needs of those attending.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹花 洋佑			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史主義としての田辺哲学 - 「京都学派」の哲学における歴史の問題 -									
【授業の概要・目的】											
<p>1930年代の「京都学派」の哲学における中心的概念の一つに歴史があることはよく知られている。世界のリアリティは歴史的なものとして開示されるべきだという基本了解は、当時の多くの哲学者に共有されていたものであると言ってよい。こうした「歴史の過剰さ」の哲学のおよび思想史の意味を、徹底的に歴史に根差すことをおそらく自らに最も課した田辺元の哲学の展開を追跡することを通して、考察することが本講義の課題である。30年代の「種の論理」はもちろんのこと、「懺悔道」以後の戦後の宗教哲学をも、田辺は歴史的であることを本質とする哲学として語ろうとする。その意味で、田辺自身は自らの立場を歴史主義と積極的に表明する。この立場の意味するものを、彼の戦前の思想については主に西田幾多郎との関係で、戦後の思想については主にハイデガーとの関わりにおいて、理解することを試みていく。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田辺元の哲学の展開についての基本的知識を獲得する。</li> <li>・ 田辺の思想的ライバルであった西田幾多郎およびハイデガーの哲学との関係で、田辺の哲学の意味を理解する。</li> <li>・ 「京都学派」の歴史論の意味を20世紀前半の西洋思想の流れの中で理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス          第2回 田辺のハイデガー受容と西田批判の意味          第3回 田辺の身体論と人間学          第4回 西田の「永遠の今」と田辺の西田受容          第5回 田辺のヘーゲル理解          第6回 田辺の「種の論理」(1) - 「種の論理」の基本的構造 -          第7回 田辺の「種の論理」(2) - 西田哲学との関係で -          第8回 1930年代の「京都学派」における歴史の問題 - 三木・高坂・高山・西谷との関係で -          第9回 西洋思想における歴史主義の問題と田辺の歴史主義の立場          第10回 『懺悔道としての立場』における歴史性の問題 - 田辺のハイデガーとの対決 -          第11回 田辺の「実存協同」の思想          第12回 田辺の『哲学と詩と宗教』におけるハイデガー論          第13回 『数理の歴史主義展開』における歴史主義の問題          第14回 田辺の「死の哲学」と西田・ハイデガーの哲学          第15回 まとめ</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 日本哲学史(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

- ・ 平常点とレポートとで評価する。
- ・ 平常点（授業への熱心な取り組み、問題意識を感じさせる発言等）30%、レポート70%。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）

田辺元 『種の論理』田辺元哲学選 』（岩波文庫、2010年）ISBN:978-4003369418

田辺元 『懺悔道としての哲学』田辺元哲学選 』（岩波文庫、2010年）ISBN:978-4003369425

田辺元 『哲学の根本問題・数理の歴史主義展開』田辺元哲学選III 』（岩波文庫、2010年）

田辺元 『死の哲学』田辺元哲学選 』（岩波文庫、2010年）

その他の文献については授業中に紹介する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 次回の授業までに読むべき文献はコピーして配布するので、必ず読んで参加すること。
- ・ 授業内容について討議する時間を各回に設けるので、そのための準備や振り返りを各自で行い、討議の時間に持ち寄ることに務めて欲しい。

### （その他（オフィスアワー等））

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系56

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy(Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 廖 欽彬			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本哲学における田辺哲学									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は比較哲学の視点を通じて、田辺元の哲学とその現代的意義を考察することにある。講義では、宗教哲学、歴史哲学、存在論と現象学、比較哲学という視点から、田辺哲学とほかの哲学者の哲学とを対話させることによって、田辺哲学の普遍性と特殊性を明らかにし、さらに田辺哲学のポテンシャルを掘り出すことを目的とする。											
【到達目標】											
田辺哲学の特殊性と普遍性、そしてその現代的意義を探究する。											
【授業計画と内容】											
以下の4つのテーマで、田辺哲学とほかの哲学者の哲学とを比較し、田辺哲学の特色を示す。各課題に充てる予定の回数を、【 】内に示しておく。											
1. ガイダンス【1回】											
2. 宗教哲学としての田辺哲学【3回】											
3. 歴史哲学としての田辺哲学【4回】											
4. 「種の論理」と現象学【3回】											
5. 異文化間の田辺哲学【3回】											
6. フィードバック【1回】											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価：期末レポート試験（100点満点、60点以上で合格）											
4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
記入してください											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy(Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの『精神現象学』における個人と社会									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「理性章」BおよびCである。理性章では、自己意識章を通じて獲得された「一切の実在性である」という意識の確信から、意識章からの対象認識と自己意識の実践とがより高次の立場で捉え返されている。B、C節では特に社会共同体への個人の実践的関与のあり方について記述しており、社会哲学的にも、また行為論的にも興味深い議論が展開されている。そのテキストの検討を通じて、個人と社会、および近代社会についてのヘーゲルの見解を検討していく。</p>											
【到達目標】											
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス          第2回 B.理性的自己意識の自分自身による実現          第3回 a. 快と必然性          第4回 b. 心の法則と自負の狂気          第5回 c. 徳と世間          第6回 C. 自らにとって即かつ対自的に実在的な個性          第7回 個性          第8回 事そのもの          第9回 欺瞞          第10回 立法する理性          第11回 法を検証する理性          第12回 理性の到達点          第13回 行為論と道徳論          第14回 理性と精神          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 日本哲学史(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。

### [教科書]

授業内で配布する。

### [参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

檜山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に、次回授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系58

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy(Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『善の研究』講解									
【授業の概要・目的】											
本講義は「『善の研究』講解」と題し、西田幾多郎の主著『善の研究』を手がかりにして自己存在の解明を試みる。											
【到達目標】											
『善の研究』の解釈を通して西田の自己存在論の特質を理解すること。											
【授業計画と内容】											
本講義は『善の研究』の諸議論の要点や難読箇所の意味に関して解説するものであるが、同書の関連箇所を参加者各人が予め精読の上、講師の解説を巡って討議しあう講読の時間もそのつど交えて進めていくつもりである。目下のところ、以下のような課題について、1課題あたり2～3週の授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 真実在の根本的方式</li> <li>2. 唯一実在</li> <li>3. 実在の分化発展</li> <li>4. 自然</li> <li>5. 精神</li> <li>6. 実在としての神</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート試験により評価する。											
【教科書】											
西田幾多郎 『善の研究』（岩波文庫）ISBN:978-4-00-331241-4 適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） Kitaro Nishida 『An Inquiry into the Good』（Yale University Press）ISBN:0300052332, 9780300052336 （Abe Masao, Christopher Ives (transl.）） Kitaro Nishida 『Ueber das Gute』（Insel）ISBN:3458344586, 978-3458344582（Peter Poertner (Ueb.））											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に紹介する文献を予習・復習すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
適宜、指示を行う。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系59

科目ナンバリング		G-LET05 7M244 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習II) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本哲学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、日本哲学の主要概念やテーマの理解を深め、また諸問題を自ら新しく掘り起こすことを目的とする。そのために、テキストの読解、研究の口頭発表という二つの方法によって訓練を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代日本の哲学と京都学派およびその周辺の哲学者のテキストを正しく理解し、概念、論旨などを詳細に解説、批評できる。</li> <li>・読解訓練を自らの研究論文の執筆に反映させ、適切な学术论文の書き方を身につける。</li> <li>・口頭による研究発表の仕方を身につける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>この授業は、以下の二部で構成される。</p> <p>前期... 日本哲学の文献の読解 初回： ガイダンス。読解は担当制とする。読解用の文献を選ぶ。研究発表の担当を決める。 2～14回： 担当者が注釈を付けるなどにより準備した読解を発表し、他の参加者と理解の確認や修正を行う。 15回： フィードバック</p> <p>後期... 参加者の研究発表 毎回： 一名が口頭発表を行い、それに続いて発表者と参加者が議論する。 15回： フィードバック</p>											
【履修要件】											
日本哲学史専修の大学院生については、必修とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(発表の内容・方法、議論参加への態度)による。											
----- 日本哲学史(演習II)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習II)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

前期

担当者以外の参加者も、読解するテキストを予習したうえで授業に臨む。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系60

科目ナンバリング		G-LET06 65430 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水谷 雅彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社交と会話の倫理学									
【授業の概要・目的】											
「会話と社交の倫理学」の概要を学ぶことで、これまでの倫理学史とは異なった観点を修得し、あわせてコミュニケーションの哲学と倫理学に関する基礎的な知見を身につけることを目標とする。											
【到達目標】											
「会話と社交の倫理学」の概要を学ぶことで、これまでの倫理学史とは異なった観点を修得し、あわせてコミュニケーションの哲学と倫理学に関する基礎的な知見を身につけることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーションと前説 第2・3回 コミュニケーションと会話 第4・5回 コードモデルとその批判 第6・7回 関連性理論とその批判 第8・9回 言語行為論とその批判 第10回 社交の哲学1(ジンメル) 第11回 社交の哲学2(マリノフスキー) 第12回 社交の哲学3(オークショット) 第13・14・15回 前半のまとめと討論 第16・17回 社交の倫理学1 ヒュームと社交 第18・19回 社交の倫理学2 カントと社交 第20・21回 社交と「排除問題」 第22・23回 寛容の前提としての無知 第24・25回 寛容の倫理学 第26・27回 信頼の倫理学 第28・30回 まとめと討論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の報告と年度末レポート。											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											



倫理学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

前の週に指定した原稿を読んでコメントを準備してくること。

**(その他(オフィスアワー等))**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系61

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 神崎 宣次			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		持続可能性のための倫理学									
【授業の概要・目的】											
<p>環境倫理学は1960年代からの環境危機への一つの対応として、1970年代に学問領域として成立した。環境問題に対して提案される解決としても、倫理学としても奇妙なところがあり、何でこのような理屈をひねり出さなければならなかったのか理解しがたいという評価を受けることがある。この集中講義では環境倫理学の変なところを、それが必要と考えられた背景や状況から理解するとともに、環境倫理学がポテンシャルとして持っていた倫理学として面白い要素だけを救い出したい。これに加えて、気候変動や持続可能性という現在の危機の時代における倫理学がどのようなものでありうるかについても検討を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境倫理学の重要な論点について、状況的背景も含めて理解する</li> <li>・その上で、関連する議論について哲学的かつ批判的な検討を行うことができる</li> <li>・上記の知識と批判的思考に基づいて自分の見解を展開し、倫理的なディスカッションを行うことができる</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>二回の講義と一回のディスカッションからなる三回の授業で一つのテーマを扱い、全体で五つのテーマを扱う。基本的に以下の内容で行うが、順序等は調整する可能性がある。</p> <p>1-3回 「技術的解決と倫理的解決」 キーワード； techno-fix、非人間中心主義、環境倫理の必要性はあるか？</p> <p>4-6回 「アルド・レオポルド「土地倫理」を全部読んでみる」 キーワード； 道徳的被行為者の範囲、保全</p> <p>7-9回 「リチャード・ラウトリーとヴァル・ラウトリーという環境倫理学において失われた何か」 キーワード； 「新しい倫理の必要性はあるか？」、'Fight for the Forest' 事件、「クロコダイルの眼」</p> <p>10-12回 「自分の動機と他人の動機」 キーワード； 環境プラグマティズム、集合的行動、保全心理学、フューチャー・デザイン</p> <p>13-15回 「環境倫理学における研究者の倫理」 キーワード； アクティヴィズム、超学際的研究、ステークホルダー、よそもの</p>											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 倫理学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

ディスカッション参加度(75点)、レポート(25点)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

ロックストローム&クルム 『小さな地球の大きな世界 プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発』(丸善出版, 2018) ISBN:4621303023

Ronald Sandler 『Environmental Ethics: Theory in Practice』(Oxford Univ Press, 2017) ISBN: 0199340722

追加の資料などがある場合には、集中講義期間前に倫理学研究室を通じて受講者に通知するか、授業中に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

受講前に、参考書に挙げたロックストロームたちの本を読んでみてください。現在の持続可能性に関する議論の概略を理解するのに役に立ちます。

ロナルド・サンドラーのテキストは、環境倫理学の教科書として最もバランスのとれた記述がなされているものの一つです。

この授業で扱う環境倫理学の歴史などについては、あらかじめデイル・ジェイミソンの次の動画の講義部分を見てもらうのが全体像の把握につながると思います。

Dale Jamieson "Does Environmental Ethics Have a Future?"

[https://www.youtube.com/watch?v=UqxobgkU\\_ig](https://www.youtube.com/watch?v=UqxobgkU_ig)

### (その他(オフィスアワー等))

必要であれば集中講義期間に提示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系62

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		予防の倫理学									
【授業の概要・目的】											
<p>予防は病気の治療や犯罪が起きてからの刑罰よりも優れていると一般に言われるが、予防が望ましいと言える場合の条件は何か。傷病、犯罪、災害といった害悪の予防的政策に関して共通する要素は何か。本講義では、個別的な事例の検討を通じて、「予防」という概念のもつ倫理学的意味を哲学的に考察し、「予防の倫理学」を構築することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>医療や公衆衛生、犯罪予防といったさまざまな文脈における予防の議論の検討を通じて、また、近年の心理学やその他の分野における予防に関連する理論を再検討し、予防概念の新しい可能性を探る。なお、本講義は昨年度の講義の続きであり、今年度は、とくに、COVID-19パンデミックの問題と、防災の問題を検討する予定である。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回 イントロダクション            第二回~第八回 COVID-19パンデミックと予防(検疫の問題、緊急事態宣言、医療資源の配分、同調圧力の問題)            第九回 いじめ対策            第十回~第十四回 防災と倫理(予報の問題、緊急事態を想定することの倫理、予防原則、予防と認知バイアス)            第十五回 まとめと討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
各回に提示する課題(7割)と期末レポート(3割)。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
前の週に指定した文献を読んでくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系63

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀のオックスフォードの倫理学									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、20世紀のオックスフォードの倫理学を、哲学者の人物像や人間関係に焦点を当てながら読み解くことである。本講義を通じて、現代のとくに英語圏の倫理学に対する一つの眺望が得られるだろう。											
【到達目標】											
20世紀のオックスフォードの倫理学の内的発展を理解し、エアやヘアの情動説や指令説といった立場だけでなく、それに対するフットを始めとする批判的な立場についても説明できるようになること。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN 第2回 G. ライルのカテゴリーミステイク 第3回 A.J.エアとウィーン学派 第4回 オックスフォードの哲学教育(1) 第5回 オックスフォードの哲学教育(2) 第6回 J.L.オースティンとI.バーリン 第7回 オースティンの研究会(1) 第8回 オースティンとH.L.A.ハート 第9回 G.E.M.アンスコム 第10回 アンスコムのオックスフォード批判 第11回 I. マードック 第12回 マードックと二人の教師たち 第13回 Ph. フットとマードック 第14回 フットとアンスコム 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://webmedia.akashi.co.jp/posts/2363>(参考として連載の関連するものに目を通しておくこと。)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

前の週に指定した文献を読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系64

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Bioethics									
【授業の概要・目的】											
<p>Is it okay to take pills to help you ace exams? Should you be able to choose the sex of your child? Is abortion murder?</p> <p>These controversial questions will be explored in this bioethics course. Bioethics is an interdisciplinary field of study that looks into ethical, legal, and social implications of life sciences and health care. This course will help you understand key ethical issues surrounding crucial problems that profoundly impact your life from birth to death.</p> <p>Topics include:</p> <p>Reproductive technology such as surrogacy and sex-selection of the baby Abortion Informed consent Euthanasia The use of medical technology for the purpose of enhancement</p> <p>You will also learn about ethical arguments and regulations in Japan and other countries concerning life sciences and healthcare. The hope is, through this course, you will better understand and formulate your own opinions on these important issues.</p> <p>This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance. Modules: Focus I -- Foundations I.</p>											
【到達目標】											
<p>You will learn:</p> <p>Basic terms for bioethics Basics of ethical arguments How decisions are made on critical bioethics issues Regulations and public policies related to bioethical issues in Japan and other countries</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Discussion topics include:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. What is Bioethics?</li> <li>2. The Ethics of Assisted Reproductive Technology</li> <li>3. The Ethics of Truth-Telling</li> <li>4. Is Abortion “ Murder ” ?</li> <li>5. What ’ s Wrong with Enhancement?</li> <li>6. Is Euthanasia Wrong?</li> <li>7. Living-Donor Organ Transplantation</li> <li>8. Cloning Technology</li> <li>9. ES Cells and iPS Cells</li> <li>10. Lifespan and Eternal Life</li> </ol>											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 倫理学(特殊講義)(2)

11. Brain Death and Organ Transplants
12. Genome Editing and Ethics
13. The Problem with "Suicide Tourism"
14. Forgoing Life-Sustaining Treatment
15. The Ethics of Ageing

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and active participation (70%), small quiz tests that come with the video lectures (30%).

### 【教科書】

Kodama, Satoshi & Natsutaka 『EXPLORING BIOETHICS THROUGH MANGA: Questions on the Meaning of "Life" 』 ( Kyoto: Kagakudojin ) ISBN:978-4759827774

### 【参考書等】

( 参考書 )

Tony Hope and Michael Dunn 『Medical Ethics: A Very Short Introduction 2nd ed.』 ( Oxford University Press ) ISBN:978-0198815600

### 【授業外学修（予習・復習）等】

This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students. Each lecture video with a small quiz test lasts for less than one hour.

### （その他（オフィスアワー等））

Students are encouraged to try to understand each other's perspective on issues related to life and death.

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



思想文化学系65

科目ナンバリング		G-LET06 75440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水谷 雅彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		倫理学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
倫理学に関する論文執筆とプレゼンテーションの能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジюмеを提出すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。なお、報告者は必ず報告の一週間前に完全原稿を配布すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告と討論への参加によって評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前配布レジюмеを熟読のこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系66

科目ナンバリング		G-LET06 75440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水谷 雅彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		応用倫理学演習									
[授業の概要・目的]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のための能力を養う。											
[授業計画と内容]											
生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理・工学倫理などの応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告の評価と出席などの平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系67

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学 専任講師 永守 伸年			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		カント『道徳形而上学の基礎づけ』の研究									
[授業の概要・目的]											
カントの実践哲学の主著『道徳形而上学の基礎づけ』("Grundlegung zur Metaphysik der Sitten")のドイツ語テキストを精読する。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、倫理学における「基礎づけ」とは何かを検討することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、カント倫理学の方法と構造を理解する。</li> <li>・ 『道徳形而上学の基礎づけ』における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回～第2回 イン트로ダクション カントの批判哲学の基本的な成り立ちを説明した上で、『道徳形而上学の基礎づけ』の位置を解説する。また、使用するテキストや参照する先行研究を含め、精読の手続きと方法を参加者に周知する。</p> <p>第3回～第14回 『道徳形而上学の基礎づけ』精読 毎回ドイツ語テキストの訳読担当者を決め、担当者はグーグルドキュメントの共有ファイルに翻訳と分析を記す(ドイツ語未習者は英語訳のテキストを用いても構わない)。授業中はその内容を参加者全員で詳細に吟味し、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(100%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系68

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学 専任講師 永守 伸年			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		カント『道徳形而上学の基礎づけ』の研究									
[授業の概要・目的]											
カントの実践哲学の主著『道徳形而上学の基礎づけ』("Grundlegung zur Metaphysik der Sitten")のドイツ語テキストを精読する。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、倫理学における「基礎づけ」とは何かを検討することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、カント倫理学の方法と構造を理解する。</li> <li>・ 『道徳形而上学の基礎づけ』における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回～第2回 イントロダクション カントの批判哲学の基本的な成り立ちを説明した上で、『道徳形而上学の基礎づけ』の位置を解説する。また、使用するテキストや参照する先行研究を含め、精読の手続きと方法を参加者に周知する。</p> <p>第3回～第14回 『道徳形而上学の基礎づけ』精読 毎回ドイツ語テキストの訳読担当者を決め、担当者はグーグルドキュメントの共有ファイルに翻訳と分析を記す(ドイツ語未習者は英語訳のテキストを用いても構わない)。授業中はその内容を参加者全員で詳細に吟味し、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(100%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系69

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メルロ = ポンティを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>フランスの現象学者メルロ=ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。</p> <p>前期授業ではメルロ = ポンティの名著『知覚の現象学』より身体論に関する箇所を抜粋して仏語原語で読むことにする。</p>											
[到達目標]											
メルロ = ポンティの著作を精読することで、彼の思想を理解するとともに、今までの身体観を覆す彼の知覚論を通じて、身体というものについての考えを深める。											
[授業計画と内容]											
<p>授業はメルロ = ポンティの名著『知覚の現象学』の中から身体論に関連する箇所を抜粋、熟読することで、彼の魅力的な身体論の大枠の理解を試みたい。</p> <p>第1回：ガイダンス          第2回～第14回：上記著作の該当箇所の精読          第15回：フィードバック（フィードバックの詳細は別途連絡する。）</p>											
[履修要件]											
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点											
[教科書]											
M. Merleau-Ponty 『Phénoménologie de la perception』 ( Gallimard ) テキストは上記著作の講読箇所をプリントにして配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系70

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メルロ = ポンティを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>フランスの現象学者メルロ=ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。</p> <p>後期は前期に引き続き、メルロ = ポンティの主著『知覚の現象学』をフランス語で読む。後期では知覚論に関する箇所を読む。</p>											
[到達目標]											
メルロ = ポンティの著作を精読することで、彼の思想を理解するとともに、彼の独自の知覚論を通じて、知覚および知覚されるこの世界についての考えを深める。											
[授業計画と内容]											
<p>授業で扱うテキストはメルロ = ポンティの主著『知覚の現象学』である。この著作の中から知覚論に関する箇所を抜粋、熟読することで、彼の独自の知覚論の大枠とメルロ = ポンティの思想の核心の理解を試みたい。</p> <p>第1回：ガイダンス          第2回～第14回：上記著作の該当箇所の精読          第15回：フィードバック（フィードバックの詳細は別途連絡する。）</p>											
[履修要件]											
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点											
[教科書]											
M. Merleau-Ponty 『Phénoménologie de la perception』 ( Gallimard ) テキストは上記著作の該当箇所をプリントにして配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系71

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 James W. Heisig			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3,4 隔週開講	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Ethics and the Kyoto Philosophical Tradition									
【授業の概要・目的】											
<p>Ethics has to do with the ethical subject, but its subject matter extends beyond the subject to include human society and the natural world. Moreover, although ethics does not stop at reflection on ethics but must open out into ethical action, reflection #8212 whether on the ethical subject or on the needs of the wider world #8212 is also part of ethical action.</p> <p>These questions will be look at critically in the thinking of four thinkers from the same Kyoto philosophical tradition: Nishida, Tanabe, Nishitani, and Ueda. The aim will be not only to look at the insights and oversights of each of these thinkers with regard to ethics, but also consider how their tradition may be given new life by addressing the questions they left open.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Nishida's view of "self-awareness" as a grounding of the I-Thou relationship and his view of nature.</li> <li>• Tanabe's view of the open and closed society as a basis for his understanding of self-awareness and his logic of the specific.</li> <li>• Nishitani's idea of ethical ideals in relation to his idea of compassionate action in self-joyous sam#257dhi.</li> <li>• Ueda's reading of the "Oxherding Pictures" as a foundation for an ethics of compassionate action.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>The following topics will be taken up in order. The number in brackets refers to the number of lectures devoted to each.</p> <p>Fundamental questions of ethics and ethical theory [1]  Nishida's view of ethics [3]  Tanabe's view of ethics [3]  Nishitani's view of ethics [3]  Ueda's view of ethics [3]  Ethics in the Kyoto philosophical tradition for today</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Class participation and report 50% each.											
【教科書】											
Readings for each lecture will be made available for download in advance.											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Pursuit of one's own research topic in the light of the lectures and class discussions.

**(その他(オフィスアワー等))**

Classes will be held every other week. The lectures will be held in English and/or Japanese, according to the needs of those attending.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



思想文化学系72

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鬼頭 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代キリスト教思想									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀の神学者パウル・ティリッヒは『キリスト教思想史』の冒頭において、キリスト教的思索の背後には、宗教的生自体が横たわっており、宗教教的生においては思索が必然的役割を果たしていると述べ、キリスト教思想と哲学思想とを並行して語っている。事実、哲学とキリスト教神学とは古代から現代に至るまで、相互に影響を与えあってきた。本授業は、宗教改革以降のキリスト教神学と哲学を比較しつつ、どのような影響関係にあったのか理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代から20世紀に至るまでの西洋思想史におけるキリスト教の位置づけについて、基礎的な流れを説明できる。</li> <li>・近代から20世紀に至るまでのキリスト教神学における哲学の位置づけについて、基礎的な流れを説明できる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを中心にして進めていく予定であるが、受講者の関心によっては適宜、順序や内容などを変更する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．宗教改革と近代</li> <li>2．プロテスタント正統主義、敬虔主義</li> <li>3．イギリス経験論と理神論（ロック、ヒューム、ハーバート）</li> <li>4．啓蒙主義と宗教（カント）</li> <li>5．ドイツ観念論と宗教（ヘーゲル、シェリング）</li> <li>6．近代キリスト教神学の誕生（シュライアマハー）</li> <li>7．哲学からのキリスト教批判（ニーチェ、フォイエルバッハ）</li> <li>8．実存と宗教1（キルケゴール）</li> <li>9．宗教学の誕生（ミュラー、ヴェーバーほか）</li> <li>10．自由主義神学（リッチェル、ハルナック）</li> <li>11．宗教史学派（トレルチ、グレーデ、ヴァイス）</li> <li>12．下部構造と宗教（マルクス）、宗教社会主義</li> <li>13．弁証法神学（バルト、ブルンナー）</li> <li>14．実存と宗教2（ブルトマン、ハイデガー）</li> <li>15．存在論的神学／哲学的な神学（ティリッヒ、ヤスパース）</li> </ol>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 宗教学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（20点）と学期末のレポート（80点）により評価する。  
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価をおこなう。

### 【教科書】

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

### （その他（オフィスアワー等））

基本的に講義形式でおこなう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・議論する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「証言」論再考 その宗教哲学的射程をめぐって									
[授業の概要・目的]											
<p>20世紀後半の現代フランス思想、およびそれに深く関与する思想家たちの間で、「証言」ないしは「証人」といった概念が鍵語として共有されていた時期があった。レヴィナス、ブランショ、リクール、デリダ、アガンベン等、数々の例を挙げることができる。そこで直接間接に参照されていたのは、「アウシュヴィッツの証人」の置かれた状況を範例とする極限的事態であり、「証言不可能性の証言」というべきその極度に屈折した表現形態であった。同時に証言や証人といった語彙は、聖書的一神教に根差した長い歴史をもつものでもある。上記の思想家たちも、それを踏まえた上で、各々の仕方での「宗教的」リソースを換骨奪胎して再活用し、自らの哲学や文学の核心部に導き入れたのであった。加えてこの問題系は、記憶と歴史の関係という問題とも連動して、歴史認識論の重要な主題ともなった。</p> <p>近年、このように宗教、哲学、文学、歴史記述等の多分野を横断しつつ尖鋭的な問題として問われたこの時期の「証言」論について、その全体像を描き直すような仕方で再考しようという動きが目立ってきた。本講義では、そうした研究動向にくみする者の一人として、宗教哲学の見地から、このような流れの証言論の全体像を可能な限り包括的に提示し、それが今日の宗教哲学にとってもちうる意義を問い尋ねてみたい。</p>											
[到達目標]											
<p>1. 「宗教哲学」と呼ばれる思索様式とその今日的課題に触れ、そこから自ら思索していく上での基礎となる見識を身につけ、自らの問いを形成するための端緒とする。</p> <p>2. 「宗教哲学」的思索の様態と意義を、人文学の他の諸分野との相互連関において確認し、自らのものとするができる。</p> <p>3. 個々の思想家や思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと連関づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2、3回の授業を充てて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性ある。)</p> <p>1. 現代フランス思想における「証言」論 俯瞰的展望                  2. 証言/証人概念の宗教的・哲学的系譜 歴史的考察                  3. リクール・レヴィナス・デリダ 「証言の哲学」の諸変奏                  4. ツェランを読むブランショ 証言のポエティクス                  5. 記憶・証言・歴史 証言のポリティクス                  6. 「証言の不可能性の証言」以後 宗教哲学の現在</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 宗教学(特殊講義)(2)

フィードバックの仕方については、授業中に告知する。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けつぐことができるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>なおこの研究は、来年度以降も後期の特殊講義をあて、数年かけて進めていく予定である。今年度は、1940年頃までの初期の諸論考を主に扱うことになる。</p>											
【到達目標】											
<p>1．西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2．一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3．宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2,3回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p> <p>1．ポスト西谷的宗教哲学へ 西谷宗教哲学の受け取り直しのために 2．「空の立場」と「禅の立場」 西谷宗教哲学への俯瞰的導入 3．卒業論文「シェリングの絶対的観念論とベルクソンの純粹持続」 西谷宗教哲学の端緒 4．「悪の問題」への着手 西谷宗教哲学の導きの糸 5．哲学的神秘主義と根源的主体性 前期西谷宗教哲学の二つの焦点</p> <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 宗教学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の思索との接点を組織的に探って行ってほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系75

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マリオン現象学の問題構成（「donation」概論）									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、昨年度に続き、フランスの哲学者ジャン＝リュック・マリオン（1946-）の思索を手がかりとして、現象学を宗教研究に応用することを最終目標とした準備的・原理的探究を行う。宗教哲学的思索を推し進める上で、マリオンの現象学思想は有効かつ多様な分析ツールを提供してくれている。いわゆる「宗教現象学」とは異なる視点に立った「宗教 現象学」の構成に目を向けつつ、主としてフランス現象学の先鋭化された諸思想を導きの糸としながら、その総合的形象としてのマリオン思想を読み解いてゆく。今年度の講義は、主として『Réduction et donation』から『Étant donné』への移行と両著作の思想的内実を取り扱う。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．マリオン思想の基本概念を正確に理解し、その特性を把握する。</li> <li>2．現代フランス現象学と宗教哲学との関係性を洞察した上で、前者を後者に適用しつつ思索することができる。</li> <li>3．複数の思想的立場に関する学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>初回は導入に当てる。第2回から本格的な議論に入ってゆくが、講義の性質上、各サブトピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．導入的概説【1週】</li> <li>2．昨年度講義内容への追考（捉え直しと批判的検討）【3週】</li> <li>3．「現象学の四つの原理」からdonationへ【3週】</li> <li>4．与えられた現象の諸規定【3週】</li> <li>5．与えられた現象の諸段階【3週】</li> <li>6．飽和論の宗教哲学的意義【1週】</li> <li>7．フィードバック【1週】</li> </ol> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

初回授業の際に基本文献リストを配布するので、その中から各人の関心に基づいて文献を選び、少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その回の講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



思想文化学系76

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		聖性の哲学的探究									
【授業の概要・目的】											
<p>ルドルフ・オットーの代表作であり、宗教学の古典でもある『聖なるもの』(1917)は、一方でシュライアーマッハーやリッチュルの神学的思想から、他方で新カント派の認識論から影響を受けていると言われてきたが、実は(いわゆる「宗教現象学」から区別されるべき)哲学的現象学の知見にこの上なく近づいており、その方向から見直しても豊かな着想を含んでいる。このことを最初に看取したのがマックス・シェーラーである。本講義では、この二人による聖性の捉え方から出発し、「情動」・「力」・「非合理性」・「両義性」・「過剰」といった基本的モチーフの分析を中心に、聖なるものの理論的探究へと向かう。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教学の根本概念の一つである「聖」を哲学的観点から理解する。</li> <li>2. 宗教と現代思想との連関を認識し、そこから特定の哲学的テーマに関して思索を深めることができるようになる。</li> <li>3. 複数の思想的立場に関する学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>初回は導入に当てる。第2回から徐々に本格的議論に入ってゆくが、講義の性質上、各サブトピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～「聖」概念の現在【1週】</li> <li>2. ヌミノーゼ論再考【2週】</li> <li>3. シェーラーによるオットー批判と現象学的宗教論【3週】</li> <li>4. 聖の両義性に対するポスト現象学的アプローチ【3週】</li> <li>5. 俗なる世界との緊張関係【2週】</li> <li>6. 根本現象としての供犠【3週】</li> <li>7. フィードバック【1週】</li> </ol> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業時に必要な基本文献を紹介するので、その中から各人の関心に基づいてテキストを選び、少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その回の講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西谷啓治「シェリングの絶対的観念論とベルクソンの純粹持続」を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>このテキストは、西谷啓治が1924年に京都帝國大學文學部に提出した卒業論文であり、10万字以上に及ぶ大作である。後年の西谷の透明な筆致からは想像できない極度に凝縮された文体で書かれたこの論文には、シェリングとベルクソンについての学術的な吟味に耐えうる研究を提示し、両者を交差しつつ西洋哲学史の中に位置づけるというだけでなく、彼らと対論しつつより根源的な次元を自前で切り開こうとする西谷自身の思索の原点がある。そしてその背後には、「自覚」から「場所」へと独自の哲学を彫琢しつつあった師西田の存在が見え隠れする。この重層的な成り立ちをもつテキストは、まだ正面から研究されたことはほとんどないが、西谷宗教哲学の出発点として重要な文献であるのみならず、西洋哲学史研究や日本哲学史研究という観点からも第一級の資料である。</p> <p>そうしたテキストの性質を踏まえて、本演習では、そこで論及されるシェリングとベルクソンの著作の原典読解をも組み入れながら多様な角度からのアプローチを試み、参加者の研究的な読解の訓練の場としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．演習での作業を通して、哲学・宗教哲学のテキストを読みこなすための基本的な読解力を身につける。</p> <p>2．演習での発表準備、および教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテキストの精密な読解方法、およびそれを自らの思索に活用するための基本的な方法態度を身につける。</p> <p>3．西谷啓治の重要テキストを教師の指導と解説の下で読み切ることによって、西谷宗教哲学の理解のための足掛かりを得ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テキストを読み進める上で必要な導入的説明を教員が行う。2回目以降の担当者を決める。</p> <p>第2回 14回 西谷啓治「シェリングの絶対的観念論とベルクソンの純粹持続」は序と13個の節から成るが、1回あたり約1節のペースで読み進める。各回の担当者は担当箇所の内容要約を行うとともに、シェリングかベルクソンのテキストの西谷による参照箇所の翻訳も行う。担当者による報告を材料にして教員が全体を解説し、それをもとに参加者間で意見交換や議論を行う。基本的には、一学期で全体を読み切る予定である。</p> <p>第15回 著作全体を振り返り、教員との質疑応答や出席者間での討議を行う。</p> <p>*フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

### 【履修要件】

受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、フランス語かドイツ語の最低限の読解能力を身につけていることが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(担当箇所の発表、および質疑や議論への参加)による。

### 【教科書】

西谷啓治『西谷啓治著作集 第13巻』（創文社、1987年）ISBN:(ISBN-10) 4423197138（テキストは適宜コピーを用意する。）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業前にはテキストを時間をかけて精読し、内容的・語学的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意しておくこと。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

### （その他（オフィスアワー等））

本演習は、同じ教員が担当する後期の宗教学特殊講義「西谷宗教哲学の研究」と内容的に連動するようにしている。そちらも合わせて受講することを勧める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Paul Ricœur, La symbolique du mal, Première partie: Les symboles primaires を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ポール・リクール『悪のシンボリズム』は、1960年に『有限性と罪責性』の第2分冊として刊行され、リクールを解釈学的哲学への転じさせた記念碑的著作である。同時にこの著作は、その大部分が聖書や諸文明の神話から渉猟した悪の象徴的・神話的表現の意味解釈に充てられており、リクールが自らの哲学的立場を更新するにあたって、従来の哲学の境界を踏み越え、宗教的表現の生成現場へと深く沈潜したことが見て取れる。</p> <p>本演習では、この著作の第一部「一次的象徴：穢れ・罪・負い目」の重要箇所を抜粋して精読し、リクール解釈学の原点における哲学と宗教の交差の有りようを検討することによって、宗教哲学の可能性を探究するための材料としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。</p> <p>2．演習での教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p> <p>3．リクールの重要著作の一つを教師の指導と解説の下で精読することによって、リクール思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義を把握できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。2回目以降の担当者を決める。</p> <p>第2回 14回 リクール『悪のシンボリズム』第1部「一次的象徴：穢れ・罪・負い目」の重要箇所を抜粋し、1回当たり2頁程度のペースで精読していく。</p> <p>第15回 読み終えた箇所全体を振り返り、疑問点等について出席者全員で討議を行う。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者には、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めて</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

ほしい。

**【成績評価の方法・観点】**

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加) (60%)と学期末の小レポート(40%)による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

**【教科書】**

Paul Ricœur, 『Philosophie de la volonté, t. 2. Finitude et Culpabilité 』 ( Points, 2009 ) ISBN:(ISBN-10) 2757813293 ( 使用範囲をコピーして配布するが、可能ならば事前に購入しておくこと。 )

**【参考書等】**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意しておくこと。  
授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系79

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと前期の復習</li> <li>2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22)</li> <li>3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59)</li> <li>4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18)</li> <li>5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4)</li> <li>6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29)</li> <li>7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10)</li> <li>8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17)</li> <li>9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8)</li> <li>10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31)</li> <li>11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87)</li> <li>12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」</li> <li>13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ペーメの意志-形而上学について」</li> <li>14. 総括と総合討論</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

### [履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

### [成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

### [教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

園田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

### [参考書等]

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

### [授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



思想文化学系80

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Michel Henry, Paroles du Christを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、昨年度に引き続き、ミシェル・アンリの遺作『キリストの言葉』（2002）を扱う。本書は、後期アンリのいわゆる「キリスト教三部作」の最後に位するものであり、相対的に明晰な文体で書かれた啓蒙書でもあるが、宗教哲学的な示唆に富んだ作品として精読に値する。アンリ思想のエッセンスをつかみ取ると同時に、福音書への哲学的アプローチの好例を知る上でも、益が多いと思われる。必要に応じてNestle-Alandの校訂版で原文を確認する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．フランス語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。</li> <li>2．哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。</li> <li>3．福音書の章句に親しみながら、アンリのキリスト論と現象学思想との連関を総体的に把握できるようにする。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を説明する。その後、昨年度精読した部分のポイントをきちんと取り上げて解説を行うので、今年度初めて履修する学生も臆することなく参加してほしい。</p> <p>第2～14回 『キリストの言葉』第二章の途中（原文p.31～）から読み進めてゆく。進度は出席者の語学力に合わせて調整してゆく予定。</p> <p>第15回 まとめ 読み終えた箇所のみふりかえり。議論・質問等の時間とする。</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
扱うテキストの性質上、『新約聖書』を頻繁に用いることになるので、既存のいずれかの邦訳を携帯したうえで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
訳読・議論への参加度（50％）と学期末のレポート（50％）により評価する。											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

### [教科書]

Michel Henry 『Paroles du Christ』 (Seuil) ISBN:2-02-055758-4

### [参考書等]

(参考書)

ミシェル・アンリ (武藤剛史訳) 『キリストの言葉 いのちの現象学』 (白水社) ISBN:978-4-560-08214-0

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

初回授業時に、受講する上での細かい注意事項に加えて参考文献等を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系81

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Max Scheler, Tod und Fortlebenを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、マックス・シェーラーの遺稿「Tod und Fortleben」を読み進めてゆく。彼の主著『倫理学における形式主義と実質的価値倫理学』とほぼ同時期に執筆されたと考えられている本論考は、「生死」に対する宗教哲学的アプローチの模範的な実例として、また、ハイデガーやレヴィナスのそれとは根本的に異なった「死」の哲学的分析として、今でもなお精読に値する。その読解を通じて参加者一人一人が自身の思索を深めていくことが期待される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。</li> <li>2. 哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。</li> <li>3. シェーラーの現象学理論を踏まえつつ、生死(しょうじ)という宗教哲学的課題に取り組むことで、その意義を把握できるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を説明する。</p> <p>第2～14回 「Tod und Fortleben」を1回に2～3頁のペースで読み進めてゆく。</p> <p>第15回 まとめ 読み終えた箇所のふりかえり。議論・質問等の時間とする。</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
訳読・議論への参加度(50%)と学期末のレポート(50%)により評価する。											
【教科書】											
Max Scheler 『Schriften aus dem Nachlass, Band 1: Zur Ethik und Erkenntnislehre』(Bouvier) ISBN:3-416-01992-X (Gesammelte Werke, Bd. 10.)											
【参考書等】											
(参考書) マックス・シェーラー(小倉貞秀訳)『シェーラー著作集 6』(白水社) ISBN:4-560-02538-X											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

**（その他（オフィスアワー等））**

初回の授業時に、受講する上での細かい注意事項の連絡と一般的な概説を行ないますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系82

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学経営学部 准教授 竹内 綱史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ニーチェ『悲劇の誕生』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、昨年度に引き続き、ニーチェの哲学上の処女作『悲劇の誕生』（1872年）を精読する。同書は古典文献学の本として書かれてはいるが、当時の文化状況に一石を投じる意図のもとさまざまな問題意識が詰め込まれており、すでにニーチェ哲学の中心的な発想がすべてそろっていると言っても過言ではない。本演習ではその精読を通じて、ニーチェの問題意識を理解するとともに、後に「ニヒリズム」として論じられるようになる問題について検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 哲学の基礎文献を読み解く力をつける。</li> <li>・ 哲学的な問題についてテキストに基づいて議論する力をつける。</li> <li>・ ニーチェ哲学の基本発想を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 『悲劇の誕生』という著作の概要や背景、前年度までの講読箇所の議論について解説する。基本的な訳書や概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方について周知する。</p> <p>第2回～第14回 『悲劇の誕生』精読 『悲劇の誕生』を前年度の続きから精読する。テキストの一語一句について全員で議論する。毎回プロトコル担当を決め、授業の最初に前回のプロトコルを発表してもらいそれについて検討してから、続くテキストの精読を行う予定。</p> <p>フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
<p>原典で読むので、ドイツ語の最低限の読解力は不可欠である。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（訳読担当・プロトコル担当・議論への参加度）で評価する。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

### [教科書]

Friedrich Nietzsche 『Die Geburt der Tragödie』 ( Deutscher Taschenbuch Verlag ) ISBN:3-423-30151-1 ( 通称「KSA」と呼ばれるグロイター版ニーチェ全集ポケット版の第1巻 )  
授業中に上記著作の講読箇所のコピーを配布する。

### [参考書等]

( 参考書 )

Jochen Schmidt 『Kommentar zu Nietzsches "Die Geburt der Tragödie"』 ( De Gruyter ) ISBN:978-3110286915 ( 『悲劇の誕生』に関する比較的新しい注釈書 )

Barbara von Reibnitz 『Ein Kommentar zu Friedrich Nietzsches "Die Geburt der Tragoedie aus dem Geiste der Musik" (Kapitel 1-12)』 ( J.B.Metzler ) ISBN:978-3476008329 ( 『悲劇の誕生』前半部に関する注釈書 )

M.S.Silk and J.P.Stern 『Nietzsche on Tragedy』 ( Cambridge University Press ) ISBN:978-1316507933 ( 『悲劇の誕生』に関する英語圏における標準的注釈書 )

### [授業外学修(予習・復習)等]

訳読と議論が中心なので、授業前には必ず講読箇所を予習しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系83

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の古典的研究を読むII/A									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的な主題や教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、近代ドイツで教父学を発展させた研究を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちのラテン語・ギリシア語からの引用を含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
今年度の前期では、ハルナックの晩年における主要著作の一つである『マルキオン』を取り上げ、演習を行う。											
Adolf von Harnack, Marcion Das Evangelium vom fremden Gott: Eine Monographie zur Geschichte der Grundlegung der katholischen Kirche, 2te Auflage (Leipzig 1924), BKT: Darmstadt, 1996.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 宗教史的な諸前提</li> <li>3. 知られざる異邦の神</li> <li>4. 混淆主義</li> <li>5. 使徒的宣教</li> <li>6. パウロ</li> <li>7. 救済宗教</li> <li>8. マルキオンの生涯と影響</li> <li>9. マルキオンの出発点</li> <li>10. 律法と福音</li> <li>11. 世界、律法、創造者からの救済</li> <li>12. 批評者かつ修復者</li> <li>13. マルキオン聖書</li> <li>14. マルキオンの『対立命題』</li> <li>15. まとめと総括およびレポート等に関する解説</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

### [教科書]

使用するテキストについては、コピーを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。尚、ドイツ語テキストの中で引用されるラテン語やギリシア語は、数語か短文程度である。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



思想文化学系84

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の古典的研究を読むII/B									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、近代ドイツで教父学を発展させた研究を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちのラテン語・ギリシア語からの引用を含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
前年度の後期に引き続き、古代の教理史に関わる古典的文献から、ハルナックの『教理史教本』を取り上げ、演習を行う。											
Adolf von Harnack, Lehrbuch der Dogmengeschichte, Band I, 4te Auflage (Tuebingen 1909), WBG: Darmstadt, 2015.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教義史研究の諸前提</li> <li>3. 福音と旧約聖書</li> <li>4. ユダヤ教との分離</li> <li>5. ローマ・ギリシア世界</li> <li>6. ギリシア精神</li> <li>7. 最初期キリスト教</li> <li>8. カトリシズム</li> <li>9. 使徒的信仰論</li> <li>10. イエス・キリストの福音</li> <li>11. 二重の福音</li> <li>12. 終末論</li> <li>13. メシア主義</li> <li>14. 神の国</li> <li>15. まとめと総括およびレポート等に関する解説</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

### [教科書]

使用するテキストについては、コピーを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。尚、ドイツ語テキストの中で引用されるラテン語やギリシア語は、数語か短文程度である。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと講読文献の説明</li> <li>2. 「前書」と題目(3-7)</li> <li>3. 「感じ取られる自由の確実性と自由の体系的概念の問題」及び「汎神論概念の諸解釈・その1」(9-12/35)</li> <li>4. 「汎神論概念の諸解釈・その2」(12/36-16/18)</li> <li>5. 「汎神論概念の諸解釈・その3」(16/18-21/20)</li> <li>6. 「汎神論概念の諸解釈・その4」及び「&lt;観念論的・普遍的自由概念&gt;対&lt;人間の生ける自由概念&gt;」(21/21-25/14)</li> <li>7. 「悪への能力としての人間の自由の問題系(現実性の神的起源に鑑みつつ)」(25/15-29/19)</li> <li>8. 「自然哲学的演繹(啓示の原理の内的二重性)」(29/20-34/27)</li> <li>9. 「悪の可能性の演繹・その1」(34/28-39/3)</li> <li>10. 「悪の可能性の演繹・その2」(39/4-42/16)</li> <li>11. 「悪の可能性の演繹・その3」(42/17-45/7)</li> <li>12. 「悪の現実性の演繹・その1」(45/8-48/3)</li> <li>13. 「悪の現実性の演繹・その2」(48/4-52/29)</li> </ol>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

## 宗教学(演習)(2)

14. 西谷啓治「悪の問題」  
15. フィードバック

### [履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

### [成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

### [教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)  
西谷啓治 『西谷啓治著作集第6巻・宗教哲学』 (創文社)

### [参考書等]

(参考書)  
シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)  
F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

### [授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 7M264 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習II) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
演習参加者が、宗教哲学の諸問題のなかで各人の研究するテーマに即して発表を行い、その内容をめぐって、全員で討論する。討議の中で、各人の研究を進展させることが目的である。											
[到達目標]											
研究発表の仕方を学び、討論の態度を習得する。各人の研究テーマが、宗教哲学の研究状況の中でどのような意義をもつかを理解し、自らの研究の意味を説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
参加者が順番に研究発表を行い、それについて全員で討論する。各人の発表は2回にわたって行う。即ち、発表者は1時間以内の発表を行い、続いてそれについて討論する。発表者はその討論を受けて自分の発表を再考し、次回に再考の結果を発表して、それについてさらに踏み込んだ討論を行う。したがって、1回の授業は前半と後半に分かれ、前半は前回発表者の2回目の発表と討論、後半は新たな発表者の1回目の発表と討論となる。											
第1回 オリエンテーション、参加者の発表の順番とプロトコルの担当者を決定。 第2回－8回 博士課程の院生による発表と全員での討論。 第9回－14回 修士課程の院生による発表と全員での討論。 第15回 総括。											
[履修要件]											
宗教学専修の大学院生は必修。特段の事情がない限り、全回の出席を義務とする。											
[成績評価の方法・観点]											
発表等の内容、および議論への参加の状況によって、判断する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 特になし											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回目の発表予定日までに、自分の研究テーマに沿って発表の準備をする。発表の後、それに対してなされた質疑に基づいて、2回目の発表の準備をする。2回目の発表の後、その内容を論文の執筆へとつなげていく。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系87

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 根無 一行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		John D. Caputo, On Religion を読む 1									
【授業の概要・目的】											
現代アメリカを代表する大陸哲学系の宗教哲学者John D. CaputoのOn religion (第二版、2019年)を読む。ハイデッガー研究から出発し、デリダから決定的な影響を受けた自らの仕事を「ポストモダン神学」とも規定するカプートの思索は、そもそも「現代」をどのように捉えるかということも含めて、現代を生きる我々が「宗教」と「哲学」を考えていくための手がかりを、いい意味でも悪い意味でも、与えてくれると思われる。											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。</li> <li>2. 宗教哲学的な議論を理解し、それを自分の思索に活用していくことができるようになる。</li> <li>3. 自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>* フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%、学期末レポート50%											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

**[教科書]**

John D. Caputo 『On Religion ( 2nd Ed. ) 』 ( Routledge, 2019 ) ISBN:978-1138714861  
授業中にテキストのコピーを配布する。

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

訳読中心の授業であり、担当者を特に決めずにランダムにあてていくため、全員予習をして来ること。

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系88

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 根無 一行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		John D. Caputo, On Religion を読む 2									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に引き続き、現代アメリカを代表する大陸哲学系の宗教哲学者John D. CaputoのOn religion (第二版、2019年)を読む。ハイデッガー研究から出発し、デリダから決定的な影響を受けた自らの仕事を「ポストモダン神学」とも規定するカプートの思索は、そもそも「現代」をどのように捉えるかということも含めて、現代を生きる我々が「宗教」と「哲学」を考えていくための手がかりを、いい意味でも悪い意味でも、与えてくれると思われる。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。</li> <li>2. 宗教哲学的な議論を理解し、それを自分の思索に活用していくことができるようになる。</li> <li>3. 自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>* フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%、学期末レポート50%											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											



宗教学(講読)(2)

**[教科書]**

John D. Caputo 『On Religion ( 2nd Ed. ) 』 ( Routledge, 2019 ) ISBN:978-1138714861  
授業中にテキストのコピーを配布する。

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

訳読中心の授業であり、担当者を特に決めずにランダムにあてていくため、全員予習をして来ること。

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期キリスト教教理史II/A									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、カルケドン公会議（451年）までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ（例えば、キリスト論や救済論の問題など）、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教と諸哲学およびローマ帝国との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。											
【到達目標】											
主として5世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。											
【授業計画と内容】											
本年度前期のテーマは、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．アタナシオスの三位一体論</li> <li>3．カッパドキア教父たちの三位一体論</li> <li>4．四世紀以降の三位一体論の展開</li> <li>5．四世紀のキリスト論</li> <li>6．アポリナリオス主義と正統教会</li> <li>7．アンティオキア学派のキリスト論</li> <li>8．テオトコス論争</li> <li>9．西方世界とレオI世</li> <li>10．カルケドン公会議</li> <li>11．魂の起源</li> <li>12．原罪と墮落</li> <li>13．恩寵と予定</li> <li>14．ペラギウス論争の終焉</li> <li>15．まとめと総括およびレポート等に関する解説</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## キリスト教学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

レポートによる（複数回の小レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。  
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

### [教科書]

授業中にプリントを配付する。

### [参考書等]

（参考書）

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

### （その他（オフィスアワー等））

- ・講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
- ・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期キリスト教教理史II/B									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、カルケドン公会議（451年）までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ（例えば、キリスト論や救済論の問題など）、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教と諸哲学およびローマ帝国との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。											
【到達目標】											
主として5世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。											
【授業計画と内容】											
本年度後期のテーマは、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．アタナシオスの救済論</li> <li>3．悪魔からの解放</li> <li>4．五世紀以降の救済論</li> <li>5．東方世界の教会論</li> <li>6．ドナティスト論争と西方教会</li> <li>7．ローマの首位権</li> <li>8．四世紀以降のサクラメント</li> <li>9．洗礼と堅信</li> <li>10．聖餐における現臨</li> <li>11．終末論と千年王国説</li> <li>12．肉体の復活</li> <li>13．聖人崇敬</li> <li>14．聖母マリア崇敬</li> <li>15．まとめと総括およびレポート等に関する解説</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## キリスト教学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

レポートによる（複数回の小レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。  
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

### [教科書]

授業中に指示する  
授業中にプリントを配付する。

### [参考書等]

（参考書）  
J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

### （その他（オフィスアワー等））

- ・ 講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・ 受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
- ・ 質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系91

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「証言」論再考 その宗教哲学的射程をめぐって									
[授業の概要・目的]											
<p>20世紀後半の現代フランス思想、およびそれに深く関与する思想家たちの間で、「証言」ないしは「証人」といった概念が鍵語として共有されていた時期があった。レヴィナス、ブランショ、リクール、デリダ、アガンベン等、数々の例を挙げることができる。そこで直接間接に参照されていたのは、「アウシュヴィッツの証人」の置かれた状況を範例とする極限的事態であり、「証言不可能性の証言」というべきその極度に屈折した表現形態であった。同時に証言や証人といった語彙は、聖書的一神教に根差した長い歴史をもつものでもある。上記の思想家たちも、それを踏まえた上で、各々の仕方での「宗教的」リソースを換骨奪胎して再活用し、自らの哲学や文学の核心部に導き入れたのであった。加えてこの問題系は、記憶と歴史の関係という問題とも連動して、歴史認識論の重要な主題ともなった。</p> <p>近年、このように宗教、哲学、文学、歴史記述等の多分野を横断しつつ尖鋭的な問題として問われたこの時期の「証言」論について、その全体像を描き直すような仕方で再考しようという動きが目立ってきた。本講義では、そうした研究動向にくみする者の一人として、宗教哲学の見地から、このような流れの証言論の全体像を可能な限り包括的に提示し、それが今日の宗教哲学にとってもちうる意義を問い尋ねてみたい。</p>											
[到達目標]											
<p>1. 「宗教哲学」と呼ばれる思索様式とその今日的課題に触れ、そこから自ら思索していく上での基礎となる見識を身につけ、自らの問いを形成するための端緒とする。</p> <p>2. 「宗教哲学」的思索の様態と意義を、人文学の他の諸分野との相互連関において確認し、自らのものとするができる。</p> <p>3. 個々の思想家や思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと連関づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2、3回の授業を充てて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性ある。)</p> <p>1. 現代フランス思想における「証言」論 俯瞰的展望                  2. 証言/証人概念の宗教的・哲学的系譜 歴史的考察                  3. リクール・レヴィナス・デリダ 「証言の哲学」の諸変奏                  4. ツェランを読むブランショ 証言のポエティクス                  5. 記憶・証言・歴史 証言のポリティクス                  6. 「証言の不可能性の証言」以後 宗教哲学の現在</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## キリスト教学(特殊講義)(2)

フィードバックの仕方については、授業中に告知する。

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究									
[授業の概要・目的]											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けつぐことができるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>なおこの研究は、来年度以降も後期の特殊講義をあて、数年かけて進めていく予定である。今年度は、1940年頃までの初期の諸論考を主に扱うことになる。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</li> <li>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</li> <li>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2,3回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性がある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポスト西谷的宗教哲学へ 西谷宗教哲学の受け取り直しのために</li> <li>2. 「空の立場」と「禅の立場」 西谷宗教哲学への俯瞰的導入</li> <li>3. 卒業論文「シェリングの絶対的観念論とベルクソンの純粹持続」 西谷宗教哲学の端緒</li> <li>4. 「悪の問題」への着手 西谷宗教哲学の導きの糸</li> <li>5. 哲学的神秘主義と根源的主体性 前期西谷宗教哲学の二つの焦点</li> </ol> <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## キリスト教学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の思索との接点を組織的に探ってほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鬼頭 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代キリスト教思想									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀の神学者パウル・ティリッヒは『キリスト教思想史』の冒頭において、キリスト教的思索の背後には、宗教的生自体が横たわっており、宗教教的生においては思索が必然的役割を果たしていると述べ、キリスト教思想と哲学思想とを並行して語っている。事実、哲学とキリスト教神学とは古代から現代に至るまで、相互に影響を与えあってきた。本授業は、宗教改革以降のキリスト教神学と哲学を比較しつつ、どのような影響関係にあったのか理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代から20世紀に至るまでの西洋思想史におけるキリスト教の位置づけについて、基礎的な流れを説明できる。</li> <li>・近代から20世紀に至るまでのキリスト教神学における哲学の位置づけについて、基礎的な流れを説明できる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを中心にして進めていく予定であるが、受講者の関心によっては適宜、順序や内容などを変更する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．宗教改革と近代</li> <li>2．プロテスタント正統主義、敬虔主義</li> <li>3．イギリス経験論と理神論（ロック、ヒューム、ハーバート）</li> <li>4．啓蒙主義と宗教（カント）</li> <li>5．ドイツ観念論と宗教（ヘーゲル、シェリング）</li> <li>6．近代キリスト教神学の誕生（シュライアマハー）</li> <li>7．哲学からのキリスト教批判（ニーチェ、フォイエルバッハ）</li> <li>8．実存と宗教1（キルケゴール）</li> <li>9．宗教学の誕生（ミュラー、ヴェーバーほか）</li> <li>10．自由主義神学（リッチェル、ハルナック）</li> <li>11．宗教史学派（トレルチ、グレーデ、ヴァイス）</li> <li>12．下部構造と宗教（マルクス）、宗教社会主義</li> <li>13．弁証法神学（バルト、ブルンナー）</li> <li>14．実存と宗教2（ブルトマン、ハイデガー）</li> <li>15．存在論的神学／哲学的な神学（ティリッヒ、ヤスパース）</li> </ol>											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## キリスト教学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（20点）と学期末のレポート（80点）により評価する。  
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価をおこなう。

### 【教科書】

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

### （その他（オフィスアワー等））

基本的に講義形式でおこなう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・議論する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系94

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 洪 伊杓			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「日本型オリエンタリズム」とキリスト教									
【授業の概要・目的】											
<p>エドワード・サイードが『オリエンタリズム』(1978)を発表し、近世・近代における欧米の東洋世界への認識が批判された。アジア・アフリカなど欧米帝国主義によって植民地になった地域とその人々は非文明や未開として扱われ、このようなオリエンタリズム的な欧米の視点は帝国主義に便乗した欧米のキリスト教も共有した。また、欧米の「オリエンタリズム」は、明治維新以降、近代化および帝国建設を達成した日本にも導入され、いわゆる「日本型オリエンタリズム」として新たに内面化されて行った。「脱亜入欧」や「和魂洋才」などのスローガンの下で、帝国日本はアジア諸国と諸民族を欧米の立場と観点に基づいて認識し始めた。このような「日本型オリエンタリズム」の形成において、欧米のキリスト教、そして日本およびアジア各国のキリスト教はどのような影響を互いに与え、相互関係を結んでいたのか。そのことを究明するため「内地・内地人」と「植民地・土人」という新たな近代用語に注目し、考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>主に19・20世紀の欧米キリスト教のアジア宣教の歴史と思想的な刺激と影響についての基礎的な知識を身につけ、欧米のキリスト教が持っていた優越感による「オリエンタリズム」がアジア、特に帝国を建設した近代日本においてはどのように内面化し、アジア諸国に適用されたのかを分析し、今日のアジアキリスト教が直面している多様な思想的課題を再発見し、分析できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>・本講義は基本的に以下の講義計画に基づく。尚、集中講義は8月最終週の5日間を予定しているが、正式な日程が決まり次第、KULASISを通じて連絡をする。</p> <p>【第1回】「オリエンテーション：欧米キリスト教とオリエンタリズム」          【第2回】「欧米キリスト教による日本およびアジア宣教の歴史」          【第3回】「日本型オリエンタリズムの形成」          【第4回】「近代日本のアジア主義とキリスト教」          【第5回】「内地(人)概念の考案：最初の他者、琉球と蝦夷」          【第6回】「内地(人)概念の考案：明治維新と帝国建設」          【第7回】「内地(人)概念の考案：植民地における受容」          【第8回】「内地概念とキリスト教」          【第9回】「Marginality・政事などの概念による分析」          【第10回】「土人概念の考案：日本のキリスト者の植民地民理解」          【第11回】「土人概念の考案：韓国のキリスト者の被支配理解」          【第12回】「土人概念の考案：今日のキリスト教の課題」          【第13回】「差別と排除、西洋と東洋の隔てを乗り越える道」          【第14回】「アジア共同体の可能性とキリスト教の役割」          【第15回】「まとめと総括およびレポート等に関する解説」</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## キリスト教学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

- ・平常点（授業への取り組み・発言など）・・・10点
- ・レポート・・・90点
- ・3回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）

子安 宣邦 『「アジア」はどう語られてきたか 近代日本のオリエンタリズム』（藤原書店）  
ISBN:978-4894343351（2003年）  
芦名 定道 『東アジア・キリスト教の現在』（三恵社）ISBN:978-4864877862（2018年）  
芦名 定道 『東アジア・キリスト教研究とその射程 無教会キリスト教を中心に』（三恵社）  
ISBN:978-4864879620（2019年）

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業中に取り上げる書物や論文などの詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

- ・初回の講義では細かい注意事項や運営方針などを伝えるので、必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平出 貴大 非常勤講師 渡邊 蘭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教改革の根本問題									
【授業の概要・目的】											
宗教改革者たちは、当時のローマ・カトリック教会の歪んだあり方を批判したが、それはキリスト教の源泉に立ち返ろうとしたことであった。それゆえ宗教改革の思想を学ぶことによってキリスト教思想の根幹を理解することができる。この演習では、宗教改革に関する英語文献を精読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗教改革者の思想的特徴を説明できる</li> <li>・ キリスト教思想の根本問題を理解できる</li> <li>・ 演習における訳読作業を通して、英語の専門的なテキストを読みこなすための語学力を習得する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション（宗教改革の概観、授業の進め方について）											
第2回～第8回 （担当：渡邊）											
ルターは救われた人間のあり方を「義人にして同時に罪人」という言説によって表した。その背景には現実の人間における欲望と意志の問題がある。この点について、思想史的な観点から理解するため、ルターだけでなく、ルターの思想に影響を与えたアウグスティヌスおよび同時代人の思想をも考察している文献を読解する。											
Risto Saarinen, “ Desire, Consent and Sin: The Earliest Free Will Debates of the Reformation. ” in K. Emery et al. (ed.), <i>Philosophy and Theology in the Long Middle Ages</i> . Brill, 2011, pp. 471-486.											
第9回～第15回 （担当：平出）											
演習の後半では、近現代の神学者が宗教改革をどのように理解したのかということに焦点を当てる。取り上げるのは20世紀の神学者、パウル・ティリッヒ（1886-1965）である。ティリッヒは自ら認めるように「ルター派」に属する神学者であり、ルターから多くの影響を受けている（ルター的なティリッヒ）。しかし他方でそのルター理解はティリッヒ自身の神学的思索と密接に結びつきながら形成されたものである（ティリッヒ的なルター）。ティリッヒとルターのこの緊密な関係性を念頭に置きながら、以下の文献の読解を通して、宗教改革において「預言者的伝統」を見出すティリッヒの試みについて考えたい。											
Tillich, Paul: The Recovery of the Prophetic Tradition in the Reformation (1950) (in: MW.6, pp. 319-361) A History of Christian Thought (ed. by Carl E. Braaten, New York: Simon & Schuster, 1967)											
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----											

## キリスト教学(演習)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点による。毎回の訳読のほか、議論の参加度などから総合的に評価する。

### 【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配付する。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。

### (その他(オフィスアワー等))

演習に関わる質問は、各週の演習後か、メール(アドレスは授業にて指示)で行うこととする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ボンヘッファーのテキストを読む。									
【授業の概要・目的】											
<p>ボンヘッファーのドイツ語テキストを読みこなす。          1906年生まれのドイツ人牧師・キリスト者ボンヘッファーは、当時のドイツの教会の多くがナチスに協力したのに対して、ヒトラーに激しく抵抗運動を展開しました。彼は「汝殺すなかれ」を戒めとするキリスト者であり、かつ非暴力主義者ガンジーの影響も受けていました。時代の流れに逆らい、反ナチス運動で逮捕されてからも獄中から多くの書簡を書き、その言葉の数々は現代の私たちにも、良心に生きるとはいかなることかを問い続けています。彼の書いたテキストを原典で読んでいきます。</p>											
【到達目標】											
<p>ボンヘッファーは、1945年4月9日独裁者ヒトラーの暗殺計画に加担した容疑でナチスにより処刑されました。彼はヒトラーの危険を当初から見抜き、そのユダヤ人政策を批判し、最後には文字通り命を賭してナチスの暴走を止めようとしたのであります。ナチス以降もしくはホロコースト以降のドイツで、ボンヘッファーにキリスト者として生きる1つのモデルが求められているのも事実です。どのような論理・倫理をもって、キリスト者・牧師でありながら、暴力や殺人をも許容するヒトラー暗殺・クーデター計画に乗り出したのか、この問題を究めるため、その決定的瞬間にまで至るプロセスをボンヘッファー本人のテキストに則して検討します。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ボンヘッファーは現代的意味でもその存在が注目されているドイツの宗教者・神学者であります。彼を理解するため、次のような進行を予定しています。</p> <p>第1回～第3回 ボンヘッファーのおいたち          第4回～第6回 カール・バルトとの関係          第7回～第9回 ニーメラーと告白教会          第10回～第12回 ボンヘッファーと「信仰告白」          第13回～第15回 ボンヘッファーの現代的意義</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
主に出席・発表点に基づく。必要に応じて、試験・レポートを課す。											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											



キリスト教学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

河崎 靖 『ボンヘッファーを読む』 (現代書館)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

こちらで用意するテキスト教材を、授業の前後(予習・復習)に確実に準備してもらおう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系97

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の古典的研究を読むII/A									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、近代ドイツで教父学を発展させた研究を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちのラテン語・ギリシア語からの引用を含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
今年度の前期では、ハルナックの晩年における主要著作の一つである『マルキオン』を取り上げ、演習を行う。											
Adolf von Harnack, Marcion Das Evangelium vom fremden Gott: Eine Monographie zur Geschichte der Grundlegung der katholischen Kirche, 2te Auflage (Leipzig 1924), BKT: Darmstadt, 1996.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 宗教史的な諸前提</li> <li>3. 知られざる異邦の神</li> <li>4. 混淆主義</li> <li>5. 使徒的宣教</li> <li>6. パウロ</li> <li>7. 救済宗教</li> <li>8. マルキオンの生涯と影響</li> <li>9. マルキオンの出発点</li> <li>10. 律法と福音</li> <li>11. 世界、律法、創造者からの救済</li> <li>12. 批評者かつ修復者</li> <li>13. マルキオン聖書</li> <li>14. マルキオンの『対立命題』</li> <li>15. まとめと総括およびレポート等に関する解説</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----											

## キリスト教学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

### [教科書]

使用するテキストについては、コピーを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。尚、ドイツ語テキストの中で引用されるラテン語やギリシア語は、数語か短文程度である。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系98

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の古典的研究を読むII/B									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、近代ドイツで教父学を発展させた研究を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちのラテン語・ギリシア語からの引用を含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
前年度の後期に引き続き、古代の教理史に関わる古典的文献から、ハルナックの『教理史教本』を取り上げ、演習を行う。											
Adolf von Harnack, Lehrbuch der Dogmengeschichte, Band I, 4te Auflage (Tuebingen 1909), WBG: Darmstadt, 2015.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．教義史研究の諸前提</li> <li>3．福音と旧約聖書</li> <li>4．ユダヤ教との分離</li> <li>5．ローマ・ギリシア世界</li> <li>6．ギリシア精神</li> <li>7．最初期キリスト教</li> <li>8．カトリシズム</li> <li>9．使徒的信仰論</li> <li>10．イエス・キリストの福音</li> <li>11．二重の福音</li> <li>12．終末論</li> <li>13．メシア主義</li> <li>14．神の国</li> <li>15．まとめと総括およびレポート等に関する解説</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----											

## キリスト教学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

### [教科書]

使用するテキストについては、コピーを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。尚、ドイツ語テキストの中で引用されるラテン語やギリシア語は、数語か短文程度である。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系99

科目ナンバリング		G-LET08 7M272 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		キリスト教学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>大学院生らが自らの研究に関して、毎回報告して行き、それに対する質疑応答、討論を通して、自他の理解の地平を広げて行くことを目的とする。キリスト教学専修の大学院生は必修、学部生その他の聴講も可。</p>											
【到達目標】											
<p>キリスト教学専修に所属の大学院生は、各自の研究テーマについて、前期と後期にそれぞれ1時間程度の研究発表を行い、その後30分程度（～1時間程度）の質疑応答（指導教員のコメントを含む）を通して、それぞれの研究段階に応じた研究課題（たとえば、修士課程の学生は修士論文の作成という課題、博士後期課程の学生は、学会の学術大会での研究発表や雑誌論文の作成という課題）を着実に進めることができるようになる。また、ほかの研究テーマに関する研究発表を聴き、討論に参加することによって、キリスト教研究全般についての視野を広げることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>キリスト教学専修所属の大学院生（修士課程、博士後期課程）は、この演習で、前期後期、各一回ずつの研究発表を行うことが求められる。研究発表は、1時間程度の発表と、その後30分～1時間程度の質疑応答によって進められるが、発表者は、レジュメなどを含む必要な準備を行うこと。発表内容は、学年に応じて、次のような内容が考えられる。M1：修士課程での研究テーマに関する研究。M2：修士論文の内容に関わる研究（修士論文の指導は、この演習で行われる）。D：学会での口頭発表や論文執筆に関わる内容（D3の学生には、合わせて、博士論文の構想についての発表が求められる）。</p>											
【履修要件】											
キリスト教学専修所属の大学院生。											
【成績評価の方法・観点】											
前期と後期、一回ずつの研究発表とその後の質疑応答をもとにして、総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

## キリスト教学(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

前期後期に一時間程度の研究発表(レジメあるいは発表原稿を用意する)を行うために、計画的な準備を行う必要がある。そのために、指導教員との研究相談を必要に応じて行うことが求められる。

### (その他(オフィスアワー等))

演習に関わる質問は、オフィスアワーと指定の研究指導日を利用するか、あるいはメール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系100

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とピニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



思想文化学系101

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語(中級)(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法(中級)									
【授業の概要・目的】											
動詞(完了形・未完了形・命令形、時制など)のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統(タアメイ・ミクラー)の重要性も解説する。動詞の理解においては、16-17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
動詞/完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。											
【授業計画と内容】											
1. 名詞文と動詞の確認、2. 名詞と動詞パラダイムの諸問題、3. 完了形(基本)、4. 未完了形(基本)、5. 不定詞と命令形、6. レヴィータ文法(自動詞、他動詞)、7. レヴィータ文法(時制と時間)、8. 語根/ギズラー、9. W倒置と北西セム語、10. 読解聖書、11. 読解ラビ文献、12. 読解中世文献、13. 読解近代文献、14. 読解現代文、15. まとめ											
* 1課題あたり1~2回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題(20%)、クイズ(30%)、注解レポート(50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語(中級)(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 根立 研介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		運慶から湛慶へ									
【授業の概要・目的】											
<p>運慶とその子息湛慶を中心とする慶派仏師は、鎌倉時代の重要仏師集団であったことはよく知られている。ただ、従来の研究では、運慶が鎌倉時代の彫刻新様式成立に大きな役割を果たしたとし、湛慶が果たした鎌倉時代彫刻史の重要な役割が曖昧なまま論じられてきたところがある。しかしながら、鎌倉時代の彫刻様式は湛慶が大成した見方があるように、湛慶の存在なしには語れないところがある。かれは、運慶の彫刻様式を受け継ぎながらも、快慶や京都仏師の作風などを取り入れ、新たな彫刻様式を大成したとみられる。</p> <p>この授業では、湛慶の彫刻史における役割を再考するため、運慶から何を受け継ぎ、また運慶以外の他の仏師の影響がどのようなものであったかを、具体的に検証していくことにしたい。今期は、主に運慶一門として活動を行った時期の湛慶の活動を検討していきたい。この授業によって、鎌倉時代彫刻史の展開の様子がより明瞭に把握できるようになり、この時期の彫刻史の動向についての理解を深めることができる。</p>											
【到達目標】											
鎌倉時代の運慶から湛慶への彫刻史の展開を論じる講義を受けることで、鎌倉時代の美術の中枢を学び、日本美術史、文化史や宗教史などについての造詣をより一層深めることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業で取り上げる課題は以下の通りである。											
第1回目	はじめに										
第2回目	愛知・滝山寺諸尊像の造仏										
第3回目	東大寺南大門金剛力士像造像の問題(その1)										
第4回目	東大寺南大門金剛力士像造像の問題(その2)										
第5回目	東大寺南大門金剛力士像造像の問題(その3)										
第6回目	東大寺南大門金剛力士像造像の問題(その4)										
第7回目	東大寺南大門金剛力士像の仏師の分担について										
第8回目	東大寺南大門金剛力士像造像における湛慶の役割										
第9回目	興福寺北円堂諸尊像の造像をめぐって(その1)										
第10回目	興福寺北円堂諸尊像の造像をめぐって(その2)										
第11回目	興福寺北円堂諸尊像の造像における慶派仏師の分担のあり方										
第12回目	法勝寺九重塔の造仏をめぐって										
第13回目	高山寺の慶派仏師の造仏をめぐって										
第14回目	まとめ										
第15回目	フィードバック										
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

期末のレポートおよび出席状況により評価する。評価はレポート80%、出席状況20%。

**【教科書】**

使用しない  
毎回、資料配付を行う。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に配付するレジユメを必ず読み返すこと。また、授業中に紹介する参考文献や、参考論文は予習・復習のためにぜひ読んでおいてもらいたい。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業で取り上げる作品は、実際に見ることができるので、できるだけ実物を見てください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 根立 研介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		運慶から湛慶へ									
[授業の概要・目的]											
<p>運慶とその子息湛慶を中心とする慶派仏師は、鎌倉時代の重要仏師集団であったことはよく知られている。ただ、従来の研究では、運慶が鎌倉時代の彫刻新様式成立に大きな役割を果たしたとし、湛慶が果たした鎌倉時代彫刻史の重要な役割が曖昧なまま論じられてきたところがある。しかしながら、鎌倉時代の彫刻様式は湛慶が大成した見方があるように、湛慶の存在なしには語れないところがある。かれは、運慶の彫刻様式を受け継ぎながらも、快慶や京都仏師の作風などを取り、入れ新たな彫刻様式を大成したとみられる。</p> <p>この授業では、湛慶の彫刻史における役割を再考するため、運慶から何を受け継ぎ、また運慶以外の他の仏師の影響がどのようなものであったかを、具体的に検証していくことにしたい。今期は、主に運慶没後の時期の湛慶の活動を検討していきたい。この授業によって、鎌倉時代彫刻史の展開の様子がより明瞭に把握できるようになり、この時期の彫刻史の動向についての理解を深めることができる。</p>											
[到達目標]											
鎌倉時代の運慶から湛慶への彫刻史の展開を論じる講義を受けることで、鎌倉時代の美術の中枢を学び、日本美術史、文化史や宗教史などについての造詣をより一層深めることができるようになる。											
[授業計画と内容]											
授業で取り上げる課題は以下の通りである。											
第1回目	はじめに										
第2回目	湛慶の略歴										
第3回目	運慶工房内における湛慶の活動補足										
第4回目	浄蓮華寺丈六阿弥陀如来像の造像										
第5回目	雪隠寺毘沙門三尊像の造像										
第6回目	高山寺と湛慶										
第7回目	西園寺阿弥陀如来像をめぐって										
第8回目	湛慶と快慶										
第9回目	湛慶と京都仏師										
第10回目	三十三間堂の造仏(その1)										
第11回目	三十三間堂の造仏(その2)										
第12回目	いわゆる湛慶風の作風の問題										
第13回目	康弁と康勝										
第14回目	まとめ										
第15回目	フィードバック										
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

期末のレポートおよび出席状況により評価する。評価はレポート80%、出席状況20%。

**【教科書】**

使用しない  
毎回、資料配付を行う。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に配付するレジユメを必ず読み返すこと。また、授業中に紹介する参考文献や、参考論文は予習・復習のためにぜひ読んでおいてもらいたい。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業で取り上げる作品は、実際に見ることができるので、できるだけ実物を見てください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		花の静物画の成立と展開 16世紀末から17世紀の事例を中心にして									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点からより深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を熟知することにある。本年度前期は、近世ヨーロッパ絵画における花の静物画の成立について、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、深く理解する。</li> <li>・花の静物画という新しいジャンルの成立の経緯について、見識を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度前期は、フフナーヘル、サーフェリー、ヤン・ブリューゲル(父)など、花の静物画の誕生に寄与した芸術家たちの活動について分析し、ヨーロッパにおける花の静物画成立の背景について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1～2回 イントロダクション 16世紀までの花の描写の展開          第3～8回 フフナーヘル一族と細密画          第9～14回 花の静物画の考案をめぐる ルーラント・サーフェリーとヤン・ブリューゲル(父)          第15回 まとめ          フィードバック方法は授業中に説明します</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

### [教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

期末レポート作成や試験準備に際しては、各自、関連する文献を読み、それに基づいて調査研究することが必要となる。そのための授業外学習には十分な時間を確保してほしい。

### （その他（オフィスアワー等））

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には、授業に参加して課題の口頭発表やレポート作成を行えるよう、基本文献の紹介や関連資料の作成指導も必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		花の静物画の受容の諸相 17世紀の事例を中心にして									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史上の特定の事象を取り上げて、多角的な視点からより深く考察することにある。本年度後期は、近世ヨーロッパ絵画における花の静物画の受容に注目して、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、一層深く理解する。</li> <li>・花の静物画の受容の諸相について、いっそう見識を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度後期は、花の静物画成立当初の受容の在り方について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 前期のまとめ          第2回～6回 花の静物画の受容の諸様態 フェデリーコ・ボッローメオの芸術観          第7～8回 花の静物画の受容の諸様態 神聖ローマ皇帝ルドルフ二世と博物趣味          第9～14回 花の静物画の受容の諸様態 ダニエル・セーヘルスとイエズス会          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。</li> <li>・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。</li> </ul>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(特殊講義)(2)

### [教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

期末レポート作成や試験準備に際しては、各自、関連する文献を読み、それに基づいて調査研究することが必要となる。そのための授業外学習には十分な時間を確保してほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するよう心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系106

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		美学史研究 「外延的明晰性」をめぐる									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。今学期は、「美学の祖」バウムガルテン(Alexander Gottlieb Baumgarten, 1714-62)の美学思想の要をなす「外延的明晰性(claritas extensiva)」の概念を、その背景と受容をも視野に入れつつ、検討する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次文献に基づく広義の美学/感性論(史)研究の方法に習熟する。</li> <li>・近世美学の諸相について、見識を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下を仮の計画として示しておくが、「特殊講義」という性格上、担当教員の研究の進展度によって変更されうる。また、受講者の関心の所在や理解度によっても変更されうる。その場合は、授業内およびKULASISにて指示する。</p> <p>第1回イントロダクション</p> <p>第2回背景 ライプニッツの微小表象論</p> <p>第3回背景 ヴォルフの経験的心理学</p> <p>第4回バウムガルテンにおける外延的明晰性 『省察』(1735年)を中心に</p> <p>第5回バウムガルテンにおける外延的明晰性 『形而上学』(1739年)を中心に</p> <p>第6回バウムガルテンにおける外延的明晰性 1740年代の遺稿を中心に</p> <p>第7回バウムガルテンにおける外延的明晰性 『美学』(1750/58年)を中心に</p> <p>第8回ズルツァーのバウムガルテン受容</p> <p>第9回メンデルスゾーンのバウムガルテン受容</p> <p>第10回ヘルダーのバウムガルテン受容</p> <p>第11回カントのバウムガルテン受容 前批判期(~1770年)</p> <p>第12回カントのバウムガルテン受容 『純粹理性批判』</p> <p>第13回カントのバウムガルテン受容 『判断力批判』</p> <p>第14回まとめと補足</p> <p>第15回フィードバック</p>											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポート80点+授業中の発言・議論への貢献度20点(加点方式、発言しない場合は0点)により評価し、これに出席率を乗じて最終成績とする。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。詳細な評価基準はレポート課題提示時に併せて提示する。

### 【教科書】

使用しない  
必要な資料は担当教員がコピーして配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

神崎繁・熊野純彦・鈴木泉(責任編集)『西洋哲学史 「哲学の現代」への回り道』(講談社選書メチエ、2012年) ISBN:9784062585170 (2「ライプニッツからバウムガルテンへ 美的=感性的人間の誕生」(小田部胤久))  
その他、授業中に適宜紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代美学研究 ジンメルの「閾」の美学									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、現代美学の研究・議論状況の一端を提示することにある。今学期は、ジンメル(Georg Simmel, 1858-1918)の美学を「閾(Schwelle/threshold)」 刺激の「量」の「質」への転化という観点から読解・再構成する。											
【到達目標】											
現代美学の研究・議論状況を理解し、それを自らの研究に応用することができる。											
【授業計画と内容】											
以下を仮の計画として示しておくが、「特殊講義」という性格上、担当教員の研究の進展度によって変更されうる。また、受講者の関心の所在や理解度によっても変更されうる。その場合は、授業内およびKULASISにて指示する。											
第1回イントロダクション											
第2回『貨幣の哲学』(1900年)成立史											
第3回『貨幣の哲学』第3章「目的系列における貨幣」の議論構成											
第4回『貨幣の哲学』第3章を美学書として読む											
第5回「閾」の美学・理論編:「重力の美学」(1901年)「美的量」(1903年)を中心に											
第6回「閾」の美学・応用編 自然(「廃墟」(1907年)「風景の哲学」(1913年)を中心に)											
第7回「閾」の美学・応用編 芸術の内外(「額縁」(1902年)「把手」(1905年)を中心に)											
第8回「閾」の美学・応用編 都市の美学(「フィレンツェ」(1906年)「ヴェネツィア」(1907年)を中心に)											
第9回「閾」の美学・応用編 美術史(「キリスト教と芸術」(1907年)「ゲルマンの様式と古典的=南欧の様式」(1918年)を中心に)											
第10回「閾」の美学・応用編 演劇論(「俳優哲学」(1908年)「俳優と現実」(1912年)を中心に)											
第11回同時代の美学との関係 リーグル											
第12回同時代の美学との関係 ベルクソン											
第13回同時代の美学との関係 ベンヤミン											
第14回まとめと補足											
第15回フィードバック											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

期末レポート80点+授業中の発言・議論への貢献度20点(加点方式、発言しない場合は0点)により評価し、これに出席率を乗じて最終成績とする。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。詳細な評価基準はレポート課題提示時に併せて提示する。

### [教科書]

Georg Simmel 『Gesamtausgabe』(Suhrkamp, 1989-2015)(24 Bde.)  
『ジンメル著作集』(白水社, 1975-81年)(全12巻。)  
上記原典全集・邦訳著作集より、必要な箇所をコピーして配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://www.socio.ch/sim/>(ジンメルのテキストのほぼすべてがオンラインで読める。)

### [授業外学修(予習・復習)等]

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系108

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 稲本 泰生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
[授業の概要・目的]											
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>											
[到達目標]											
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>唐宋時代の敦煌絵画を主な対象として重要作例を選定し、その読解を起点として図像解釈上の諸問題を論じる。基本的に以下のプランに随って講述を進めるが、担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、テーマ毎の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．本講義の視点と問題意識【1～2週】</li> <li>2．阿弥陀浄土変相図の事例【4～5週】</li> <li>3．法華経変相図の事例【4～5週】</li> <li>4．維摩経変相図の事例【3～4週】</li> <li>5．フィードバック【1週】</li> </ol>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する 必要な資料を配付する。</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 稲本 泰生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>唐宋時代の敦煌絵画を主な対象として重要作例を選定し、その読解を起点として図像解釈上の諸問題を論じる。基本的に以下のプランに随って講述を進めるが、担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、テーマ毎の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義の視点と問題意識【1～2週】</li> <li>2. 弥勒変相図の事例【3～4週】</li> <li>3. 薬師変相図の事例【2～3週】</li> <li>4. 観音菩薩図の事例【2～3週】</li> <li>5. 地藏菩薩図の事例【2～3週】</li> <li>6. 高僧図・羅漢図・密教図像の事例【2～3週】</li> <li>7. フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する  
必要な資料を配付する。

[授業外学修(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系110

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リズムの哲学									
【授業の概要・目的】											
リズムは音楽の根源である。リズムを欠いた音楽は音楽ではない。しかしリズムは、例えば労働やスポーツや演劇、さらには絵画（例えば印象派における「タッチ」）など、人間のあらゆる活動の基底でもある。この授業ではヨーロッパの音楽ならびに音楽思想を通して、リズムとは何かを問う。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
第一回～第三回：生の哲学のリズム論（ベルグソン、クラークス、エルンスト・クルトのリズム哲学を扱う） 第四回～第六回：リズムとビート（パルス）の違い（定量記譜法、小節線の誕生、時計の進歩、そしてニュートンの時間などを参照しつつ、西洋音楽のデジタル性＝離散性について考える） 第七～第八回：木村敏の時間論とリズム 第九回～第十回：リオタールの非人間の哲学とリズム 第十一～第十二回：レヴィ＝ストロースのポレロ論 第十三回～第十五回：「音楽の散文」の概念史（ワーグナーおよびシェーンベルクの著作に即し、スクエアに分節された時間からの音楽の解放の歴史をたどる）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

木村敏 『時間と自己』(中公新書)  
山崎正和 『リズムの哲学ノート』(中央公論社)  
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リズム史としての西洋音楽史									
【授業の概要・目的】											
人間がどう時間を感じていたか それは音楽の中に如実にあらわれる。この授業ではネウマ譜に代わって定量記譜法が登場した中世、小節線が引かれるようになったバロック、そして小節線のスクエアな時間からの解放を探究した20世紀を中心として、時間意識の変化としての西洋音楽史を辿る。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
第一回から第三回：リズムとビートは違う（ウィーン古典派で確立された拍節リズム、ロマン派の時代に出てきた音楽の散文の概念、モダン・ジャズにおけるポリリズム、1970年代の西ドイツにおけるクラウトロックを検討する） 第四回～第六回：時間計測としての音楽史（ネウマ譜からの定量記譜法の誕生、小節線の誕生、拍節リズムの誕生を扱う） 第七回～第八回：時間を逆行させる夢（マショー、アルバン・ベルクと十二音技法、メシアンの逆行不能のリズムを扱う） 第九回～第十一回：シュトックハウゼンの音楽論（トータルセリーの危機、点の音楽、群の音楽、時間と空間の同一性を論じる） 第十二回～第十三回：クセナキスと確率論 第十四回～第十五回：ジョン・ケージ（プリペアドピアノにおける極度に管理された時間から4分33秒における無分節の時間への移行および近藤譲の「線の音楽」について）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回レジメを配る予定。

**[参考書等]**

(参考書)  
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系112

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学美術学部 教授 加須屋 明子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代美術研究									
【授業の概要・目的】											
多様化する同時代における、現代美術の様々なありかたを考察する。具体的には、60年代以降のいわゆる現代美術の諸様相を検討しつつ、とりわけ近年顕著になった社会的関与芸術の成り立ち、それがどのように社会状況と関わりながら美術が変容してきたのかを考える。											
【到達目標】											
現代美術の成り立ちについて理解し、西欧諸国のみならず、旧東欧地域における美術の様相について基本的事項を知り、同時代の芸術表現について積極的に関わり、論述する姿勢を養う。											
【授業計画と内容】											
1 授業概要，ガイダンス【2週】 2 教育におけるプロジェクト【3週】 有用芸術 3 三部構成のプロジェクト【2週】 政治と芸術、その問題点 4 共同作業【3週】 パフォーマンス、SEAの評価 5 理想としての教育【2週】 6 美的教育【2週】 7 まとめ【1週】											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
評価方法： レポート											
【教科書】											
使用しない 適宜、プリント資料等を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) クレア・ビショップ 『人工地獄』(フィルムアート) 加須屋明子 『ポーランドの前衛美術』(創元社) 山本浩貴 『現代美術史』(中央公論新社)											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

アーサー・C. ダントー他 『アートとは何か: 芸術の存在論と目的論』 (人文書院)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

積極的な予習復習を歓迎します

(その他 (オフィスアワー等) )

質問等はメールで [kasuya@kcua.ac.jp](mailto:kasuya@kcua.ac.jp) まで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 樋口 一貴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		浮世絵研究									
【授業の概要・目的】											
<p>おそらく、日本の美術を代表するジャンルの一つと世界的に認知されている浮世絵。葛飾北斎が世界で最も著名な日本人アーティストと喧伝されたことも記憶に新しい。しかし、いまだ北斎はじめ歌麿・写楽・国芳など一部の有名絵師が点として取りあげられる傾向が強いのが現状の出版界・美術館界である。本講義では、近世初期に浮世絵の母体が発生してから盛期を経て明治期の終焉までを流れとして理解することを目的とする。浮世絵の大きな画題として美人画・役者絵・風景画があるが、それらの意義と特徴を明らかにしてゆく。また、春画についても特別視すること無く浮世絵の一ジャンルとして触れる。</p>											
【到達目標】											
<p>浮世絵の発生と展開を流れとして理解するとともに、諸画題の特徴や画期となった絵師について自己の視点を持って考察ができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近世初期風俗画</li> <li>2. 一人立ち美人図</li> <li>3. ウキヨ</li> <li>4. 初期浮世絵</li> <li>5. 錦絵と美人画の時代</li> <li>6. 大首絵</li> <li>7. 風景画</li> <li>8. 幕末～明治の浮世絵</li> <li>9. 肉筆浮世絵</li> <li>10. 見学会</li> <li>11. 見学会</li> <li>12. 見学会</li> <li>13. 見学会についてディスカッション</li> <li>14. 春画</li> <li>15. 浮世絵の雅と俗</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 美学美術史学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業日ごとに提出するコメント・シートを含む平常点(40%)、および授業後の課題レポート(60%)により評価する。具体的な作品に基づき、自己の観点から分析できているものを高く評価する。

### [教科書]

使用しない  
プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

大久保純一 『浮世絵』(岩波新書、2008年)

小林忠編 『浮世絵の歴史』(美術出版社、1998年)

浅野秀剛 『浮世絵細見』(講談社選書メチエ、2017年)

内藤正人 『うき世と浮世絵』(東京大学出版会、2017年)

『日本美術全集 15 浮世絵と江戸の美術』(小学館、2014年)

『浮世絵聚花 全18巻』(小学館、1978~85年)

『肉筆浮世絵大観 全10巻』(講談社、1994~97年)

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に江戸時代の歴史的概略を把握しておくことが望ましい。とりわけ浮世絵と隣接する文学や芸能、服飾などの諸ジャンルは、作品分析の前提となる場合もある。授業内で扱える絵師と作品数には限りがあるので、図録類を用いて予習・復習をされたい。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系114

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
【授業の概要・目的】											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
【到達目標】											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
【授業計画と内容】											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) ロマン主義美学の基本形、2) 崇高、3) 芸術と真理、4) ロマン主義美術、5) 20世紀美術における反ロマン主義、6) デュシャン、7) 「作者の死」、8) 20世紀美術におけるロマン主義の残存、9) 「不可視なもの」の可視化、10) リオタールと前衛的崇高、11) 抽象の宗教性、12) 現代美学におけるロマン主義批判、13) バディウと「非美学」、14) 「試作品」としての芸術。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>											
【履修要件】											
後期の連続的な履修が望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。											
【教科書】											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) Nicolas Bourriaud 『Relational Aesthetics』 (Les Presse Du Reel)											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系115

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
【授業の概要・目的】											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
【到達目標】											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
【授業計画と内容】											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) ロマン主義と反ロマン主義、2) 狂気と創造性の歴史、3) 神的狂気、4) 「阿呆船」、5) 舞台に登場する道化、6) 「大いなる閉じ込め」、7) 天才と狂気、8) アル・プリュット、9) プリンツホルンと『精神病者の創造』、10) ヴェルフリ、11) 草間彌生と芸術の境界、12) 前衛/アウトサイダー、13) アートワールドにおける内外の問い直し、14) 「病を生きる」こと。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>											
【履修要件】											
前期の連続的な履修が望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。											
【教科書】											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) ジャン・ウリ 『コレクティブ：サン・タンヌ病院におけるセミナー』(月曜社)											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34											
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都工芸繊維大学 工芸学部 准教授				永井 隆則	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		モダン・デザインの成立と解体から現代デザインへ											
【授業の概要・目的】													
<p>ウィリアム・モリスからバウハウスに至るまでのモダン・デザインの成立過程を説明した上で、スタイリング・デザインや北欧のデザインの展開に加えてポスト・モダン・デザインの誕生によってモダン・デザインが解体される経緯を明らかにする。</p> <p>また、ポスト・モダン・デザイン後の現在に至るまでの現代デザインの動向についても講じる。</p>													
【到達目標】													
<p>モダン・デザイン、ポスト・モダン・デザイン、現代デザインに関する知識を、コンセプト、スタイリング、思想の3つの観点から習得できる。また、3つのデザインの動向が歴史的にどのような経緯で交代していったのかを理解できるようになる。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 デザインとは何か？</p> <p>第2回 デザイン史とは何か？</p> <p>第3回 ウィリアム・モリスとアーツ・クラフト運動</p> <p>第4回 アール・ヌーヴォー（ベルギー、フランス）</p> <p>第5回 ユーгентシュティール、ウィーン分離派、ウィーン工房</p> <p>第6回 スペイン、アメリカ、日本におけるアール・ヌーヴォー</p> <p>第7回 ジャポニズムのデザイン</p> <p>第8回 未来派とダダ</p> <p>第9回 アール・デコとピュリスム</p> <p>第10回 デ・スティール</p> <p>第11回 ロシア・アヴァンギャルド</p> <p>第12回 ドイツ工作連盟とバウハウス</p> <p>第13回 バウハウスの受容と展開（アメリカと第二次世界大戦後のドイツ）</p> <p>第14回 ポスト・モダン・デザイン</p> <p>第15回 現代デザインの動向</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
レポート(100%)達成目標に従った達成度を評価する。													
【教科書】													
永井隆則 『越境する造形—近代の美術とデザインの十字路』（昱洋書房、2003）													
永井隆則 『デザインの力』（昱洋書房 2010）													
永井隆則 『モダン・アート論再考—制作の論理から』（思文閣出版 2004）													
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----													

美学美術史学(特殊講義)(2)

永井隆則 『セザンヌー近代絵画の父とは何か』 (三元社 2019)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に教科書の中の幾つかの論文を復習として精読するように指示する。

(その他(オフィスアワー等))

演習II(英、仏、独)を受講する事が望ましい。

質問等の連絡は以下のメールでお願いします。

t-nagai@kit.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
【授業の概要・目的】											
江戸時代の個性的な絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
【到達目標】											
先行研究を確認することで江戸絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
【授業計画と内容】											
前期は、いわゆる琳派を取り上げ、画家たちの伝記及び作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1 序論 琳派概念とその研究史											
2 本阿弥光悦の伝記											
3 本阿弥光悦の作品											
4 本阿弥光悦と法華宗											
5 俵屋宗達の伝記											
6 俵屋宗達の作品											
7 尾形光琳の伝記その1											
8 尾形光琳の伝記その2											
9 尾形光琳の作品その1											
10 尾形光琳の作品その2											
11 尾形乾山の伝記											
12 尾形乾山の作品その1											
13 尾形乾山の作品その2											
14 江戸琳派											
15 まとめ											
フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



美学美術史学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
【授業の概要・目的】											
江戸時代の個性的な絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
【到達目標】											
先行研究を踏まえて江戸時代絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
【授業計画と内容】											
後期は江戸時代の文人画家を取り上げ、その伝記及び作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1 序論											
2 初期文人画の作家たち											
3 与謝蕪村の伝記と作品											
4 池大雅の伝記と作品											
5 浦上玉堂の研究史											
6 浦上玉堂の伝記その1											
7 浦上玉堂の伝記その2											
8 浦上玉堂の作品その1											
9 浦上玉堂の作品その2											
10 浦上玉堂の作品その3											
11 田能村竹田の伝記その1											
12 田能村竹田の伝記その2											
13 田能村竹田の作品その1											
14 田能村竹田の作品その2											
15 まとめ											
フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		描写の哲学と現代の文化									
【授業の概要・目的】											
<p>現代英語圏の美学・芸術哲学（いわゆる分析美学）の下位分野として描写の哲学がある。「描写（depiction）」は、手描きの絵、写真、アニメーションといった画像（picture）一般が何かを表すことを指す。</p> <p>描写の哲学自体はかなり抽象的な問題を扱うものだが（画像はどう定義できるか、画像表象と言語表象などのその他の種類の表象のちがいはどこにあるのか、etc.）、その知見は伝統的な絵画や写真のみならず現代の視覚文化（映画、アニメーション、マンガ、ビデオゲーム、etc.）の実践の理解に少なからず寄与する。</p> <p>この講義では、描写の哲学についての基本的な知識を確認したうえで、それを現代文化の諸相に対して具体的に適用してみることで、理論の有益さと理論ではカバーしづらい文化実践の豊かさについて考える。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・描写の哲学の一部の先行研究と基本概念を理解する。</li> <li>・哲学的な（とくに分析美学的な）理論が何を指してどのように作られるかを理解する。</li> <li>・理論を具体的な文化的対象に適用することで何が得られるかを考える。</li> <li>・現代の視覚文化がそれぞれに持つ独特さを考える。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「うちに見る」という知覚：ウォルハイムの議論</p> <p>第3回 記号としての画像：グッドマン／カルヴィッキの構造説</p> <p>第4回 画像とその内容を記述するための概念</p> <p>第5回 画像とその内容を記述するための概念</p> <p>第6回 リアリズムとデフォルメ</p> <p>第7回 写真の透明性</p> <p>第8回 フィクションの画像とノンフィクションの画像</p> <p>第9回 画像とコミュニケーション：顔文字、絵文字、スタンプ</p> <p>第10回 画像を使う行為とその倫理</p> <p>第11回 キャラクター</p> <p>第12回 デジタル写真とその加工</p> <p>第13回 ビデオゲームのグラフィック</p> <p>第14回 VRと透明性</p> <p>第15回 まとめ（フィードバック）</p>											
<p>授業の進み具合によって、一部のトピックを取り上げない可能性がある。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末：レポート70%  
平常点：30%

期末レポートの課題はおおむね「任意の文化的対象を取り上げ、授業内で紹介した理論を使ってその対象の独特さを説明しなさい(字数自由)」になる予定。

平常点は毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出によってカウントする。コメントの内容は成績に関わらない。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

トピックごとに(もしあれば)参考文献を示すが、授業内では十分な紹介はできないので、関心のあるトピックについては自分で文献を確認することが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

リアクションペーパーは次の授業で取り上げることがあるので、気になることがあれば積極的に書いてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75741 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習Ⅰ) Aesthetics and Art History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 根立 研介 文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美術史学の実地指導									
【授業の概要・目的】											
美術作品が所在する現場に実際に足を運び、実物の美術作品を前にして、美術史学の研究方法の実地指導を行う。											
【到達目標】											
美術作品を実見し、その造形要素を入念に分析することで、美術史研究に必須の様々な情報を集積して考察する能力をさらに向上させる。											
【授業計画と内容】											
京都、大阪、奈良などに所在する美術館や博物館で開催される展覧会と、優れた仏像や障壁画などを所蔵する寺社が、指導の現場となる。見学の詳細については、KULASISの授業連絡メールや美学美術史学専修共同研究室前の掲示などを通じて告知されるので、各々確認すること。作品に対する鑑定眼は美術史研究の基礎であり、多くの作品を実際に見ることによって養われる。したがって、すべての見学会に参加することを原則とする。見学時には、明確な目的意識をもって作品を実見し、適宜メモをとりながら、集中して作品の造形分析を行うこと。											
第1回 インTRODクシヨN：美術作品の実見調査について 第2回～第8回 美術作品の実地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会出展作品を中心に 第9回～第11回 京都の寺社所蔵の美術作品の集中見学 第12回～第14回 美術作品の実地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会出展作品を中心に 第15回 フィードバック：授業の成果と今後の課題について											
【履修要件】											
作品を丹念に観察するという演習の性格上、美学美術史学専修に所属する学生に履修を制限する。また、美学美術史学専修に所属する正規生はできる限り本演習を履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の見学時に課される口頭発表またはレポートにより成績評価を行う。レポート等は到達目標の達成度に基づき評価する。  ・原則として、毎回の見学会の参加を必須とする。 ・入念な準備、明晰な作品分析、的確な論考、独自の創意工夫等が顕著なものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習Ⅰ)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

大学の蔵書を適宜参照すること。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

見学会参加に際しては、見学する作品やその作品を制作した芸術家、作品が制作された時代等に関して専門文献を参照しつつ予習を行い、明確な目的意識をもって見学会に参加できるよう入念に準備すること。また、見学会終了後は、作品見学時に生じた疑問(作品制作の時代背景や作者について、または作品の図像内容や技法等)について、各自、事後学習を行い、美術作品に対する理解をより深めるよう努めること。

**(その他(オフィスアワー等))**

作品保存の観点から、メモを取る際には鉛筆のみ使用可。また、寺社見学に際しては、極度の肌の露出は避け(裸足も不可)、節度ある服装で参加すること。原則として、美学美術史学を専攻する学生は、少なくとも4単位を取得することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75741 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習Ⅰ) Aesthetics and Art History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 根立 研介 文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美術史学の実地指導									
【授業の概要・目的】											
美術作品が所在する現場に実際に足を運び、実物の美術作品を前にして、作品の分析等、美術史学の研究方法の実地指導を行う。											
【到達目標】											
美術作品を実見し、その造形要素を入念に分析することで、美術史研究に必須の様々な情報を集積して考察する能力をさらに向上させる。											
【授業計画と内容】											
京都、大阪、奈良などに所在する美術館や博物館で開催される展覧会と、優れた仏像や障壁画などを所蔵する寺社が、指導の現場となる。見学の詳細については、KULASISの授業連絡メールや美学美術史学専修共同研究室前の掲示などを通じて告知されるので、各々確認すること。作品に対する鑑定眼は美術史研究の基礎であり、多くの作品を実際に見ることによって養われる。したがって、すべての見学会に参加することを原則とする。見学時には、明確な目的意識をもって作品を実見し、適宜メモをとりながら、集中して作品の造形分析を行うこと。											
第1回 インTRODクシヨN：美術作品の実見調査について 第2回～第8回 美術作品の実地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会出展作品を中心に 第9回～第11回 京都の寺社所蔵の美術作品の集中見学 第12回～第14回 美術作品の実地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会出展作品を中心に 第15回 フィードバック：授業の成果と今後の課題について											
【履修要件】											
作品を丹念に観察するという演習の性格上、美学美術史学専修に所属する学生に履修を制限する。また、美学美術史学専修に所属する正規生はできる限り本演習を履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の見学時に課される口頭発表またはレポートにより成績評価を行う。レポート等は到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、毎回の見学会の参加を必須とする。</li> <li>・入念な準備、明晰な作品分析、的確な論考、独自の創意工夫等が顕著なものについては、高い点を与える。</li> </ul>											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											



美学美術史学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)

大学の蔵書を適宜参照すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

見学会参加に際しては、見学する作品やその作品を制作した芸術家、作品が制作された時代等に関して専門文献を参照しつつ予習を行い、明確な目的意識をもって見学会に参加できるよう入念に準備すること。また、見学会終了後は、作品見学時に生じた疑問(作品制作の時代背景や作者について、または作品の図像内容や技法等)について、各自、事後学習を行い、美術作品に対する理解をより深めるよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

作品保存の観点から、メモを取る際には鉛筆のみ使用可。また、寺社見学に際しては、極度の肌の露出は避け(裸足も不可)、節度ある服装で参加すること。原則として、美術史学を専攻する学生は、少なくとも4単位を取得することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画作品の解釈をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を一層深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で執筆された美術史に関する専門的な文献を、適確に読解する能力を習得する。</li> <li>・美術史学におけるイメージ解釈についての知見を、さらに深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度は、昨年度に引き続き、Oskar Bätschmann, Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik (Darmstadt, 1986; 2001) の精読を通じて、「絵画作品の解釈」をめぐる諸問題について理解を深めるとともに、美術史学の思考法について多角的に考察する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明するとともに、昨年度の学習事項のまとめを行う。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 上記論文集の所収論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第2,3回 「イメージ」とは何か 第4,5回 ジャコメッティのラファエロ解釈をめぐって 第6,7回 モーリス・ドニの絵画定義 第8回 ポール・ヴァレリーの手法 第9回 ゼーデルマイヤーの「マッキア」 第10回 文字とイメージ 第11回 読むことと見ること 第12回 イメージはテキストか？ 第13回 シャルル・ルブランとディズニー 第14回 美術史的解釈学</p> <p>《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明します）</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(演習II)(2)

### 【履修要件】

- ・初級ドイツ語を習得していること。
- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって熱心に授業に参加してほしい。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、40点）と期末試験（60点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

### 【教科書】

Osker Bätschmann 『Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik』（Darmstadt, 1984/2001）  
講読テキストはプリントで配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業に際しては、あらかじめテキストを各自精読し、不明な単語を調べ、文法構造を正しく理解し、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

### （その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系123

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学史研究・講読篇 ヘルダー『カリゴネー』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、哲学的美学にかんするドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について理解を深めることを目指す。今学期は、近代美学の出発点を告げるカント『判断力批判』に対する最初期の批判の一つである、ヘルダー(Johann Gottfried Herder, 1744-1803)の『カリゴネー』を講読し、それを通じて非勝利者史観的美学史記述の可能性を探る。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた哲学的美学の古典を的確に読解する能力を習得する。</li> <li>・美学史についての知見を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業は原典講読の演習であり、受講者の人数およびドイツ語読解能力によって進度は大きく異なるため、本シラバス執筆時点で毎回の予定を明確に示すことはできない。以下の計画は、あくまで目安として読んでほしい。また、多様な話題を含むテキストであるため、受講者の興味関心を勘案して講読箇所を選定することも視野に入れている。</p> <p>第1回導入（講読予定のテキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する）</p> <p>第2回第1部「快適と美」1「下級感官の快適」前半</p> <p>第3回同上後半</p> <p>第4回同2「形態の快適」前半</p> <p>第5回同上後半</p> <p>第6回同3「輪郭、色そして音における美と快適」前半</p> <p>第7回同上後半</p> <p>第8回同4「美の概念に対する生き生きとした形態の意義」前半</p> <p>第9回同上後半</p> <p>第10回同5「名称の誤用」前半</p> <p>第11回同上後半</p> <p>第12回同6「美の規則」前半</p> <p>第13回同上後半</p> <p>第14回まとめと補足（きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回を講読に充てる）</p> <p>第15回フィードバック</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(演習II)(2)

### 【履修要件】

ドイツ語の初級文法を習得しており、程度に差はあれ、辞書があればドイツ語の文章が読解できること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（毎回の訳読および議論への参加状況）60% + 期末レポート（独文エッセイ）40%によって評価する。

理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には、単位認定を行わない。

### 【教科書】

コピーして配布する。なお、標準的な全集であるズプハン版全集(Sämtliche Werke, hg. von Bernhard Suphan, 33 Bde., Berlin 1877-1913. 『カリゴネー』は第22巻所収)は2020年12月17日現在全巻全文オンラインで閲覧・ダウンロード可能（後掲「関連URL情報」を参照、ただしフラクトゥーア = 髭文字）。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://books.google.co.jp/books?id=zCcpAAAAYAAJ>(ズプハン編全集第22巻)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

講読箇所を翻訳して授業に臨むこと。単に日本語に置き換えるだけでなく「なぜそう訳したのか」と問われて答えられるようにしておくこと。不明点は何が（文法なのか語意なのか内容なのか）不明なのかを可能な限り明確にし、授業中にその疑問を解消するよう努めること。

### （その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34											
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都工芸繊維大学 工芸学部 准教授				永井 隆則	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		セザンヌ受容の研究(オンライン授業)											
【授業の概要・目的】													
フランスの画家、ポール・セザンヌ ( Paul Cezanne,1839-1906)のフランスにおける受容の問題について、以下を講読しながら講じる。 (昨年度の継続です)													
Laure Caroline Semmer,Cezanne, une histoire francaise,Scala,Paris,2011													
【到達目標】													
「受容」研究の方法論的前提と具体的手法に関する知識を習得できる。													
【授業計画と内容】													
第1回 ガイダンス ( 受講者の受講動機、専門分野等に関してアンケートを実施する )													
第2回 アンケートに基づいて、受講者一人一人に情報提供を行う。													
第3回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第4回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第5回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第6回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第7回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第8回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第9回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第10回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第11回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第12回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第13回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第14回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。													
第15回 フィードバック ( アンケートを実施し、学生諸君に、授業に関する疑問点、改善点等や今後の課題に関して回答して頂き、教員がこれにお応えする )													
【履修要件】													
講読予定のフランス語テキストはガイダンスの日に配布する。 フランス語文法の基礎知識を身につけていること。													
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----													

## 美学美術史学(演習II)(2)

### [成績評価の方法・観点]

毎回の講読での翻訳発表（平常点：50点）と各自が各自の専門として選んだテーマに関するフランス語テキストの翻訳（レポート：50点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

### [教科書]

永井隆則 『モダン・アート論再考－制作の論理から』（思文閣出版）  
永井隆則 『フランス近代美術史の現在－ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から』（三元社）  
永井隆則 『方法と探求 フランス近現代美術史を解剖する』（晃洋書房）  
永井隆則 『<場所>で読み解くフランス近代美術』（三元社）  
永井隆則 『セザンヌ受容の研究』（中央公論美術出版）

### [参考書等]

（参考書）

永井隆則 『もっと知りたいセザンヌ』（東京美術）  
永井隆則 『越境する造形－近代の美術とデザインの十字路』（晃洋書房）  
永井隆則 『デザインの力』（晃洋書房）  
永井隆則 『セザンヌ 近代絵画の父とは何か』（三元社）  
永井隆則/大高保二郎 『ピカソと人類の美術』（三元社）

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎回、講読を予定する頁を翻訳しておくこと。  
適宜、教科書や参考書の中で指定した箇所を精読するよう補習を促す。

### （その他（オフィスアワー等））

授業は完全オンラインで実施します。PandAから毎回リンク先を開いて参加して下さい。

授業中、終了後、メール等で随時、質問、相談に応じます。

アドレス：

t-nagai@kit.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸学院大学人文学部 講師 倉持 充希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画における感情表現									
【授業の概要・目的】											
<p>・本演習では、西洋美術に関するフランス語の専門書の精読を通じて、フランス語の読解力を高めると同時に、絵画における感情表現について考察することを目的とする。</p> <p>・具体的には、1667年にフランス王立絵画彫刻アカデミーで開催された講演のうち、ニコラ・プッサン作《マナの収集》に関するシャルル・ル・ブランの講演録を精読し、身振りや表情による感情表現について考察する。加えて、物語画を分析する様々な論点や専門用語、視覚芸術における時間表現についても検討し、草創期の美術アカデミーにおいて物語画がいかに議論されたのかを学ぶ。</p> <p>Mérot, Alain (ed.). Les Conférences de l' Académie royale de peinture et de sculpture au XVIIIe siècle, Paris, 1996.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。</li> <li>・17世紀の物語画における身振りや表情による感情表現の手法について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション まず、講読テキストの概要について説明し、内容の理解を助ける参考文献や予習方法、評価方法を示す。テキストのコピーを配布し、全体的な解説も行うので、受講を希望する人は必ず初回に出席すること。あわせて、受講生の興味関心や専門分野、要望を知るためのアンケートも実施する。</p> <p>第2回～第15回 テキストの精読 授業の冒頭で、テキストの一部を翻訳する小テストを行う。その後、受講者で一文ずつ輪読する。受講者の習熟度によって進度は大きく異なるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね1～2ページ程度を読み進めることになる。必要に応じて、文法事項や専門用語、歴史的事象、研究史などに関して、補足説明をする。</p> <p>フィードバックについては、毎回の小テストを添削して返却することにし、学期末には特に実施しない。疑問点があれば、メールでも回答する。</p>											
【履修要件】											
フランス語の中級以上の知識を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の小テスト(テキストの翻訳:50点)と、期末レポート(自分の専門分野に関わる論文の翻訳:50点)に関して、文法理解・適切な訳文・内容理解という観点から評価する。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											



## 美学美術史学(演習II)(2)

- ・小テストに際しては、予習ノートやテキストの書き込みなどを参照しても良い。
- ・原則として、4回以上欠席した場合は、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

### [教科書]

初回に、講読テキストのコピーを配布する。

Mérot, Alain (ed.). Les Conférences de l' Académie royale de peinture et de sculpture au XVIIIe siècle, Paris, 1996. ISBN : 978-2840561378

### [参考書等]

(参考書)

- ・初回に、以下の参考文献等を紹介し、講読テキストに関する予備知識をつける。  
栗田秀法「王立絵画彫刻アカデミー」『西洋美術研究』2、1999年、53-71頁。  
大野芳材「1667年の「コンフェランス」 宗教画事始（キリスト教と文化（4））」『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』12、2004年、129-146頁。
- ・その他、授業中に紹介し、適宜、必要箇所のコピーを配布する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・予習としては、各自テキストを精読し、不明な単語や文法事項を調べ、適切に翻訳できるように準備しておくこと。文中に登場する固有名詞、図像、参考図版についても、事前に調べておくこと。
- ・復習としては、授業中の発表と解説に基づき、自身の訳文の再検討を行うこと。専門用語の定訳などもまとめておくこと。

### (その他（オフィスアワー等）)

- ・質問や相談は、授業前や授業中に、あるいはメールでも受け付ける。
- ・ラジオやオンライン教材、講演会などを活用し、実践的なフランス語運用能力を養う機会を積極的に設けて欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 江尻 育世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ゴシック期のサンタ・マリア・ノヴェッラ教会(フィレンツェ)の建築									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術史に関するイタリア語専門文献を的確に読解する能力を習得する。</li> <li>・テキストの内容を吟味し、問題意識を持って批判的に専門文献を読む力が身につく。</li> <li>・西洋建築史の専門用語・基礎的知識が身につく。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>主として、Fulvio Cervini, "《Non racchiude l'indefinito gotico》. L'orizzonte internazionale di una novella architettura" in Santa Maria Novella. La basilica e il convento, v.1 (a cura di Andrea De Marchi), Firenze 2015, pp. 37-85 を取り上げ、文献の講読を通じて、ゴシック期のサンタ・マリア・ノヴェッラ教会の建築について理解することを目指す。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストについて、概要を紹介する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを案内し、授業の進め方と準備の方法について説明する。また、出席者の担当部分を決定する(履修人数によっては、事前に担当部分を決めない)。</p> <p>第2回～第14回 論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進捗は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初級以上のイタリア語を習得していること。</li> <li>・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識を持ち、未知の用語は事前に調べるなどして、積極的に授業に参加してほしい。</li> </ul>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

## 美学美術史学(演習II)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、50％）と期末試験（50％）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・授業を欠席した場合は、減点の対象となる可能性がある。
- ・原則として、授業を4回以上欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

### [教科書]

講読テキストは印刷して配付する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業の準備として、各自テキストを精読し、不明な単語は調べておくこと。また、文法構造を正しく理解するよう努め、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

### （その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 7M286 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習III) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 根立 研介 文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学美術史学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文の作成に向けて、受講者全員が各自設定した美学美術史学に関する問題について口頭発表を行い、研究を進展させることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の問題意識に基づき研究課題を設定し、関連する研究動向を把握し、先行研究を的確かつ批判的に理解しうる高度な能力を身につける。</li> <li>・各自設定した研究課題について先行研究を踏まえたうえで新知見をもって対処する力量や、論文執筆にあたり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量をさらに向上させる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>受講者各自が修士論文および博士論文を視野に研究テーマを設定し、作成した原稿に基づき、1時間程度の発表を行う。発表に際しては、必要に応じて、パワーポイント等で画像資料を提示する、ビデオ等で映像資料を映写するなど、各自工夫すること。発表後は全員で内容についての討論を行い、問題意識を共有することとする。</p> <p>第1回 ガイダンス：研究課題の設定について          第2回～第14回 研究発表および討論          第15回 フィードバック：今後の課題について</p>											
[履修要件]											
美学美術史学専修に所属する正規生に限る。専修の正規生は必ず参加してください。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>研究発表および討論への参加の度合いにより評価する。研究発表については到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、毎回の演習への出席を必須とする。</li> <li>・入念な準備、的確な問題設定と論考、新知見等が顕著なものについては、高い点を与える。</li> </ul>											
----- 美学美術史学(演習III)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習III)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

各自の問題設定に応じて、必要となる先行研究や参考図書を早めに入手し、研究の適切な遂行に努めること。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

各自の研究の根幹をなす重要な演習なので、できるだけ早い時期にテーマを決定し、常時問題意識を念頭において研究を進め、充実した研究発表を行うことが求められる。また、関連する芸術作品に直接触れる機会を有するよう、常に努力してほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

研究テーマの選定や参考書籍についての疑問がある場合は、出来るだけ早目に教員に相談すること。また、画像資料、映像資料の処理法に関しても、適宜相談を受け付けている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 7M286 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習III) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 根立 研介	文学研究科 教授 平川 佳世	文学研究科 准教授 杉山 卓史	文学研究科 准教授 筒井 忠仁
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学美術史学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文の作成に向けて、受講者全員が各自設定した美学美術史学に関する問題について口頭発表を行い、研究を進展させることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の問題意識に基づき研究課題を設定し、関連する研究動向を把握し、先行研究を的確かつ批判的に理解しうる高度な能力を身につける。</li> <li>・各自設定した研究課題について先行研究を踏まえたうえで新知見をもって対処する力量や、論文執筆にあたり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量をさらに向上させる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>受講者各自が修士論文および博士論文を視野に研究テーマを設定し、作成した原稿に基づき、1時間程度の発表を行う。発表に際しては、必要に応じて、パワーポイント等で画像資料を提示する、ビデオ等で映像資料を映写するなど、各自工夫すること。発表後は全員で内容についての討論を行い、問題意識を共有することとする。</p> <p>第1回 ガイダンス：研究課題の設定について          第2回～第14回 研究発表および討論          第15回 フィードバック：今後の課題について</p>											
[履修要件]											
美学美術史学専修に所属する正規生に限る。専修の正規生は必ず参加してください。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>研究発表および討論への参加の度合いにより評価する。研究発表については到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、毎回の演習への出席を必須とする。</li> <li>・入念な準備、的確な問題設定と論考、新知見等が顕著なものについては、高い点を与える。</li> </ul>											
----- 美学美術史学(演習III)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習Ⅲ)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

各自の問題設定に応じて、必要となる先行研究や参考図書を早めに入手し、研究の適切な遂行に努めること。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

各自の研究の根幹をなす重要な演習なので、できるだけ早い時期にテーマを決定し、常時問題意識を念頭において研究を進め、充実した研究発表を行うことが求められる。また、関連する芸術作品に直接触れる機会を有するよう、常に努力してほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

研究テーマの選定や参考書籍についての疑問がある場合は、出来るだけ早目に教員に相談すること。また、画像資料、映像資料の処理法に関しても、適宜相談を受け付けている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。